

## Ⅱ 調査結果の分析

## 1. 学生生活の満足度

### Summary

学生の学生生活に関する満足度について、(1) 学部ごとの特徴、(2) 学年、(3) 入試形態、(4) 課外活動への参加の4つの観点から分析した。その結果、全ての学部に所属する学生の約80%以上が「満足している」と考えていることが明らかとなった。また、学年の違いによる満足度の顕著な差は無いと考えられるものの、帰国生徒入学試験や外国人留学生入学試験を用いて入学した学生の「満足している」と回答した割合が一般入学試験やセンター利用入学試験に比べて低いことがわかった。

Q1. あなたは現在、今の学生生活にどの程度満足していますか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- |               |            |
|---------------|------------|
| 1 満足している      | 2 やや満足している |
| 3 あまり満足をしていない | 4 満足していない  |

ここでは、学生の学生生活に関する満足度について、主に(1) 学部ごとの特徴、(2) 学年、(3) 入試形態、(4) 課外活動への参加の4つの観点から分析する。

本学全体の傾向では、学生生活に「満足している」と答えた学生が34.1%を占め、「やや満足している」と答えた学生が51.3%を占めている。合わせて85.4%であり、多くの学生が関西学院大学での学生生活に満足していると言える。また、はっきりと「満足していない」と答えた学生は2.1%しかいないことから、大学全体として学生にとって意味のある場を提供することができていると考えられる。

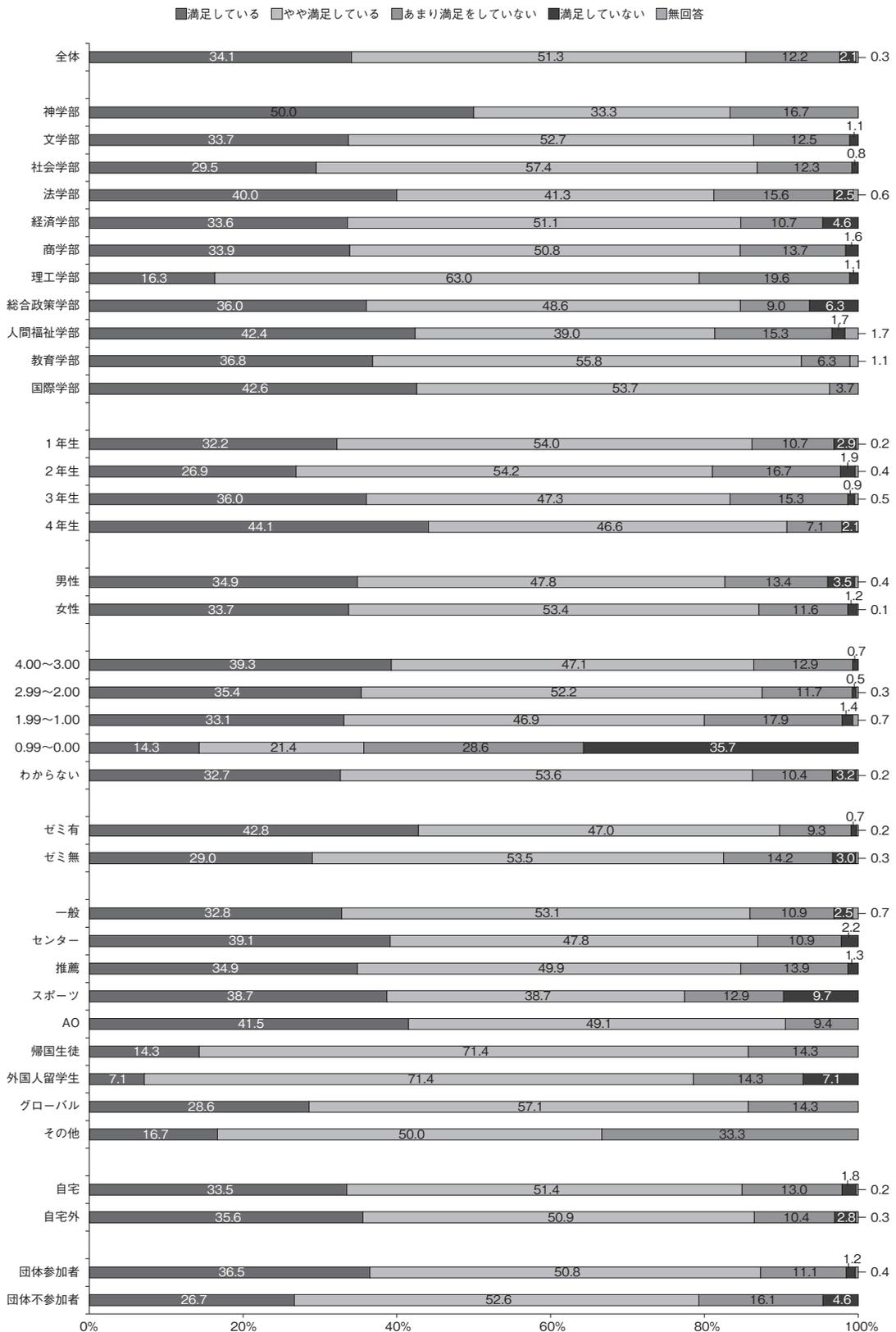
(1) 学部ごとで比較した際にも、学生の満足度は明確に表れている。全ての学部において80%程度の学生が「満足している」もしくは「やや満足している」と回答しており、本学に入学した学生はどの所属学部においても満足できる学生生活を過ごしていると言える。

(2) 満足度を学年ごとに比較した場合、4年生の満足度が90.7%と最も高く、次いで1年生の86.2%、3年生の83.3%、2年生の81.1%であった。年々数値が上がっていく訳ではないが、どの学年も大いに満足し進級・卒業していると言える。

(3) 学生生活の満足度を入試形態別にみると、形態によって「満足している」に大きな差があると言える。特に、帰国生徒入学試験や外国人留学生入学試験を利用した学生は、それぞれ14.3%と7.1%であり、それらは一般入学試験を利用した学生の32.8%やセンター利用入学試験を利用した学生の39.1%と大きく離れていることがわかる。

(4) 正課外活動への参加に関しては、多くの学生が体育会や文化系の部活動、学内のサークルに参加しており、学生生活に満足しているものの、クラブ・サークルや団体に所属していない学生たちも学生生活についておおよそ満足していることが明らかになった(「満足している」と「やや満足している」の合計が79.3%)。これは、本学においては正課の授業や学生間の人間関係、大学が提供する様々なサービスなどに対する満足度が高く、学内の正課外活動に不参加だったとしてもそれが大学生生活の満足度に対して影響を与えていない可能性を示唆していると考えられる。

図Ⅱ-1 学生生活の満足度



## 2. 授業への出席度

### Summary

学生たちは授業に出席する中で出席を取る科目をある程度意識していることが明らかとなった。また、4年生は履修する全ての科目に出席する割合が低く、1年生は高い傾向にある。履修する全ての授業に出席する割合が最も低いのは、スポーツ選抜入学試験を利用した学生であった。

Q 2. あなたは授業にはどの程度出席しますか。最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 履修科目のすべてに出席する
- 2 必修科目はすべて出席し、他は出席をとる科目だけ出席する
- 3 必修科目と必修科目以外から好きな授業科目を選んで出席する
- 4 必修科目のみ出席する
- 5 その他

ここでは、授業への出席度について（1）学部、（2）学年、（3）GPA、（4）入試制度の3つの観点から分析する。

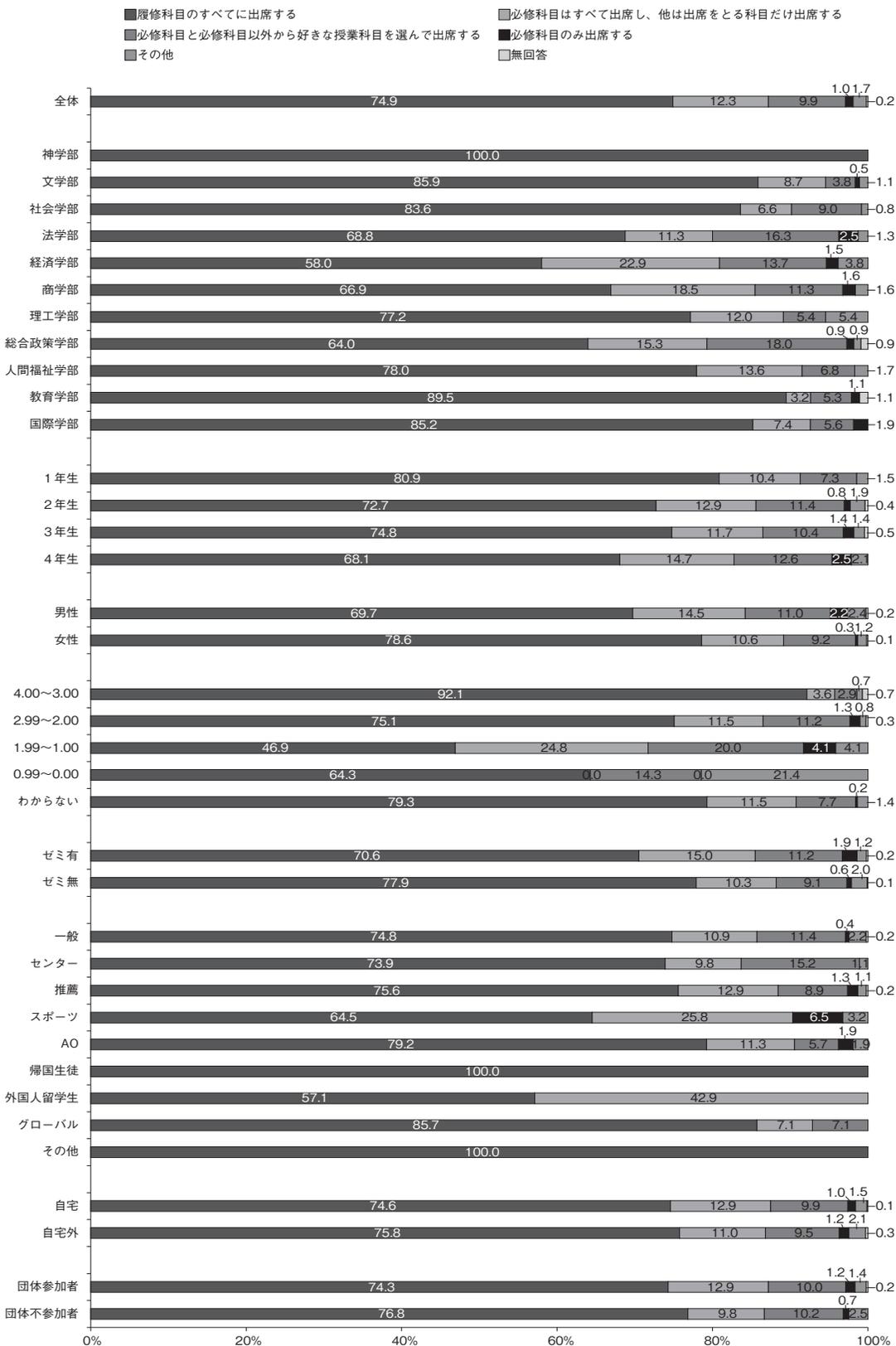
11学部の中で「履修科目のすべてに出席する」と回答した学生の割合が最も高かったのは神学部の100%で、その次が教育学部の89.5%である。どの学部にも、必修科目に出席した上で出席を取る科目だけ出席する学生が一定数いることから、学生が出席管理されることを念頭に置いて日々の授業を受けていることがわかる。

学年別で見た際に、履修科目全てに出席していると答えた人数が最も多いのは1年生で、最も低いのは4年生であった。具体的には、1年生の80.9%が履修科目全てに出席しているのに対して4年生は68%であった。上位年次の学生の出席率が低い要因として、学年が上がるにつれて就職活動に対する意識が高まることが挙げられる。しかしながら、3年生、4年生の「必修科目はすべて出席し、他は出席をとる科目だけ出席する」の数値を合わせるとどの学年も80%以上になることから、本学の授業に対する出席率は概ね問題がない数値だと考えることができる。

GPA 別で見た際に、履修科目すべてに出席していると答えた人数が最も多いのはGPAが3.00～4.00の学生で、最も低いのが1.00～1.99の学生であった。

入試区分別で見ると、履修科目すべてに出席すると回答した割合が最も低かったのは、スポーツ選抜入学試験を利用した学生たちであった。これには、日々の部活動が関連していると考えられる。

図Ⅱ-2 授業への出席度



### 3. 各項目の費やす時間

#### Summary

1週間に10科目以上出席している学生（週に16時間以上を選択している学生）は、62.7%となった。一方で、授業関連学習（予習・復習・宿題）において1日あたりの学習時間が1時間以下の学生（週に5時間以下を選択している学生）は76.9%を占める結果となった。また、51.2%の学生が授業外の学習（専門学校・資格取得に向けた学習など）に参加しており前回調査時より大幅に増加した。クラブ・サークルや仕事・アルバイトに参加していない学生は約3割と前回同様であった。大学の授業時間を除いて滞在時間が全くない学生は、12.8%存在し、また学年が上がるにつれその傾向にあることがうかがえる。

Q3. あなたが1週間（7日間）に、下記①～⑥の項目ごとに費やす時間を以下の1から9の中から選択して、記入してください。

- |                             |                    |             |
|-----------------------------|--------------------|-------------|
| ①大学の授業への出席                  | ②授業関連の学習（予習・復習・宿題） |             |
| ③授業以外の学習（専門学校・資格取得に向けた学習など） |                    |             |
| ④クラブ・サークル（課外活動時間など）         | ⑤仕事・アルバイト          |             |
| ⑥大学の授業時間を除いて、大学に滞在している時間    |                    |             |
| 1 全然ない                      | 2 週に1時間未満          | 3 週に1～2時間   |
| 4 週に3～5時間                   | 5 週に6～10時間         | 6 週に11～15時間 |
| 7 週に16～20時間                 | 8 週に21～40時間        | 9 週に41時間以上  |

#### ①大学の授業への出席

1週間（7日間）のうち、大学の授業出席状況において「全然ない」と回答した学生は全体で1.7%存在した。6時間未満は14.3%（前回18.8%）4.5ポイント減、6時間以上16時間未満が20.8%（同22.5%）1.7ポイント減、16時間以上が62.7%（同56.7%）6ポイント増であった。

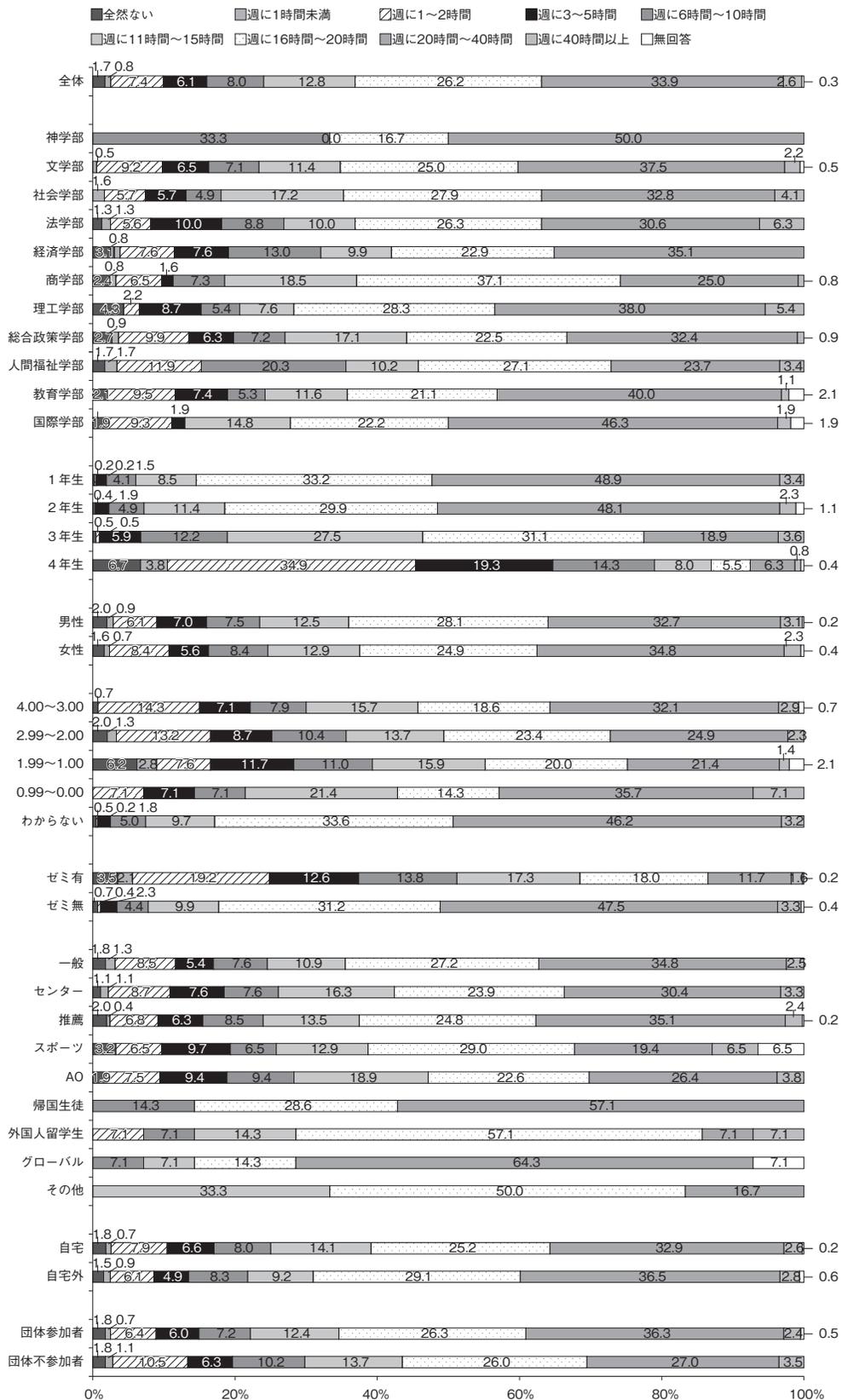
週16時間以上では理工学部71.7%、国際学部が70.4%を示す一方、人間福祉学部54.2%、総合政策学部55.8%であった。また、前回比において文学部64.7%（同53%）11.7ポイント増、国際学部70.4%（同60.1%）10.3ポイント増を示し、1年生85.5%（同78.5%）、2年生80.3%と出席率が高い。

#### ②授業関連の学習（予習・復習・宿題）

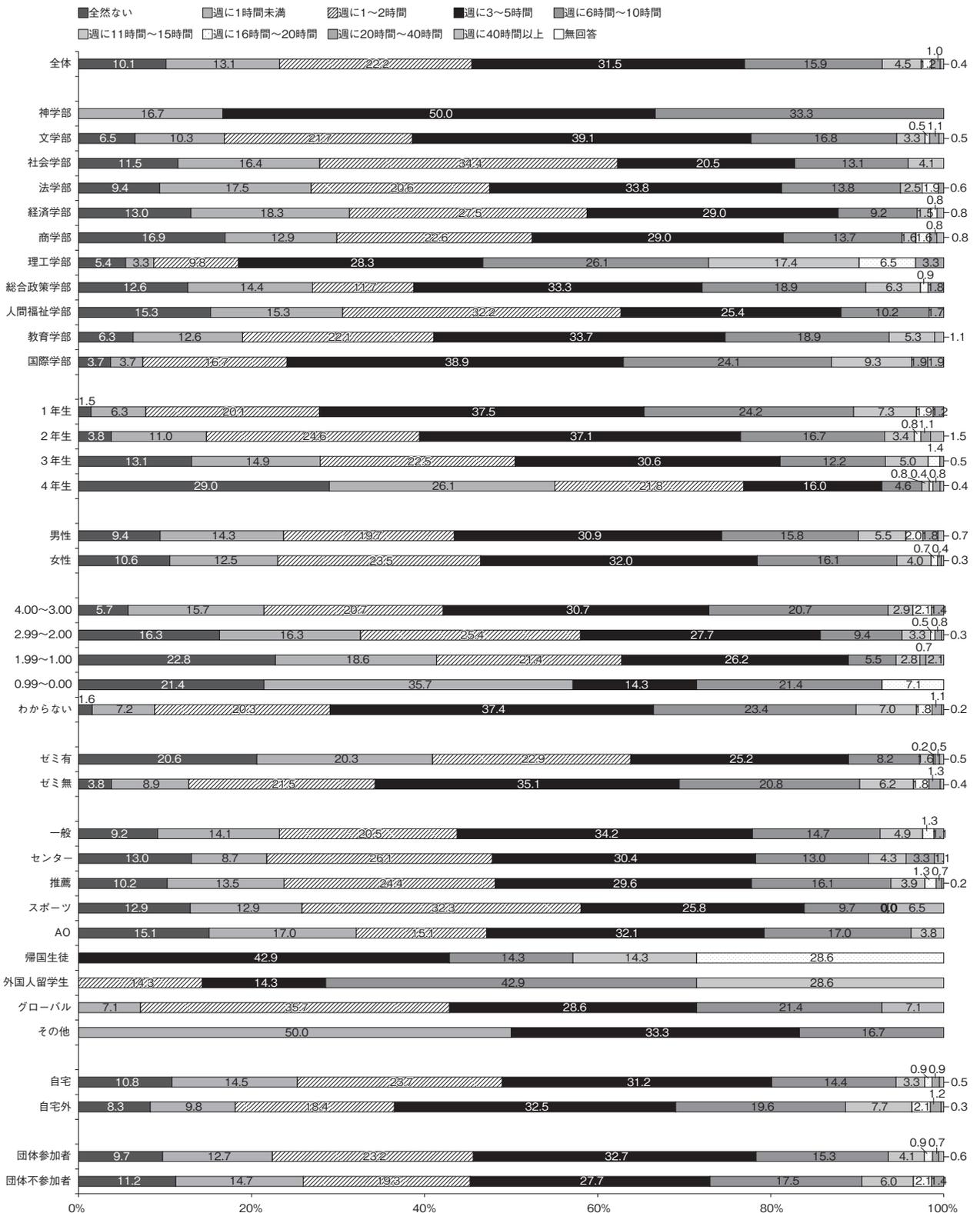
1日あたりの授業関連の学習時間が1時間以下（週に5時間以下を選択）の学生は全体で76.9%を占め、前回とほぼ変わりが無い。6時間未満では特に、経済学部87.8%（同80.4%）7.4ポイント増、文学部77.6%（同71.3%）6.3ポイント増、4年生92.9%（同87.5%）5.4ポイント増、GPA4.00～3.00の学生72.8%（同65.8%）7.0ポイント増、GPA1.99～1.00の学生89.0%（同82.8%）6.2ポイント増、AO入試学生79.3%（同72.1%）7.2ポイント増であった。総じて学年が上がるにつれ学習時間が減少する。

一方、6時間未満の学生が減少傾向にあったのは、社会学部82.8%（同88.5%）5.7ポイント減、理工学部46.8%（同55.1%）8.3ポイント減、教育学部74.7%（同84.7%）10ポイント減、スポーツ選抜入試学生83.9%（同91.5%）7.6ポイント減であった。

図Ⅱ-3-1 各項目の費やす時間 ①大学の授業への出席



図Ⅱ-3-2 各項目の費やす時間 ②授業関連の学習（予習・復習・宿題）



### ③授業以外の学習（専門学校・資格取得に向けた学習など）

専門学校等の授業外の学習を行っていない学生は、47.8%（前回71.4%）と前回調査時に比べ23.6ポイント減となった。これは前回の質問から「資格取得に向けた学習」と授業以外の学習内容を具体的に示したことが要因と考えられる。

1週間のうち6時間未満の授業外学習を行う学生は、全体で38.4%（同18.8%）19.6ポイント増となり、各群においても同様の傾向にある。特に教育学部45.2%（同9.4%）35.8ポイント増、国際学部50.0%（同18.2%）31.8ポイント増、帰国生徒入試学生71.5%（同25%）46.5ポイント増が顕著である。

20時間以上の学生は、法学部6.3%、4年生8.4%、GPA4.00～3.00の学生5.7%、GPA0.99以下の学生が7.1%となった。

### ④クラブ・サークル（課外活動時間など）

全体の33.1%（同31.2%）が、クラブ・サークルなどには参加していない。週に6時間未満の学生は、総合政策学部47.7%（同37.7%）10ポイント増、外国人留学生28.5%（同17.3%）11.2ポイント増、グローバル入試学生35.7%（同25%）10.7ポイント増となった。一方、センター入試学生は、31.5%（同44.4%）12.9ポイント減であった。

また、16時間以上活動する学生は、全体で8.6%（同9.3%）存在し、3年生15.8%（同9.6%）6.2ポイント増、商学部15.3%（同10.1%）5.2ポイント増であった。

### ⑤仕事・アルバイト

1週間のうちアルバイトや仕事に従事する学生は、全体で69.4%（同68.9%）に上り、前回調査とほぼ変わらない。

全然ないと回答した学生は、教育学部30.5%（同22.4%）8.1ポイント増、GPA4.00～3.00の学生26.1%（同19.6%）6.5ポイント増、AO入試学生37.7%（同18.0%）の19.7ポイント増、外国人留学生21.4%（同13.0%）の8.4ポイント増となった。一方、減少傾向にあったのは、スポーツ選抜入試学生48.4%（同63.9%）15.5ポイント減、グローバル入試学生35.7%（同50%）14.3%ポイント減であった。

また、週に6時間未満の学生は、国際学部18.6%（同7.2%）11.4ポイント増、GPA0.99以下学生14.3%（同0%）であった。さらに16時間以上費やす学生は、全体で18.7%（同21.9%）存在し、2年生26.5%（同16.6%）が9.9ポイント増であった。また、16時間以上費やす学生で前年度から減少傾向にあったのは、4年生22.7%（同32.9%）の10.2ポイント減、GPA0.99以下学生28.5%（同62.5%）の34ポイント減、団体不参加者が22.1%（同34.5%）12.4ポイント減となった。

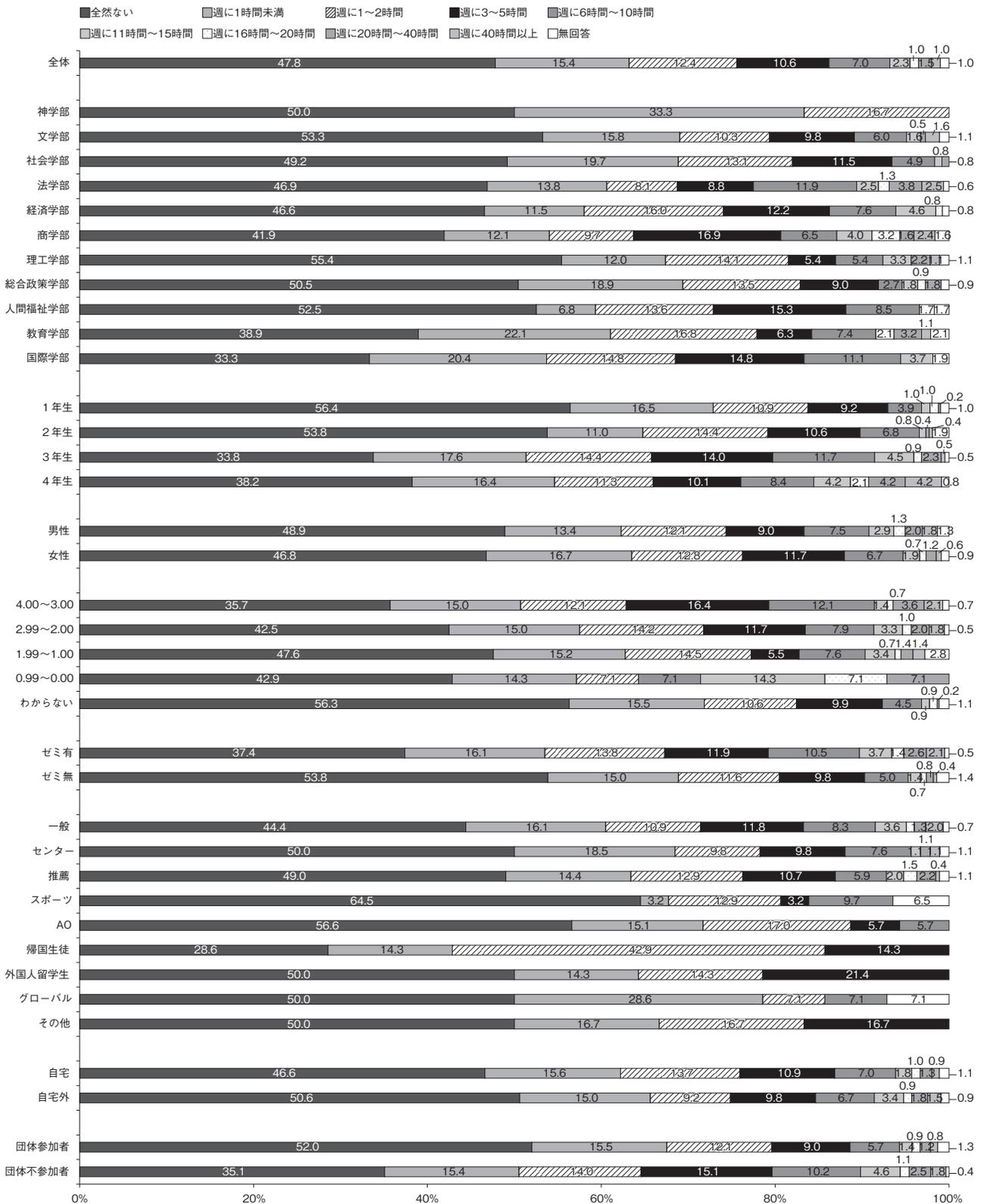
### ⑥大学の授業時間を除いて、大学に滞在している時間

授業時間以外、大学に滞在しない学生は、全体の12.8%（同11.9%）存在する。特に学年が上がるとともにその傾向が高くなり、4年生28.6%（同12.8%）11.3ポイント増となった。また、AO入試学生も22.6%（同6.6%）16ポイント増の結果となった。

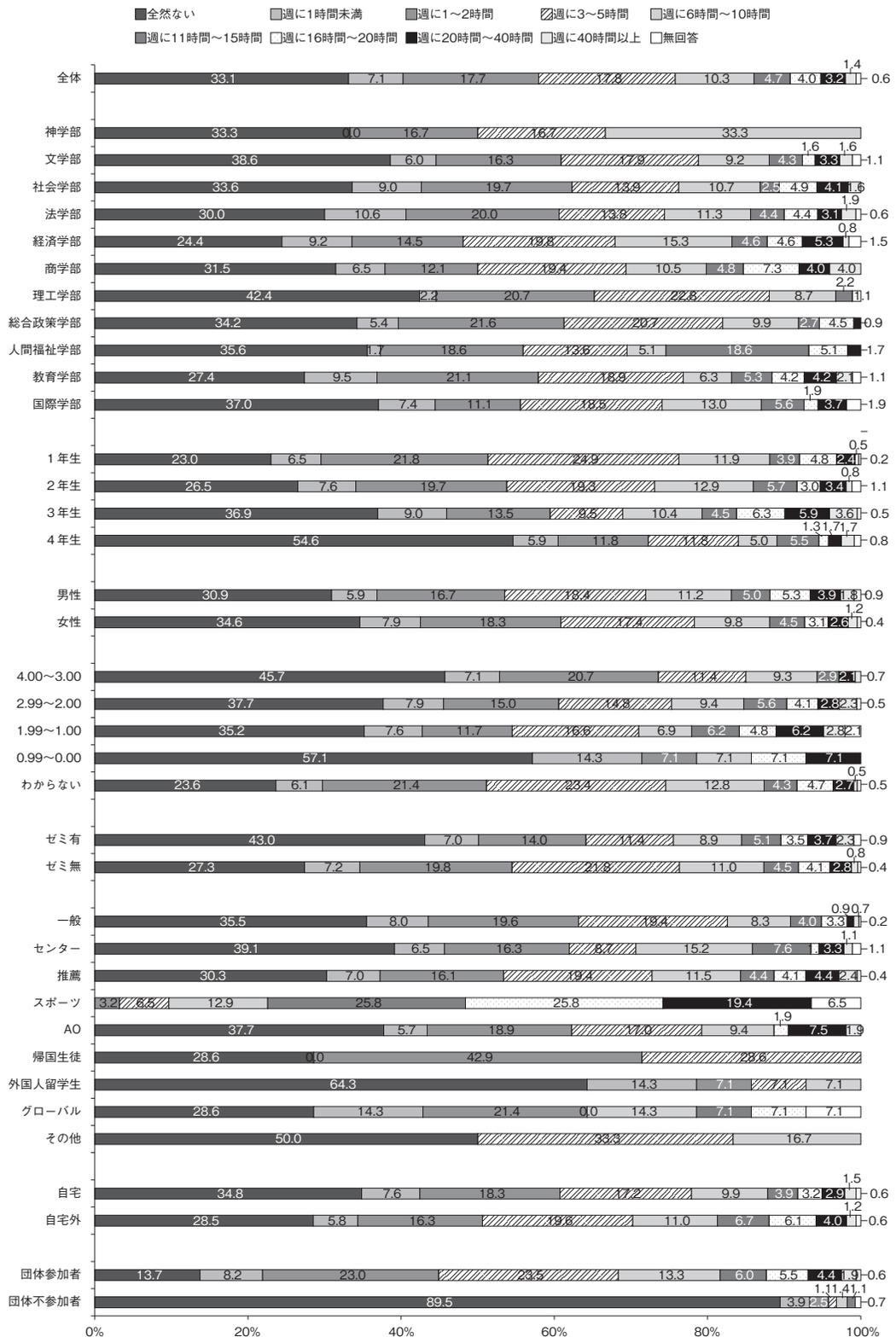
6時間未満の場合、社会学部59.0%（同51.3%）7.7ポイント増、文学部55.5%（同55.2%）0.3ポイント増、人間福祉学部57.6%（同45.1%）12.5ポイント増、センター入試学生56.5%（同51.6%）4.9ポイント増、AO入試学生52.8%（同46.0%）6.8ポイント増となった。また、GPA1.99～1.00の学生は53.1%（同44.9%）8.2ポイント増であった。

一方、16時間以上（一日約3時間以上）滞在する学生は、全体で11.4%存在し、商学部16.1%（同8.3%）7.8ポイント増、経済学部16.0%（同7.7%）8.3ポイント増、3年生15.3%（同12.8%）2.5ポイント増、男性15.8%（同15.0%）0.8ポイント増、GPA0.99以下の学生28.5%（同12.5%）16ポイント増の結果となった。

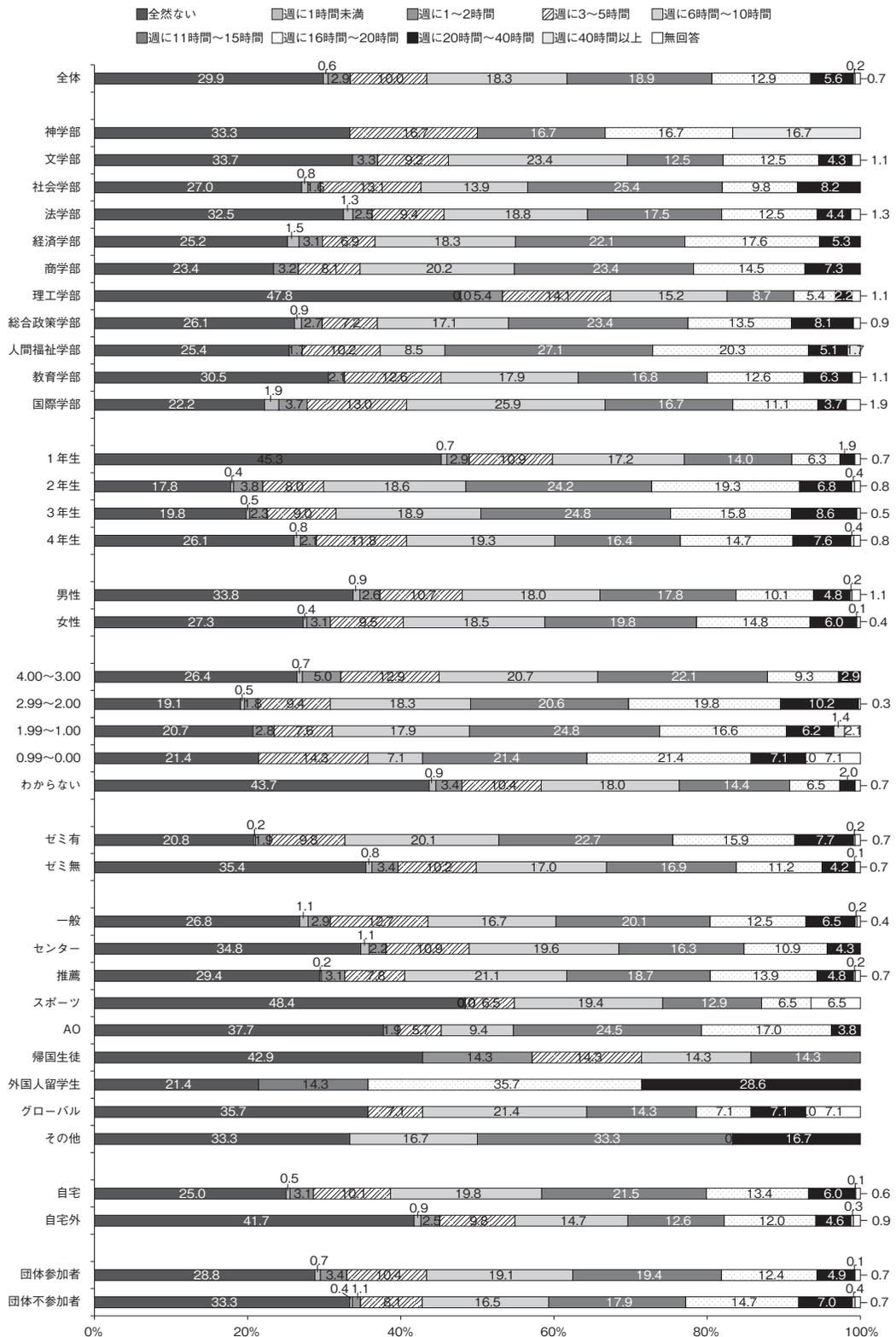
図Ⅱ-3-3 各項目の費やす時間 ③授業以外の学習（専門学校・資格取得に向けた学習など）



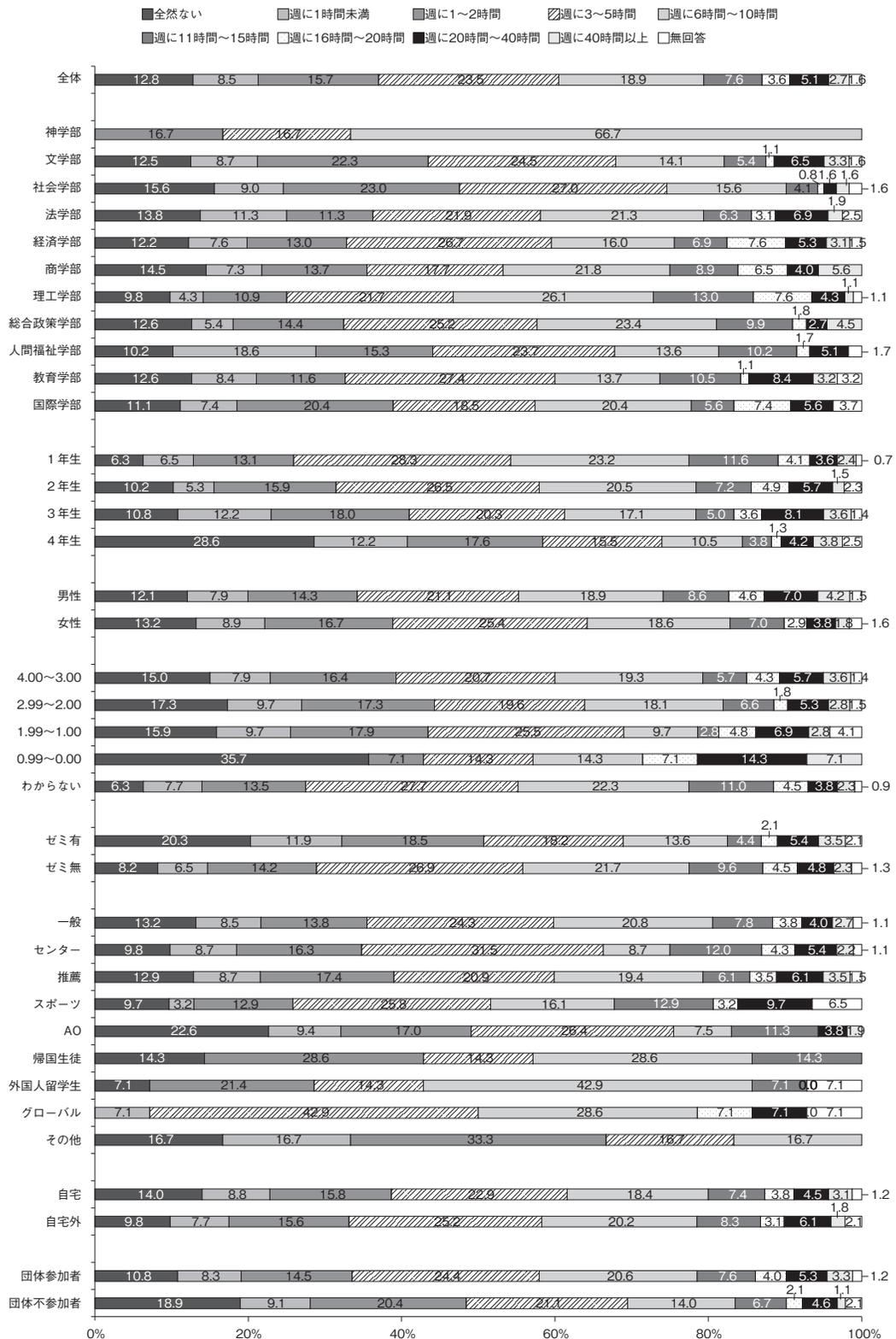
図Ⅱ-3-4 各項目の費やす時間 ④クラブ・サークル（課外活動時間など）



図Ⅱ-3-5 各項目の費やす時間 ⑤仕事・アルバイト



図Ⅱ-3-6 各項目の費やす時間 ⑥大学の授業時間を除いて、大学に滞在している時間



## 4. 在学中に身に付けたい能力

### Summary

リーダーシップ以外の各能力で、「身につけたい」と「やや身につけたい」の合計が、概ね9割を上回った。全体的に本学の学生が様々な能力について身につけていきたいというポジティブな思考であることがわかる。一方、リーダーシップは最下位で、「身につけたい」の単独回答で見ると唯一過半数を下回った。コミュニケーション能力そのものは身につけたいと考えているものの、集団をリードしていくような積極的なコミュニケーションは意図しているわけではない。

Q 4. あなたが在学中に身に付けたい能力は何ですか。

A～Iについて、それぞれ1（身につけたくない）から4（身につけたい）までの数字を1つだけ選んで○をつけてください。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| A プレゼンテーション能力   | B ディスカッション能力   |
| C コミュニケーション能力   | D リーダーシップ      |
| E 集団の中での協調性     | F データ処理、事務処理能力 |
| G 企画・アイデアなどの創造力 | H 人間関係の構築力     |
| I 外国語運用能力       |                |

リーダーシップ以外の各能力で、「身につけたい」と「やや身につけたい」の合計が、概ね9割を上回った。全体的に本学の学生が様々な能力について身につけていきたいというポジティブな思考であることがわかる。特に、コミュニケーション能力（97.3%）、プレゼンテーション能力（96.8%）、ディスカッション能力（96.1%）は9割5分を上回り、非常に高い意欲が表れている。

一方、リーダーシップ（84.4%）は最下位で、「身につけたい」の単独回答で見ると唯一過半数を下回った（42.4%）。前回の調査でも単独回答で過半数を下回っていたが（45.2%）、コミュニケーション能力そのものは身につけたいと考えているものの、集団をリードしていくような積極的なコミュニケーションは意図しているわけではないことがわかる。

在学中に身に付けたい能力と取り組みたいこととの関係を調べるために、Q 4とQ 5「在学中に取り組みたいこと」をクロス集計した（表Ⅱ-4）。「海外プログラム（留学・外国語研究など）への参加」は、「外国語運用能力」ではもちろんのこと、他の能力でも「身につけたい」と回答した方が参加意欲は高く、「やや身につけたい」「あまり身につけたいとは思わない」「身につけたいとは思わない」の順に低くなる傾向がみられる。海外プログラム参加者が、多様な側面で高い意欲を持っていることの表れだろう。

表Ⅱ-4 在学中に身に付けたい能力（Q 4）と取り組みたいこと（Q 5）

Q 4-A（プレゼンテーション能力）	Q 5									全体
	専門的な知識の修得	海外プログラムへの参加	資格の取得	ボランティア活動	インターンシップ	クラブ・サークル活動	友人を作る	アルバイト	その他	
身につけたい	337 41.2%	244 29.9%	311 38.1%	88 10.8%	136 16.6%	209 25.6%	130 15.9%	92 11.3%	13 1.6%	817 100.0%
やや身につけたい	128 44.3%	50 17.3%	120 41.5%	27 9.3%	33 11.4%	81 28.0%	44 15.2%	44 15.2%	3 1.0%	289 100.0%
あまり身につけたいとは思わない	11 40.7%	7 25.9%	10 37.0%	2 7.4%	0 0.0%	10 37.0%	9 33.3%	4 14.8%	1 3.7%	27 100.0%
身につけたいとは思わない	4 57.1%	1 14.3%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	7 100.0%
無回答	1 33.3%	1 33.3%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%
合計	481 42.1%	303 26.5%	446 39.0%	117 10.2%	169 14.8%	303 26.5%	186 16.3%	141 12.3%	17 1.5%	1143 100.0%

Q 4-B (ディスカッション能力)	Q 5									全体
	専門的な知識の修得	海外プログラムへの参加	資格の取得	ボランティア活動	インターンシップ	クラブ・サークル活動	友人を作る	アルバイト	その他	
身につけたい	340	227	299	85	127	201	126	88	15	791
	43.0%	28.7%	37.8%	10.7%	16.1%	25.4%	15.9%	11.1%	1.9%	100.0%
やや身につけたい	121	69	128	28	41	87	49	47	1	308
	39.3%	22.4%	41.6%	9.1%	13.3%	28.2%	15.9%	15.3%	0.3%	100.0%
あまり身につけたいとは思わない	14	4	13	2	0	9	7	5	1	29
	48.3%	13.8%	44.8%	6.9%	0.0%	31.0%	24.1%	17.2%	3.4%	100.0%
身につけたいとは思わない	5	1	2	2	1	5	2	1	0	10
	50.0%	10.0%	20.0%	20.0%	10.0%	50.0%	20.0%	10.0%	0.0%	100.0%
無回答	1	2	4	0	0	1	2	0	0	5
	20.0%	40.0%	80.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	481	303	446	117	169	303	186	141	17	1143
	42.1%	26.5%	39.0%	10.2%	14.8%	26.5%	16.3%	12.3%	1.5%	100.0%

Q 4-C (コミュニケーション能力)	Q 5									全体
	専門的な知識の修得	海外プログラムへの参加	資格の取得	ボランティア活動	インターンシップ	クラブ・サークル活動	友人を作る	アルバイト	その他	
身につけたい	377	248	345	95	142	245	157	112	14	910
	41.4%	27.3%	37.9%	10.4%	15.6%	26.9%	17.3%	12.3%	1.5%	100.0%
やや身につけたい	89	50	85	19	25	54	27	24	0	202
	44.1%	24.8%	42.1%	9.4%	12.4%	26.7%	13.4%	11.9%	0.0%	100.0%
あまり身につけたいとは思わない	8	3	3	1	0	3	1	2	2	13
	61.5%	23.1%	23.1%	7.7%	0.0%	23.1%	7.7%	15.4%	15.4%	100.0%
身につけたいとは思わない	6	1	10	2	2	1	0	3	1	14
	42.9%	7.1%	71.4%	14.3%	14.3%	7.1%	0.0%	21.4%	7.1%	100.0%
無回答	1	1	3	0	0	0	1	0	0	4
	25.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	481	303	446	117	169	303	186	141	17	1143
	42.1%	26.5%	39.0%	10.2%	14.8%	26.5%	16.3%	12.3%	1.5%	100.0%

Q 4-D (リーダーシップ)	Q 5									全体
	専門的な知識の修得	海外プログラムへの参加	資格の取得	ボランティア活動	インターンシップ	クラブ・サークル活動	友人を作る	アルバイト	その他	
身につけたい	199	148	164	53	82	135	81	57	9	485
	41.0%	30.5%	33.8%	10.9%	16.9%	27.8%	16.7%	11.8%	1.9%	100.0%
やや身につけたい	186	128	202	51	73	128	71	58	4	480
	38.8%	26.7%	42.1%	10.6%	15.2%	26.7%	14.8%	12.1%	0.8%	100.0%
あまり身につけたいとは思わない	82	23	68	12	12	35	29	22	3	151
	54.3%	15.2%	45.0%	7.9%	7.9%	23.2%	19.2%	14.6%	2.0%	100.0%
身につけたいとは思わない	12	2	9	1	1	4	2	4	1	21
	57.1%	9.5%	42.9%	4.8%	4.8%	19.0%	9.5%	19.0%	4.8%	100.0%
無回答	2	2	3	0	1	1	3	0	0	6
	33.3%	33.3%	50.0%	0.0%	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	481	303	446	117	169	303	186	141	17	1143
	42.1%	26.5%	39.0%	10.2%	14.8%	26.5%	16.3%	12.3%	1.5%	100.0%

Q 4-E (集団の中での協調性)	Q 5									全体
	専門的な知識の修得	海外プログラムへの参加	資格の取得	ボランティア活動	インターンシップ	クラブ・サークル活動	友人を作る	アルバイト	その他	
身につけたい	253	169	240	68	93	174	111	73	7	627
	40.4%	27.0%	38.3%	10.8%	14.8%	27.8%	17.7%	11.6%	1.1%	100.0%
やや身につけたい	162	110	159	44	59	104	60	53	5	401
	40.4%	27.4%	39.7%	11.0%	14.7%	25.9%	15.0%	13.2%	1.2%	100.0%
あまり身につけたいとは思わない	48	21	31	4	14	21	13	11	3	86
	55.8%	24.4%	36.0%	4.7%	16.3%	24.4%	15.1%	12.8%	3.5%	100.0%
身につけたいとは思わない	17	2	13	1	3	4	1	4	2	26
	65.4%	7.7%	50.0%	3.8%	11.5%	15.4%	3.8%	15.4%	7.7%	100.0%
無回答	1	1	3	0	0	0	1	0	0	3
	33.3%	33.3%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	481	303	446	117	169	303	186	141	17	1143
	42.1%	26.5%	39.0%	10.2%	14.8%	26.5%	16.3%	12.3%	1.5%	100.0%

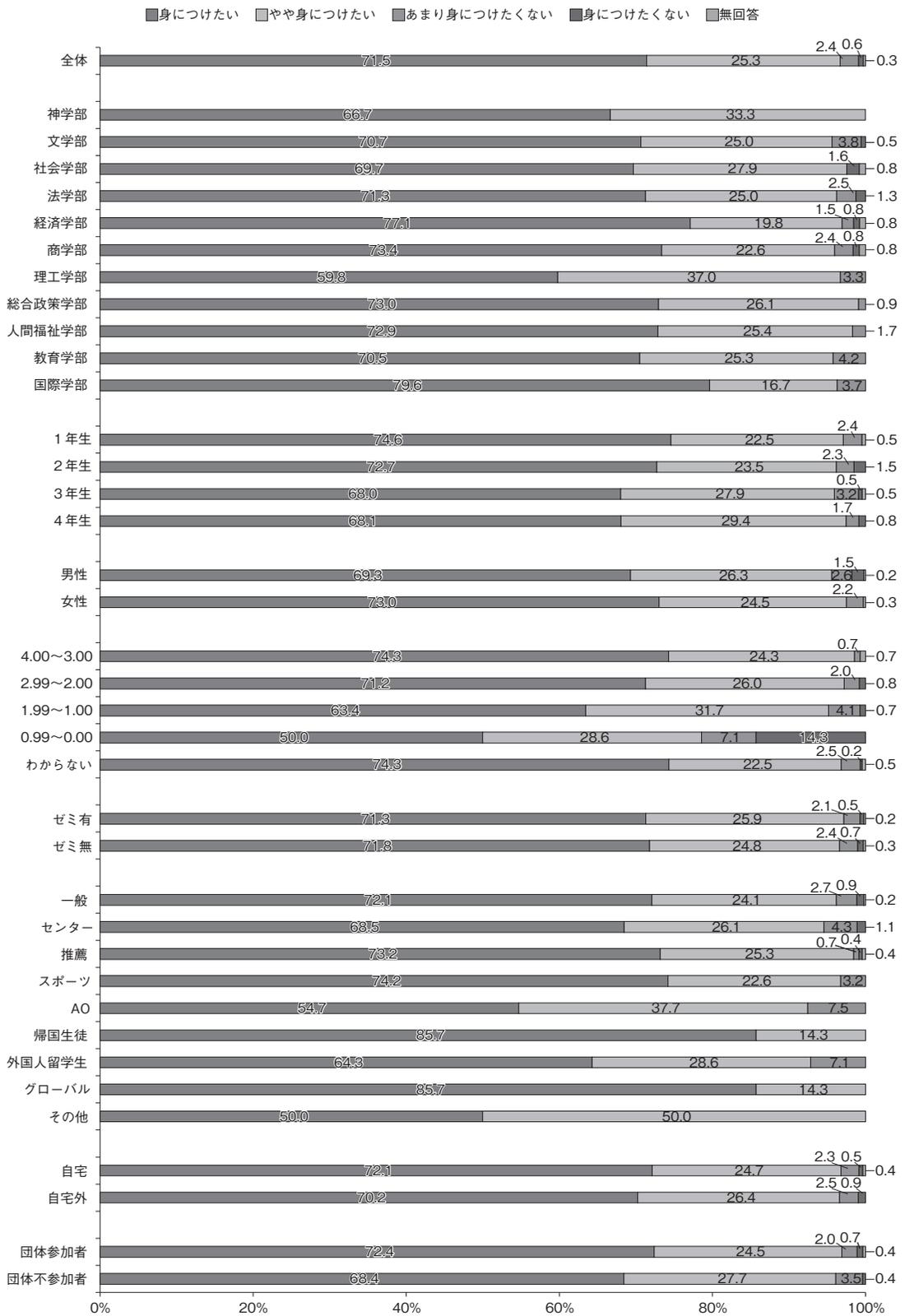
Q 4-F (データ処理、事務処理能力)	Q 5									全体
	専門的な知識の修得	海外プログラムへの参加	資格の取得	ボランティア活動	インターンシップ	クラブ・サークル活動	友人を作る	アルバイト	その他	
身につけたい	285	180	272	65	94	162	102	85	11	661
	43.1%	27.2%	41.1%	9.8%	14.2%	24.5%	15.4%	12.9%	1.7%	100.0%
やや身につけたい	156	102	135	46	62	110	65	43	2	382
	40.8%	26.7%	35.3%	12.0%	16.2%	28.8%	17.0%	11.3%	0.5%	100.0%
あまり身につけたいとは思わない	38	16	30	4	10	24	16	9	3	81
	46.9%	19.8%	37.0%	4.9%	12.3%	29.6%	19.8%	11.1%	3.7%	100.0%
身につけたいとは思わない	1	4	6	2	3	7	2	4	1	16
	6.3%	25.0%	37.5%	12.5%	18.8%	43.8%	12.5%	25.0%	6.3%	100.0%
無回答	1	1	3	0	0	0	1	0	0	3
	33.3%	33.3%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	481	303	446	117	169	303	186	141	17	1143
	42.1%	26.5%	39.0%	10.2%	14.8%	26.5%	16.3%	12.3%	1.5%	100.0%

Q 4-G (企画・アイデアなどの創造力)	Q 5									全体
	専門的な知識の修得	海外プログラムへの参加	資格の取得	ボランティア活動	インターンシップ	クラブ・サークル活動	友人を作る	アルバイト	その他	
身につけたい	299	212	263	70	121	174	104	75	13	700
	42.7%	30.3%	37.6%	10.0%	17.3%	24.9%	14.9%	10.7%	1.9%	100.0%
やや身につけたい	145	72	142	40	44	103	64	57	2	355
	40.8%	20.3%	40.0%	11.3%	12.4%	29.0%	18.0%	16.1%	0.6%	100.0%
あまり身につけたいとは思わない	29	15	32	7	4	22	15	7	1	71
	40.8%	21.1%	45.1%	9.9%	5.6%	31.0%	21.1%	9.9%	1.4%	100.0%
身につけたいとは思わない	7	3	6	0	0	4	2	2	1	14
	50.0%	21.4%	42.9%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	7.1%	100.0%
無回答	1	1	3	0	0	0	1	0	0	3
	33.3%	33.3%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	481	303	446	117	169	303	186	141	17	1143
	42.1%	26.5%	39.0%	10.2%	14.8%	26.5%	16.3%	12.3%	1.5%	100.0%

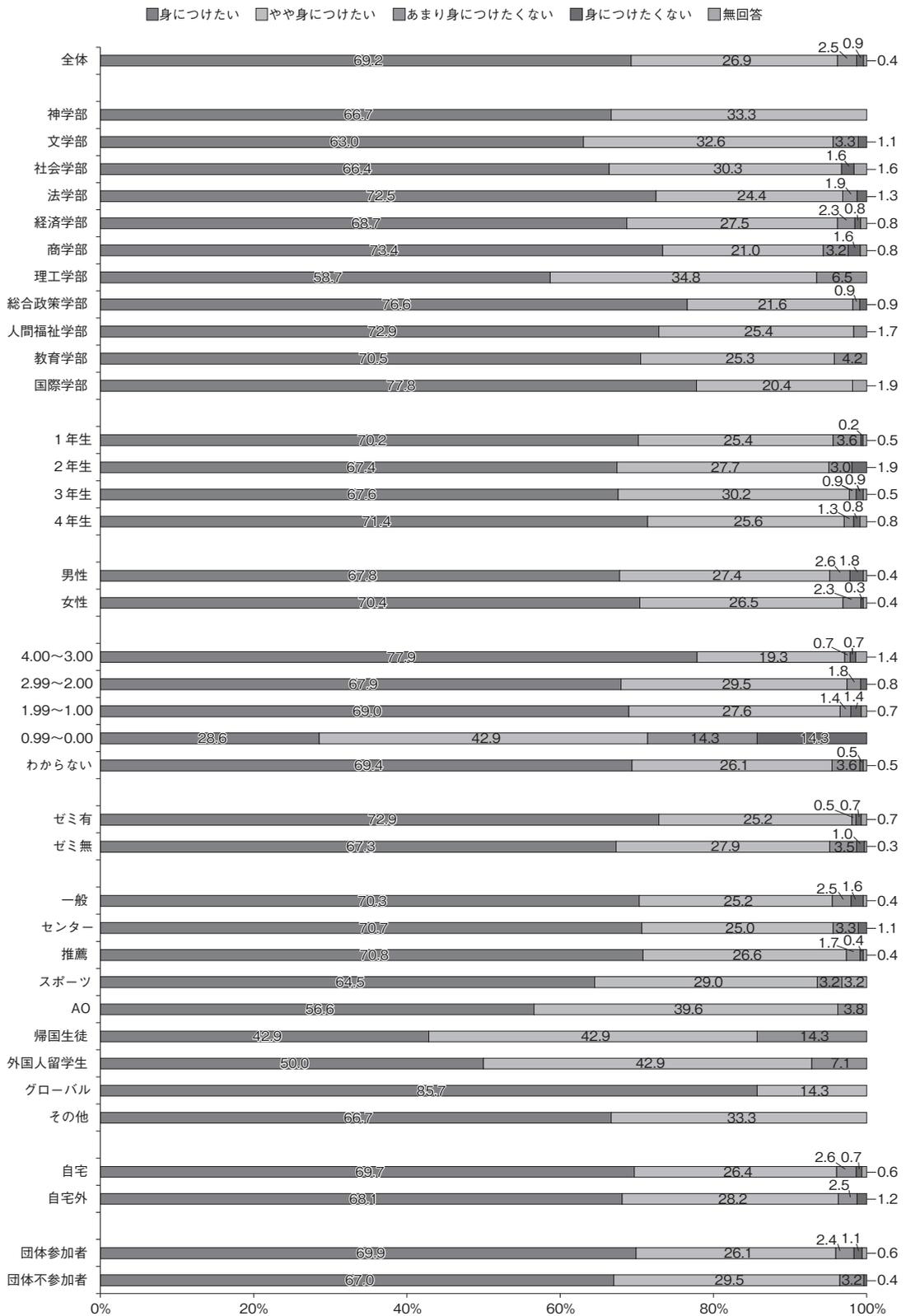
Q 4-H (人間関係の構築力)	Q 5									全体
	専門的な知識の修得	海外プログラムへの参加	資格の取得	ボランティア活動	インターンシップ	クラブ・サークル活動	友人を作る	アルバイト	その他	
身につけたい	305	204	279	80	109	204	141	85	9	746
	40.9%	27.3%	37.4%	10.7%	14.6%	27.3%	18.9%	11.4%	1.2%	100.0%
やや身につけたい	138	89	132	30	51	90	41	47	3	329
	41.9%	27.1%	40.1%	9.1%	15.5%	27.4%	12.5%	14.3%	0.9%	100.0%
あまり身につけたいとは思わない	24	6	21	5	6	6	4	7	4	45
	53.3%	13.3%	46.7%	11.1%	13.3%	13.3%	8.9%	15.6%	8.9%	100.0%
身につけたいとは思わない	12	2	11	2	2	3	0	2	1	19
	63.2%	10.5%	57.9%	10.5%	10.5%	15.8%	0.0%	10.5%	5.3%	100.0%
無回答	2	2	3	0	1	0	0	0	0	4
	50.0%	50.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	481	303	446	117	169	303	186	141	17	1143
	42.1%	26.5%	39.0%	10.2%	14.8%	26.5%	16.3%	12.3%	1.5%	100.0%

Q 4-I (外国語運用能力)	Q 5									全体
	専門的な知識の修得	海外プログラムへの参加	資格の取得	ボランティア活動	インターンシップ	クラブ・サークル活動	友人を作る	アルバイト	その他	
身につけたい	289	268	251	77	116	148	100	78	12	703
	41.1%	38.1%	35.7%	11.0%	16.5%	21.1%	14.2%	11.1%	1.7%	100.0%
やや身につけたい	130	32	137	31	43	113	58	44	4	317
	41.0%	10.1%	43.2%	9.8%	13.6%	35.6%	18.3%	13.9%	1.3%	100.0%
あまり身につけたいとは思わない	48	1	42	8	6	28	21	14	1	89
	53.9%	1.1%	47.2%	9.0%	6.7%	31.5%	23.6%	15.7%	1.1%	100.0%
身につけたいとは思わない	11	1	13	1	3	14	6	5	0	29
	37.9%	3.4%	44.8%	3.4%	10.3%	48.3%	20.7%	17.2%	0.0%	100.0%
無回答	3	1	3	0	1	0	1	0	0	5
	60.0%	20.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	481	303	446	117	169	303	186	141	17	1143
	42.1%	26.5%	39.0%	10.2%	14.8%	26.5%	16.3%	12.3%	1.5%	100.0%

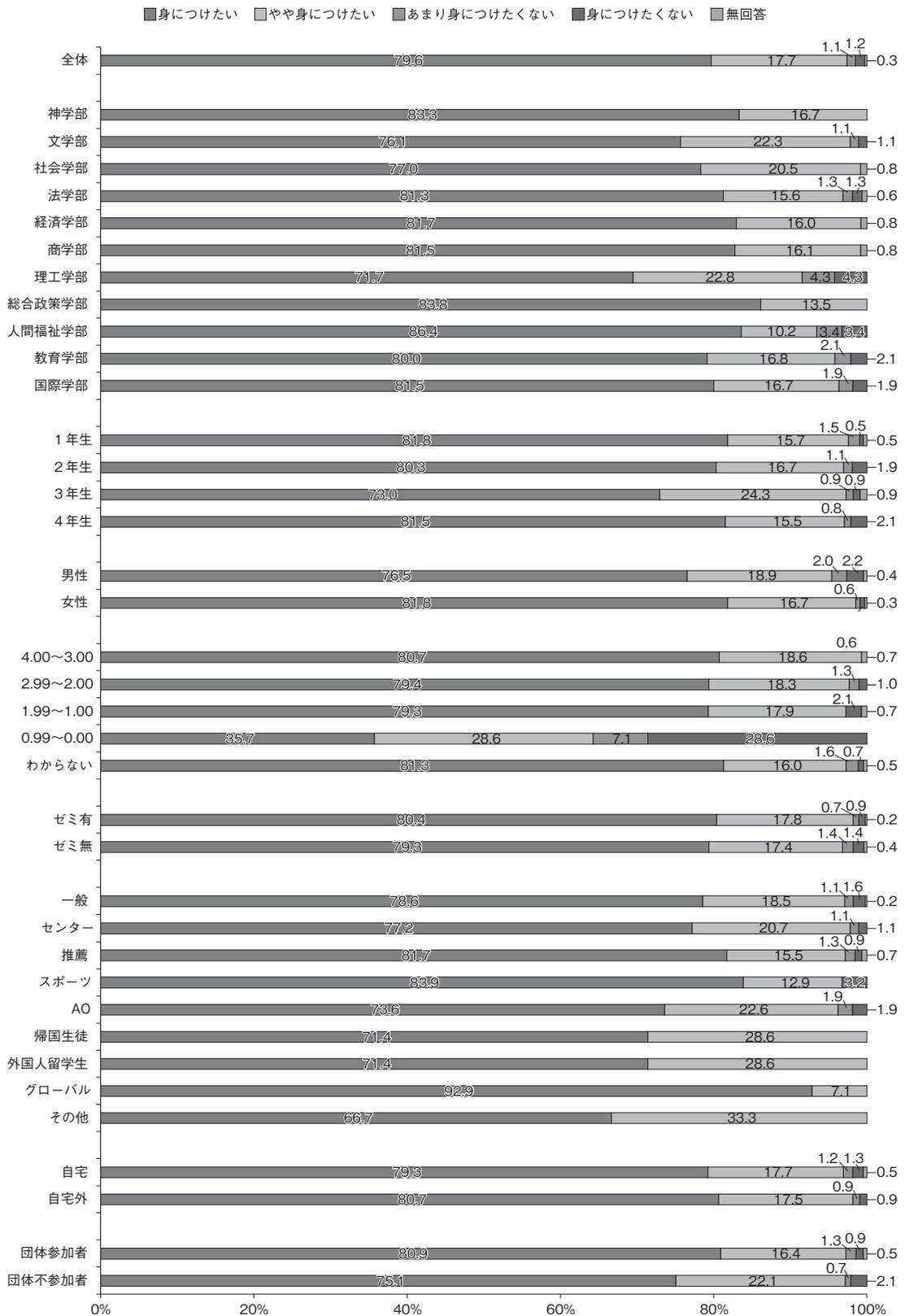
図Ⅱ-4-1 在学中に身に付けたい能力 A プレゼンテーション能力



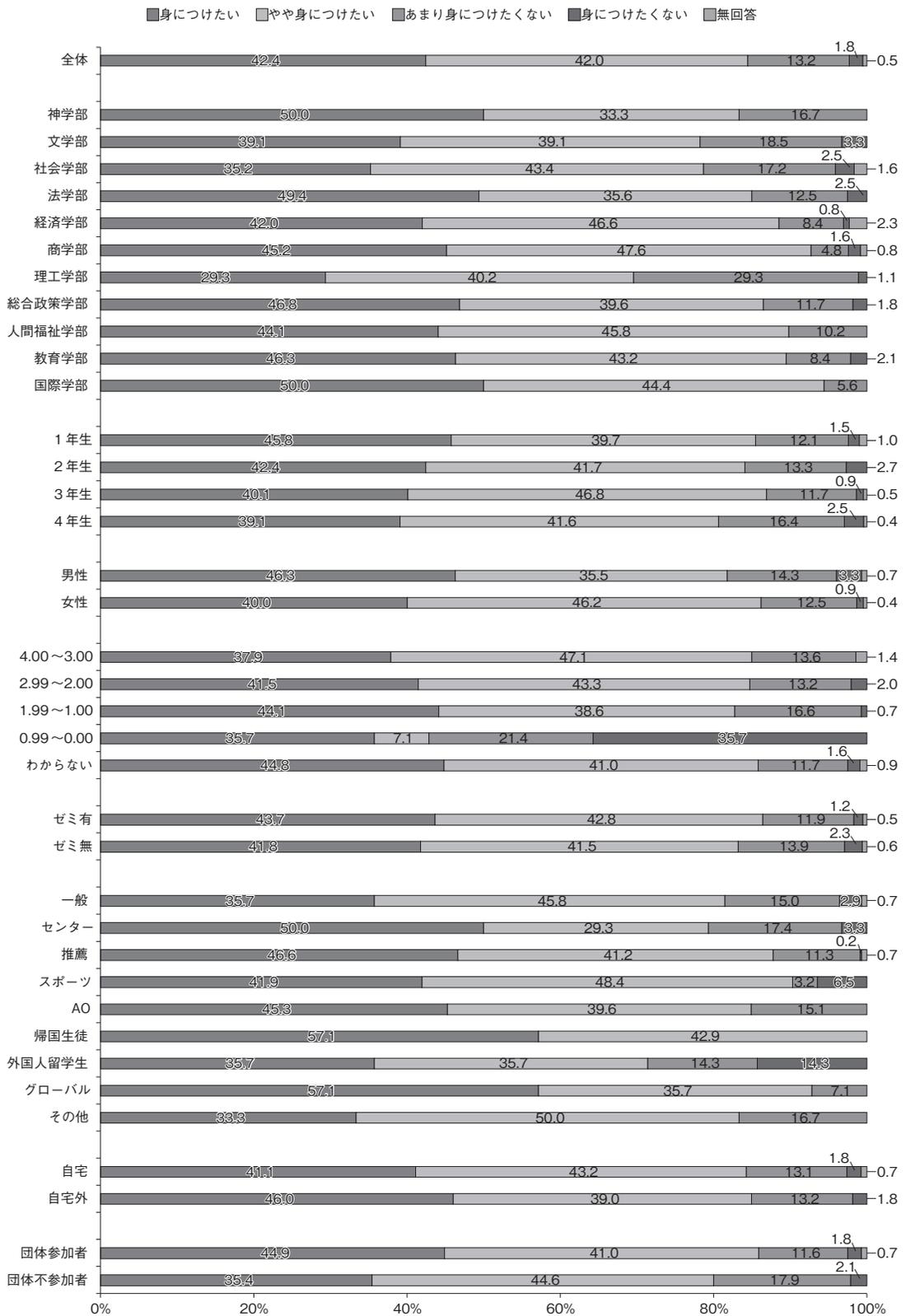
図Ⅱ-4-2 在学中に身に付けたい能力 B ディスカッション能力



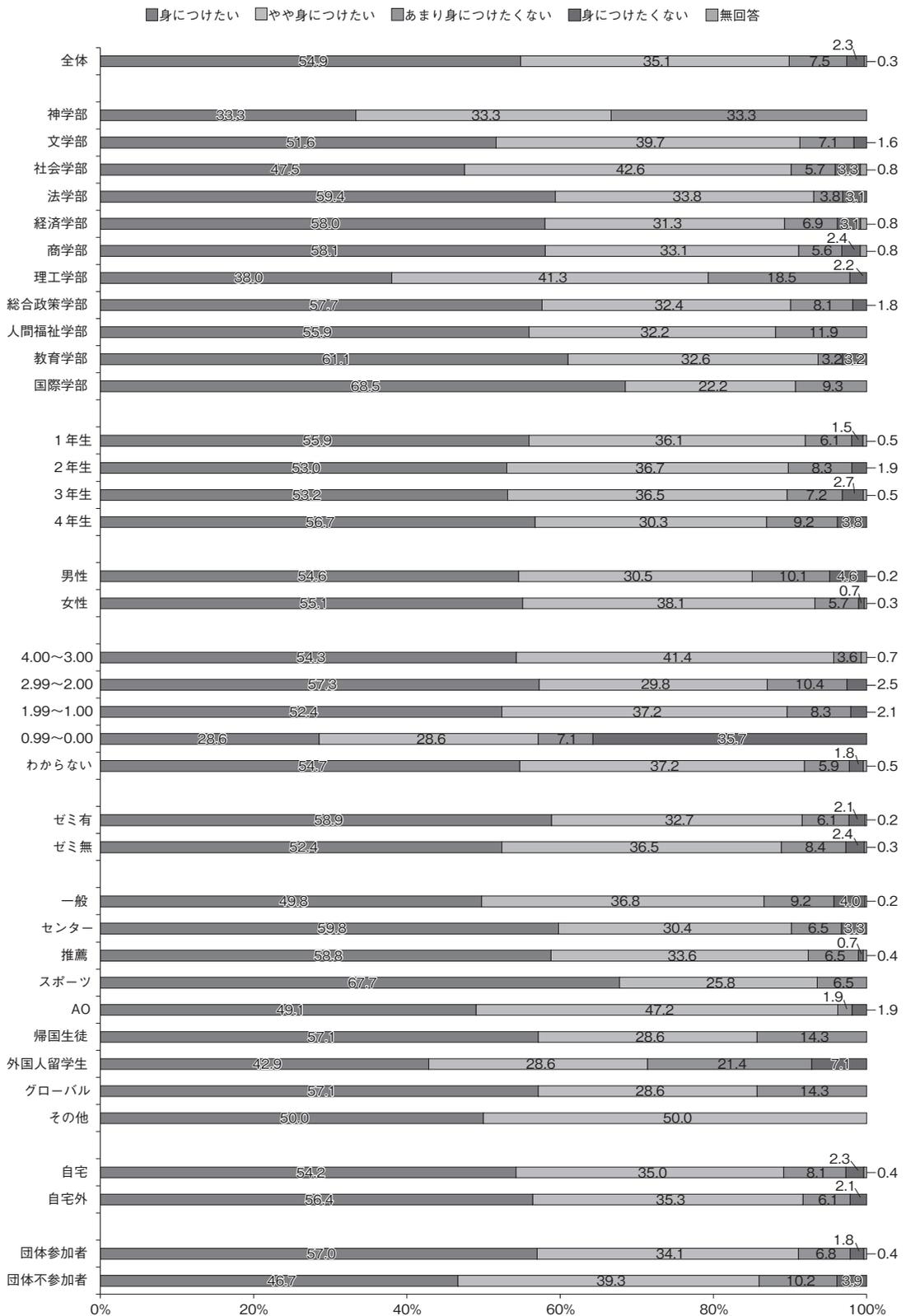
図Ⅱ-4-3 在学中に身に付けたい能力 C コミュニケーション能力



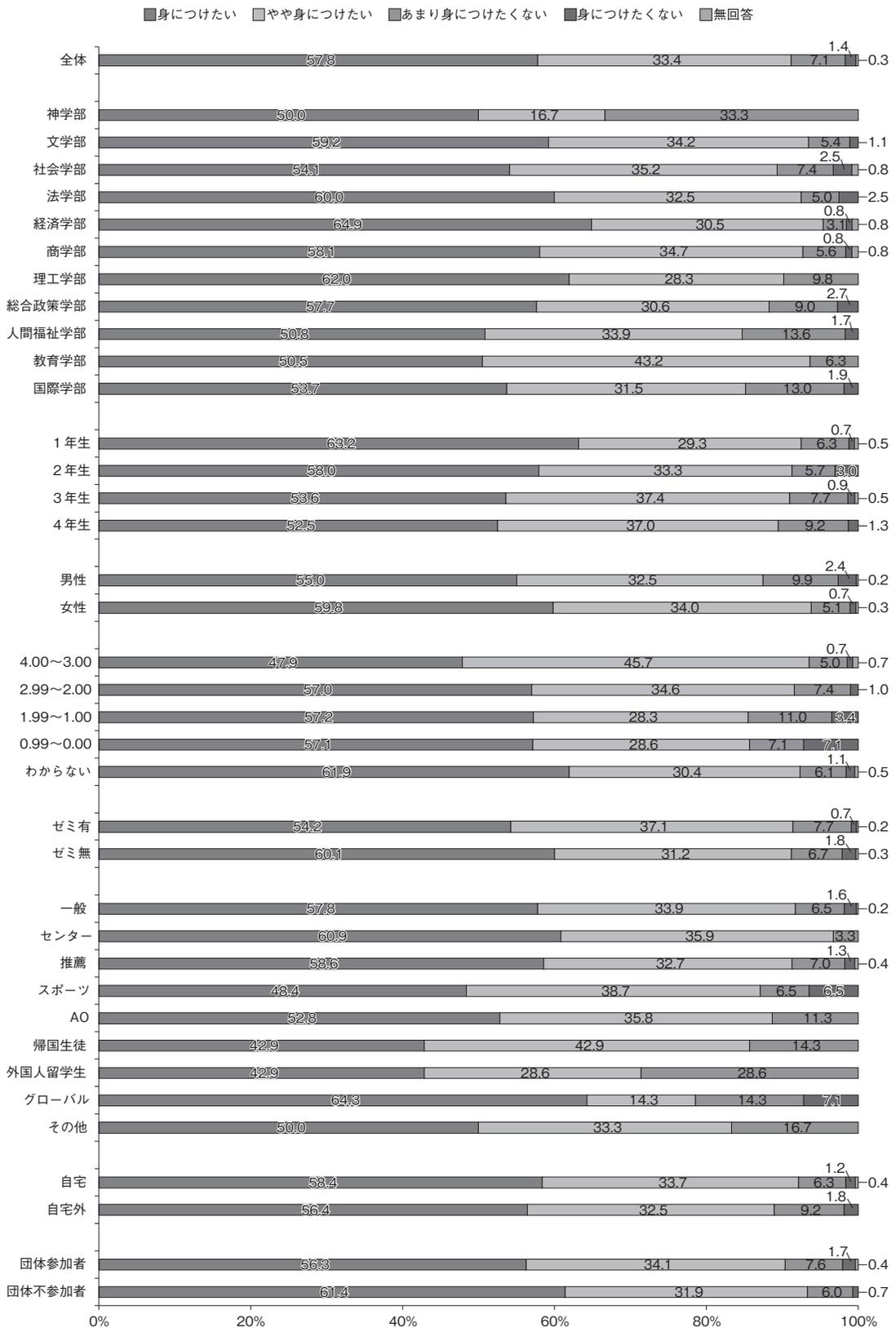
図Ⅱ-4-4 在学中に身に付けたい能力 D リーダーシップ



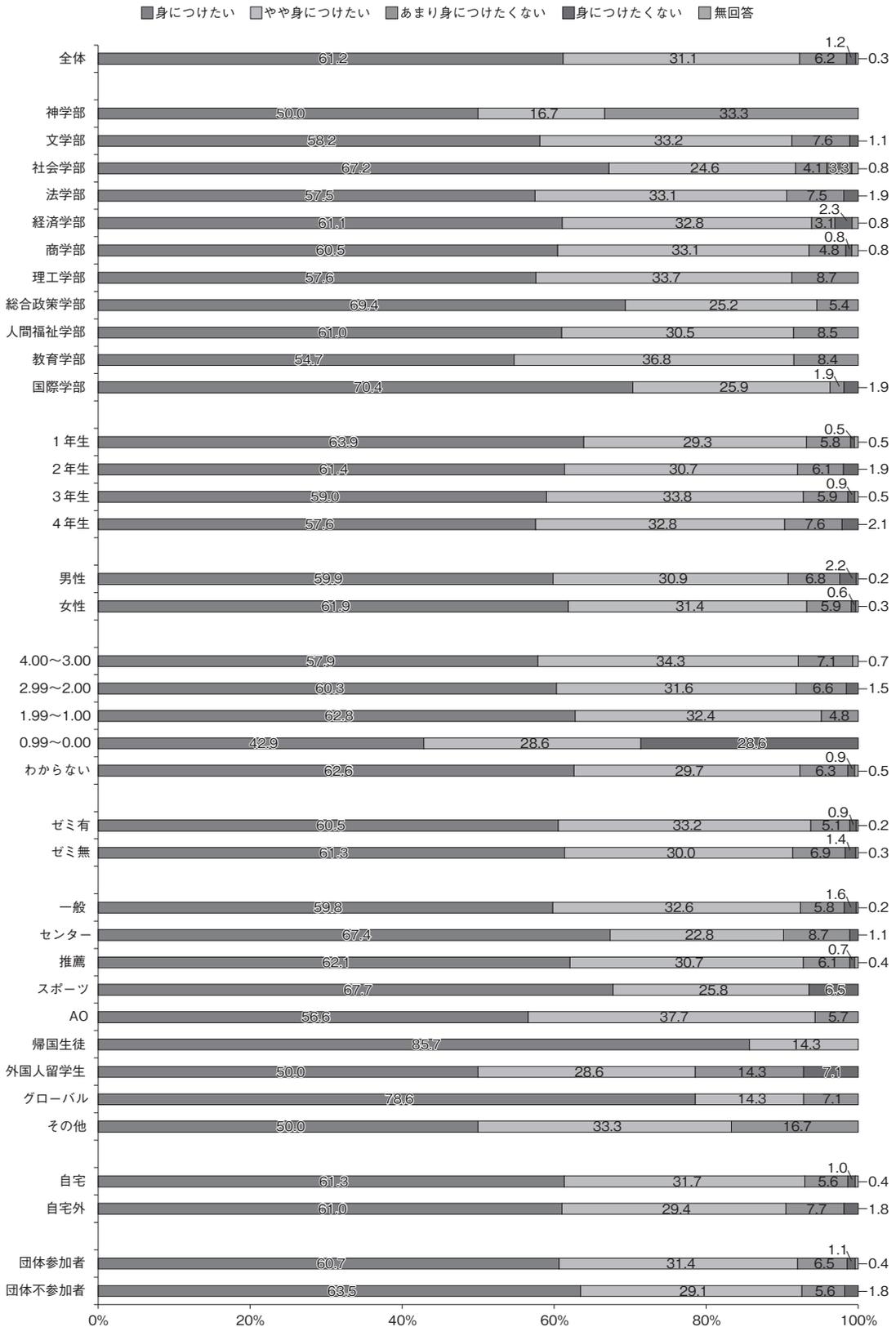
図Ⅱ-4-5 在学中に身に付けたい能力 E 集団の中での協調性



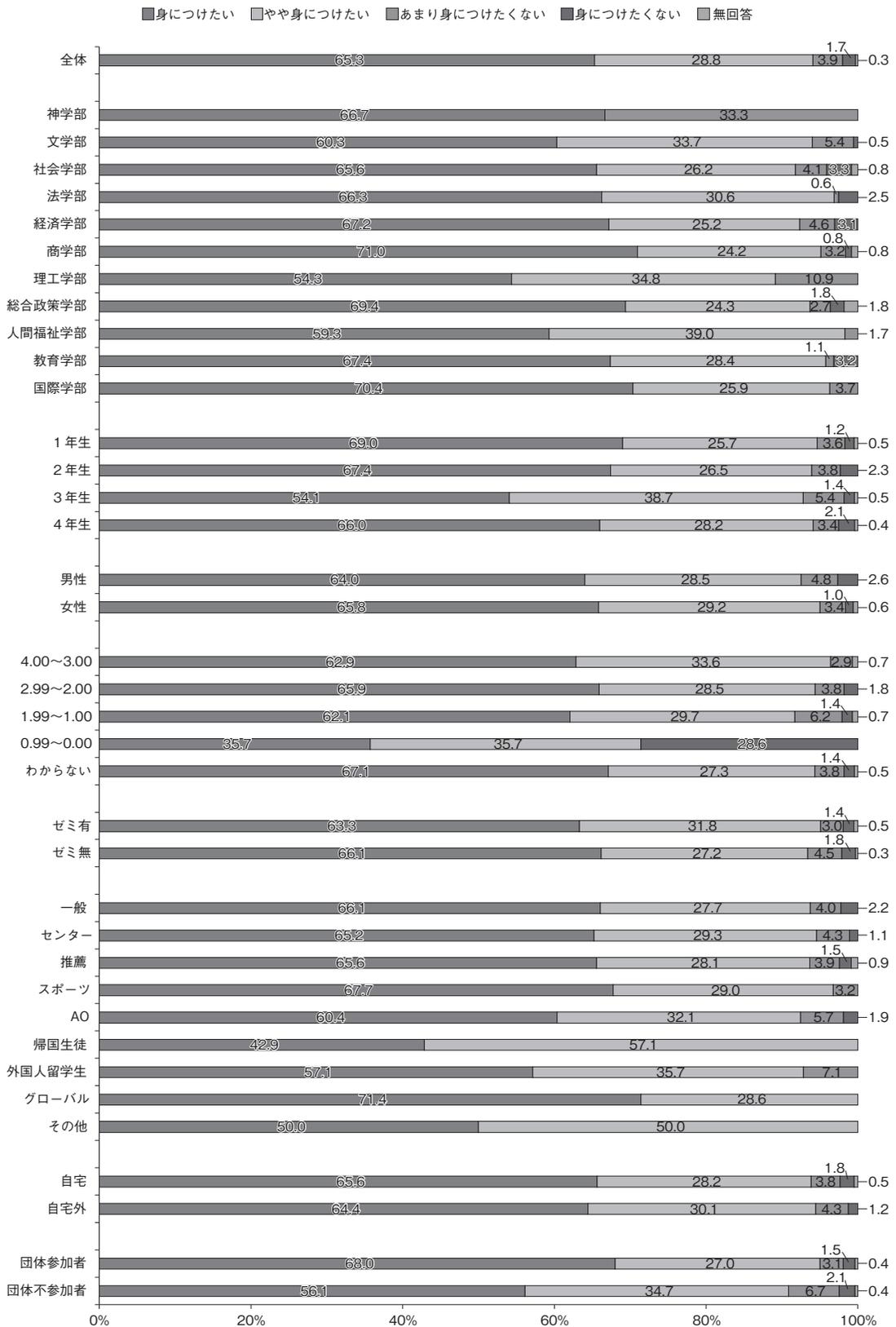
図Ⅱ-4-6 在学中に身に付けたい能力 F データ処理、事務処理能力



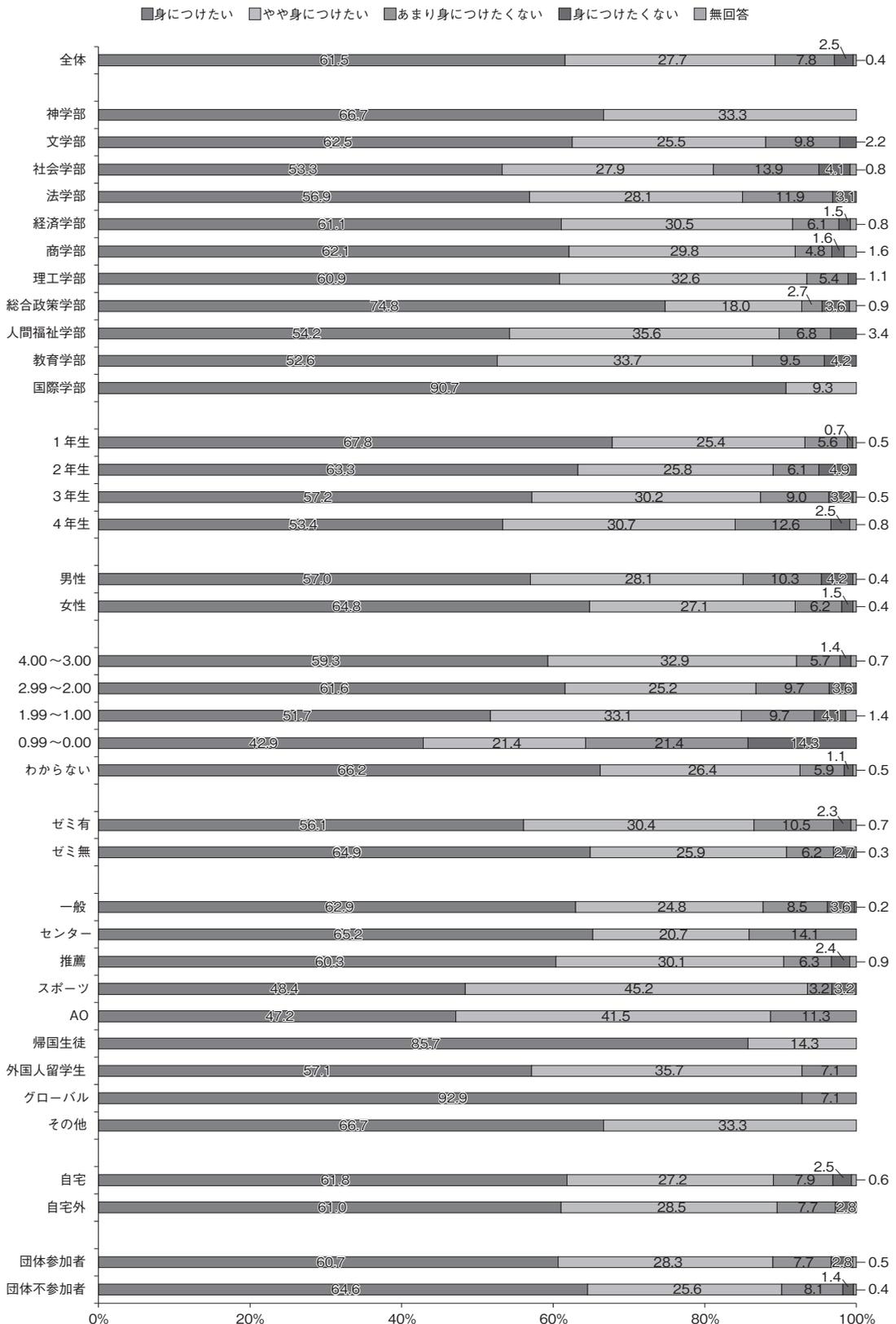
図Ⅱ-4-7 在学中に身に付けたい能力 G 企画・アイデアなどの創造力



図Ⅱ-4-8 在学中に身に付けたい能力 H 人間関係の構築力



図Ⅱ-4-9 在学中に身に付けたい能力 I 外国語運用能力



## 5. 在学中にしたいこと

### Summary

「専門的な知識の修得」と「資格の取得」がそれぞれ20%を超え、次いで「海外プログラムへの参加」、「クラブ・サークル活動」が共に13.8%となった。「友人を作る」、「インターンシップ」、「アルバイト」、「ボランティア」は10.0%を下回っている。「海外プログラムへの参加」は国際学部が、「ボランティア活動」は教育学部が、「インターンシップ」では総合政策学部が、他の学部よりも突出して多かった。

Q 5. あなたが在学中に取り組みたいことを2つ以内で選んで○を付けてください。

- |              |                           |            |
|--------------|---------------------------|------------|
| 1 専門的な知識の修得  | 2 海外プログラム（留学・外国語研修など）への参加 |            |
| 3 資格の取得      | 4 ボランティア活動                | 5 インターンシップ |
| 6 クラブ・サークル活動 | 7 友人を作る                   | 8 アルバイト    |
| 9 その他        |                           |            |

全体では、回答の多い順に「専門的な知識の修得」(22.0%)、「資格の取得」(20.4%)、「海外プログラムへの参加」・「クラブ・サークル活動」(13.8%)、「友人を作る」(8.5%)、「インターンシップ」(7.7%)、「アルバイト」(6.4%)、「ボランティア活動」(5.3%)であった。

学部別の特徴としては、全体では「専門的な知識の修得」が最も多かったが、国際学部では「海外プログラムへの参加」が36.2%と突出して多かった。在学中に全員が何らかの海外プログラムへ参加することが義務づけられていることや留学生の多さなど、国際的な学修環境が要因と考えられる。また、教育学部、商学部、法学部、文学部では、「資格の取得」が20%を超えており、各学部の教育課程によって取得できる資格を視野に入れた回答と推測できる。「ボランティア活動」は教育学部のみ13.6%と二桁を超えており、教員を目指す学生が学校ボランティアを視野に入れていることがうかがえる。

学年ごとでみると、「専門的な知識の修得」は2～4年生で20%を超えており、「資格の取得」では1～3年生で20%を超えている。資格の取得は低学年時から、専門的な学修は学年進行にしたがってという特徴が考えられる。

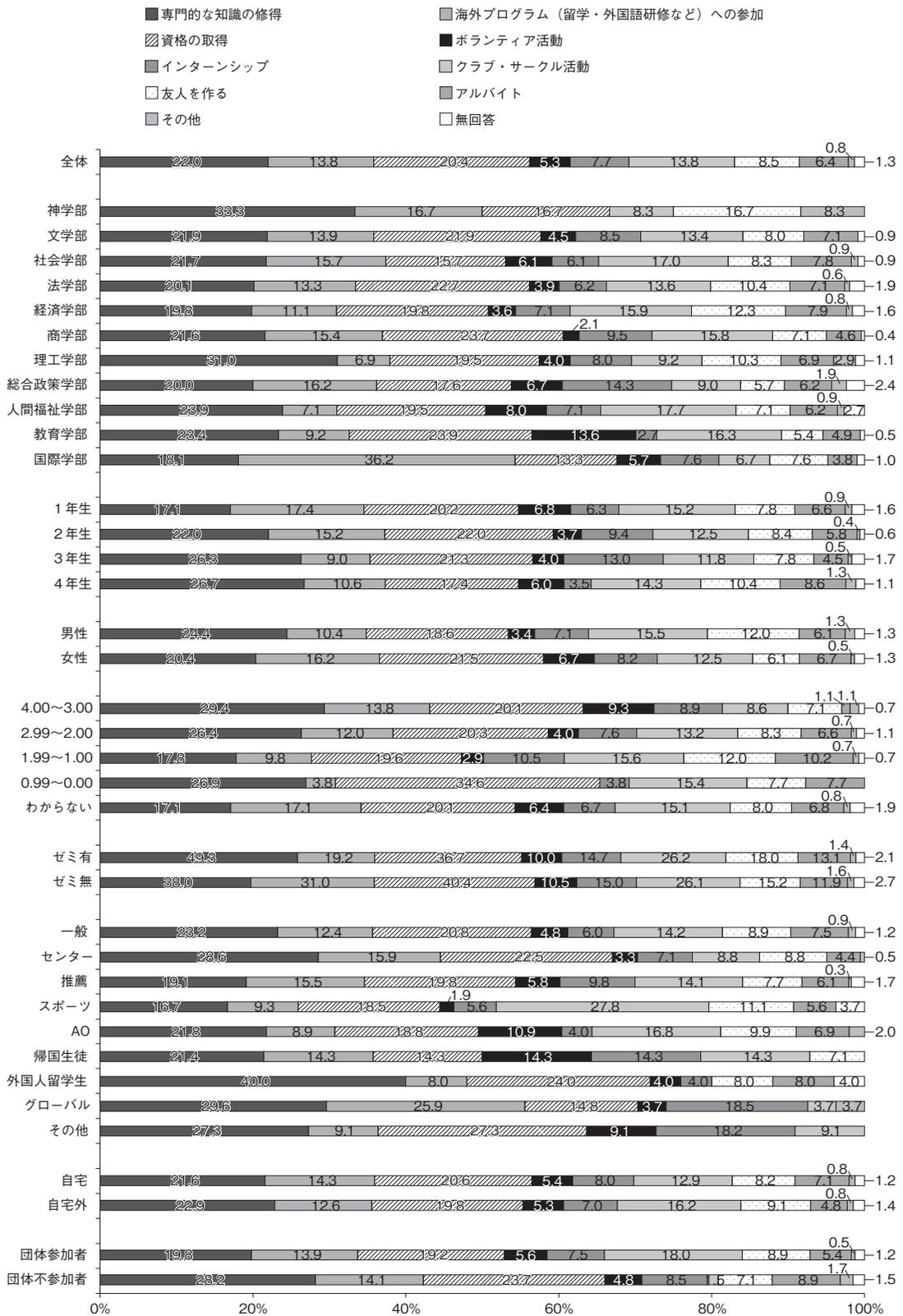
性別では、「ボランティア活動」は女性(6.7%)が男性(3.4%)のほぼ倍、「友人を作る」は男性(12.0%)が女性(6.1%)のほぼ倍となっており、特徴的な傾向である。また、「海外プログラムへの参加」も男女間で大きな差があった(男性10.4%、女性16.2%)。

GPA別にみると、「海外プログラムへの参加」はGPAの高い順から13.8%、12.0%、9.8%、3.8%となったが、「専門的な知識の修得」、「資格の取得」はGPAの一番低い層でもそれぞれ26.9%と34.6%となっている。

入試区分別では、スポーツ選抜入学試験、AO入学試験では、「クラブ・サークル活動」がそれぞれ27.8%、16.8%と高いが、「海外プログラムへの参加」はそれぞれ9.3%、8.9%と低くなった。また、AO入学試験では「ボランティア活動」10.9%と高い数字となった。

グローバル入学試験の学生は、「海外プログラムへの参加」が25.9%と高いのに対し、「クラブ・サークル活動」、「ボランティア活動」は各1名ずつ、アルバイト、友人を作るは0.0%と入試の特徴が現れている。

図Ⅱ-5 在学中にしたいこと



## 6. 授業区分ごとの熱心度

### Summary

学生は一般共通科目や語学の学習に熱心に取り組む傾向にあり、キリスト教科目や専門科目に関しては特定の学部でのみ熱心に取り組む学生が多い傾向にあることがわかった。しかし、卒業論文・卒業研究に取り組む学生が一定数いることから、研究活動を通して学ぶ学生がいることも確認できた。

Q 6. あなたは大学の授業科目にどの程度熱心に取り組んでいますか。

A～Gについて、それぞれ0（該当しない）から4（熱心に取り組んでいる）までの数字を1つだけ選んで○をつけてください。

- |           |            |             |
|-----------|------------|-------------|
| A キリスト教科目 | B 一般教養科目   | C 言語（外国語）科目 |
| D 専門科目    | E ゼミナールや実習 | F 卒業論文・卒業研究 |
| G 資格関連科目  |            |             |

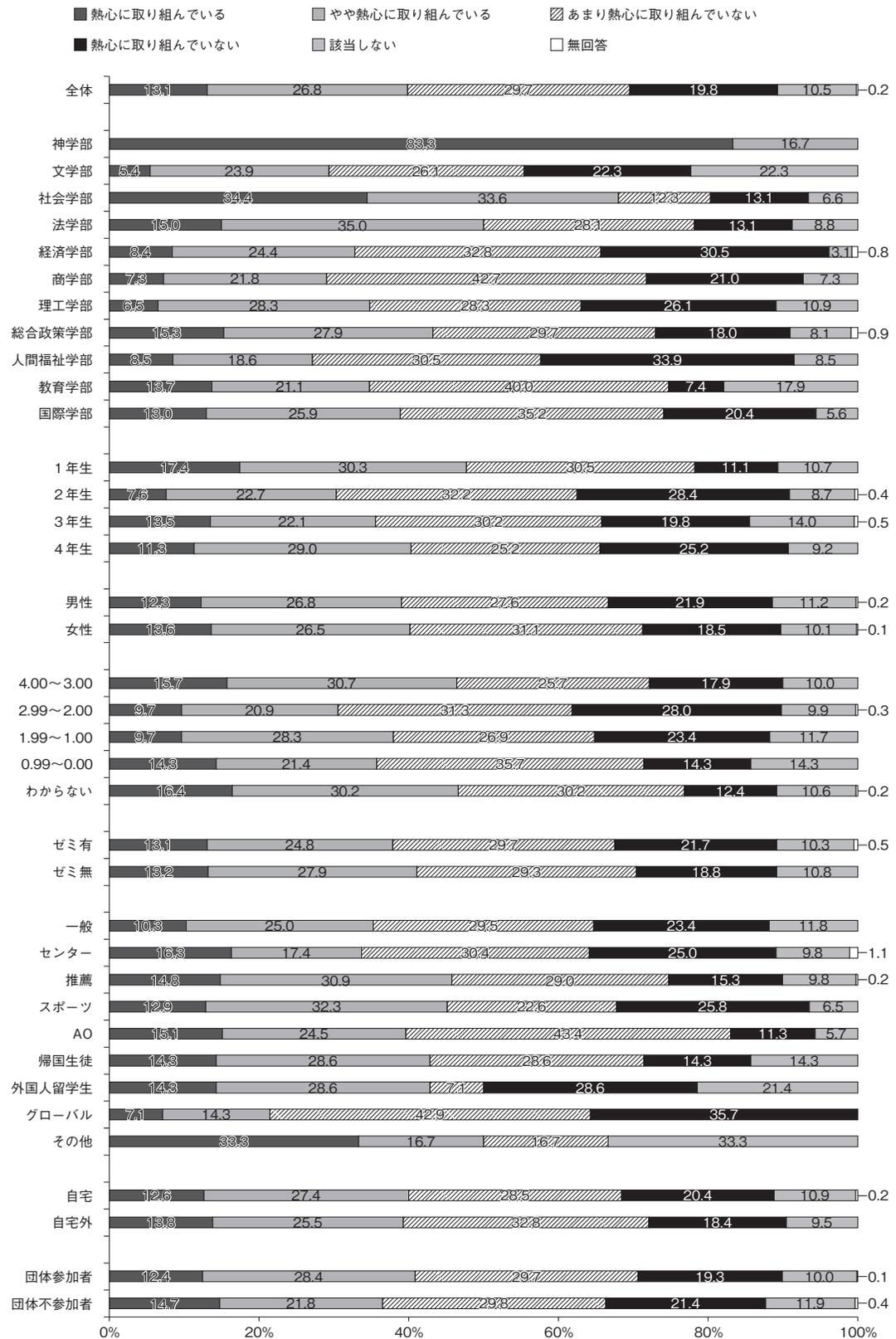
キリスト教科目に「熱心に取り組んでいる」もしくは「やや熱心に取り組んでいる」と答えた学生が最も多かったのは神学部で、100%である。その次に高い学部は、社会学部の68%であった。

一般教養科目に関しては約50%～80%の学生が「熱心に取り組んでいる」か「やや熱心に取り組んでいる」と回答した。言語科目に至っては、ほぼ全ての学部で80%以上の学生が「熱心に取り組んでいる」か「やや熱心に取り組んでいる」と回答した。

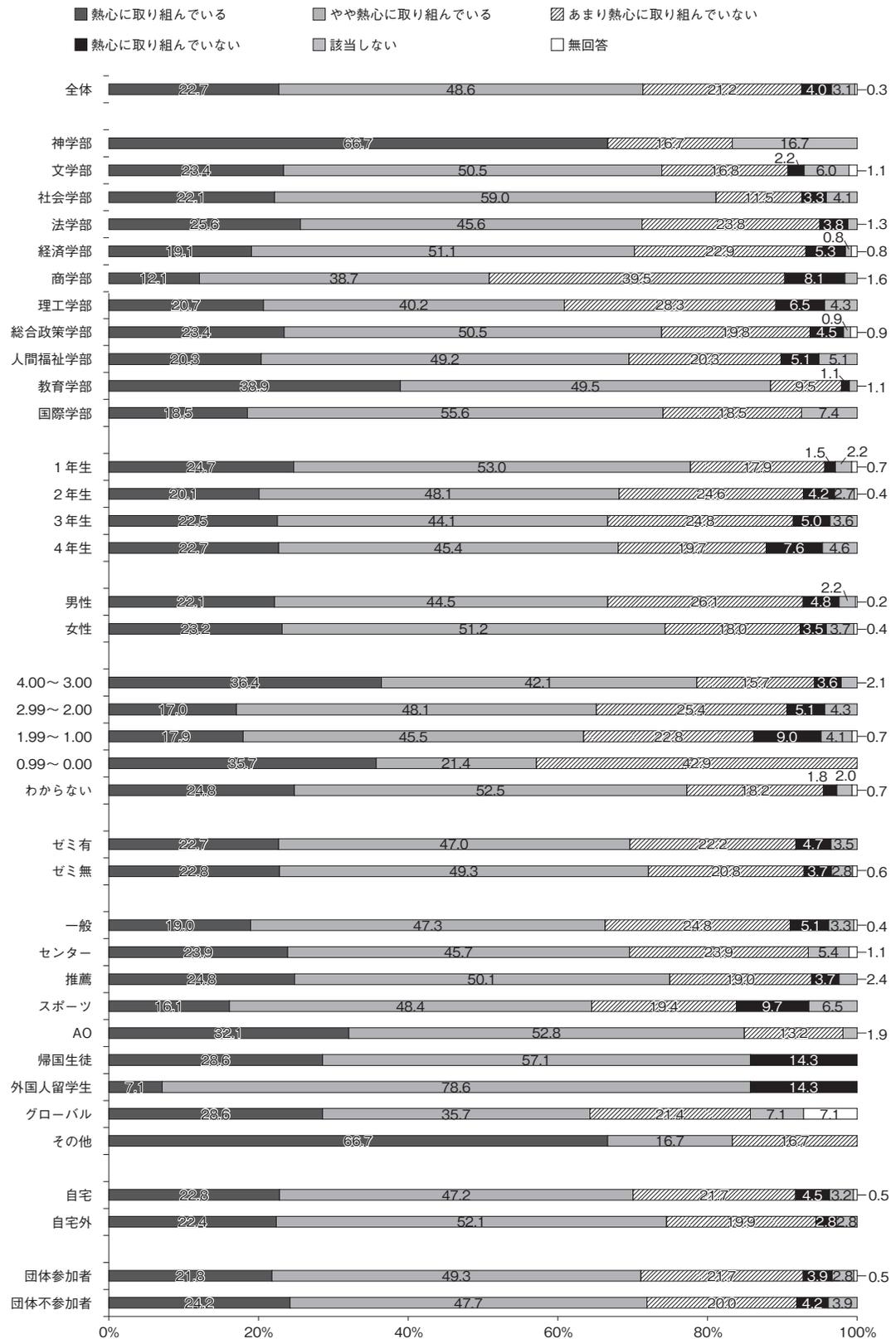
専門科目に関しては「熱心に取り組んでいる」と答えた人数が一番多いのが神学部であった(83.3%)。「熱心に取り組んでいる」か「やや熱心に取り組んでいる」と回答した学生に関しては理工学部(90.2%)と文学部(88.6%)、教育学部(97.9%)が高い数値を示していた。

卒業論文や卒業研究に関して「熱心に取り組んでいる」と回答した学生が最も高いのが神学部(33.3%)で、その次に高いのが人間福祉学部の(25.4%)であった。GPA別で見た際に、3.00～4.00の学生が最も高く(27.9%)、GPAが下がるにつれて熱心に取り組む人数も減少傾向にあることから、4年間を通した学習に対する評価と卒業論文や卒業研究に対する意識には何らかの関係があると考えられる。

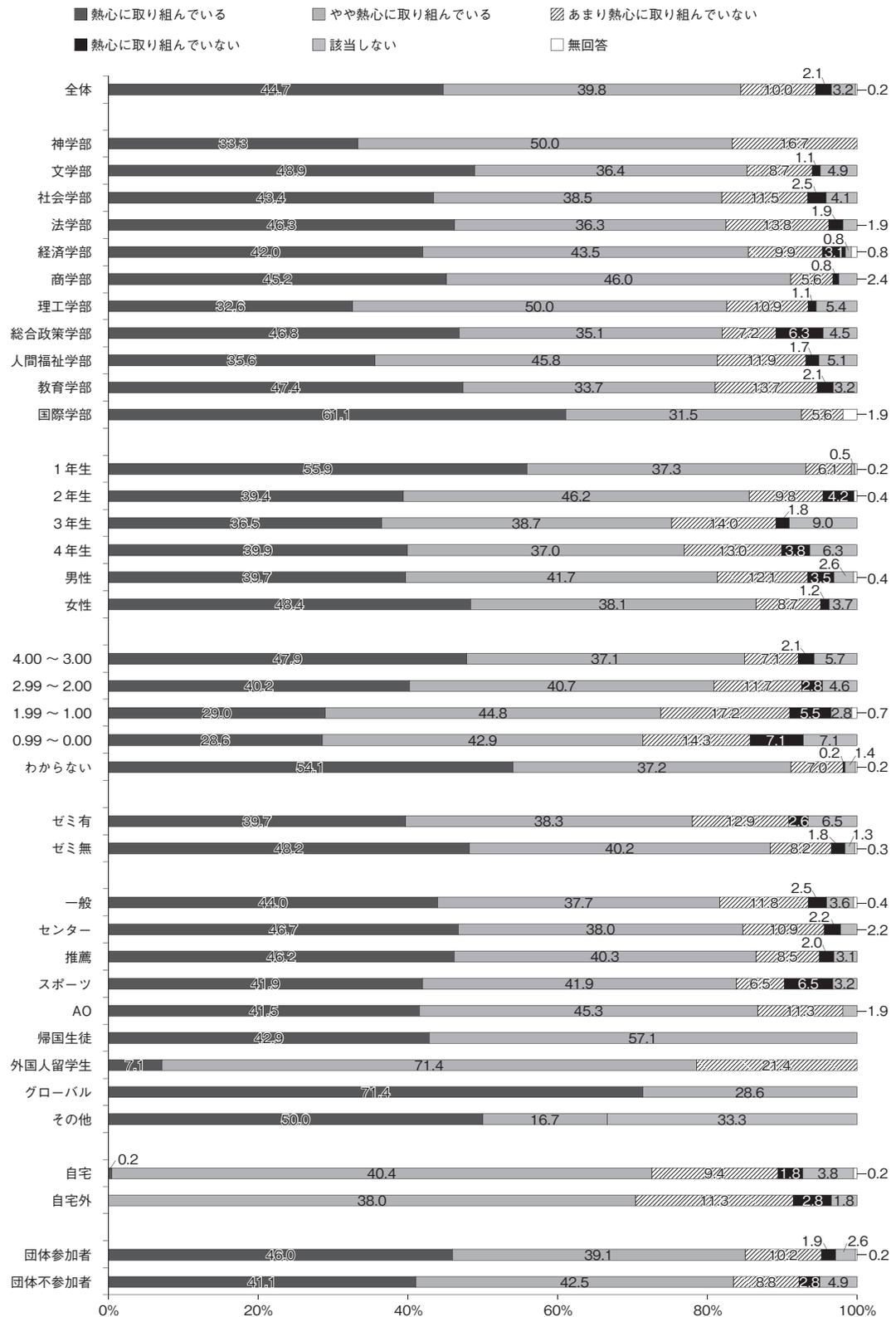
図Ⅱ-6-1 授業区分ごとの熱心度 A キリスト教科目



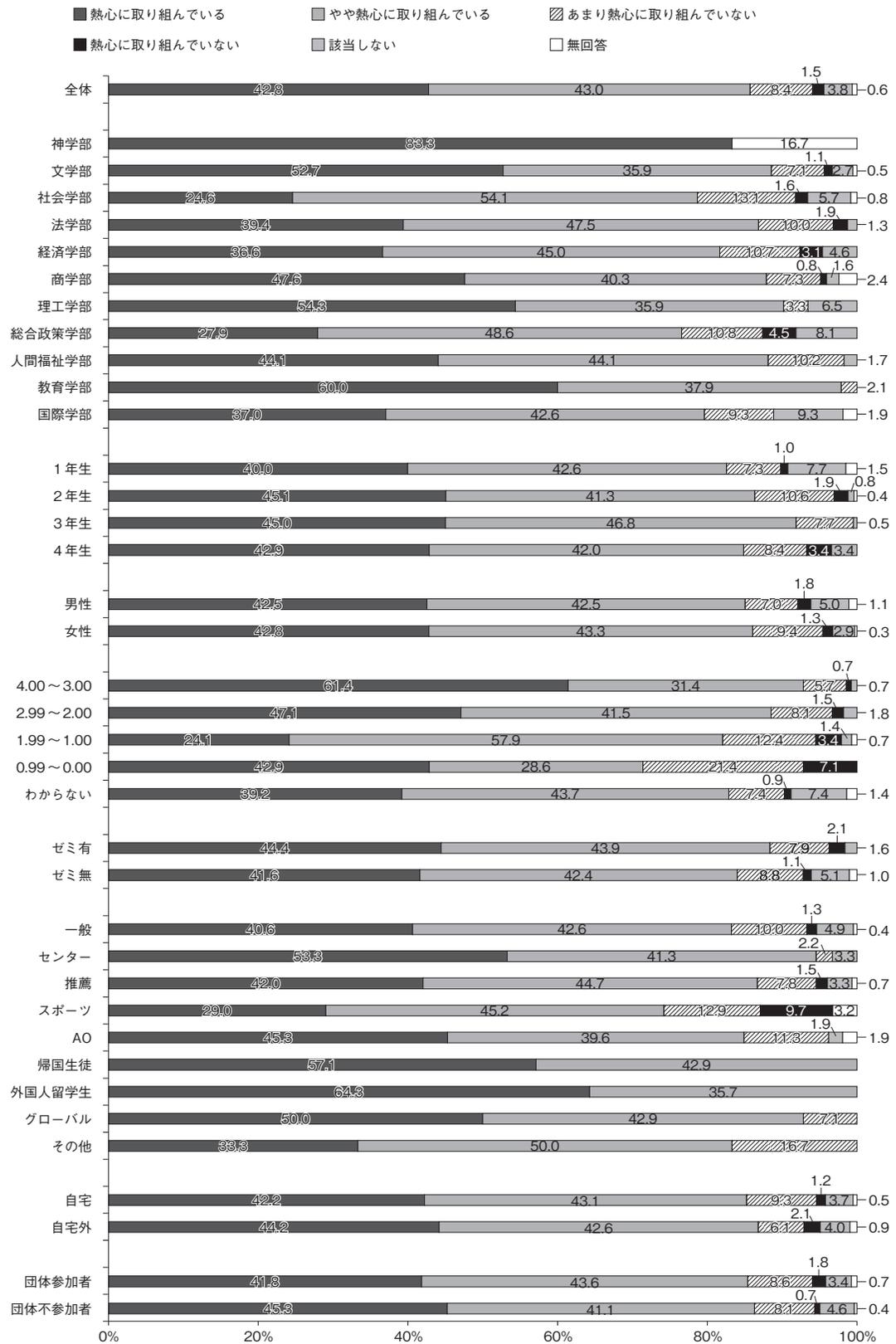
図Ⅱ-6-2 授業区分ごとの熱心度 B 一般教養科目



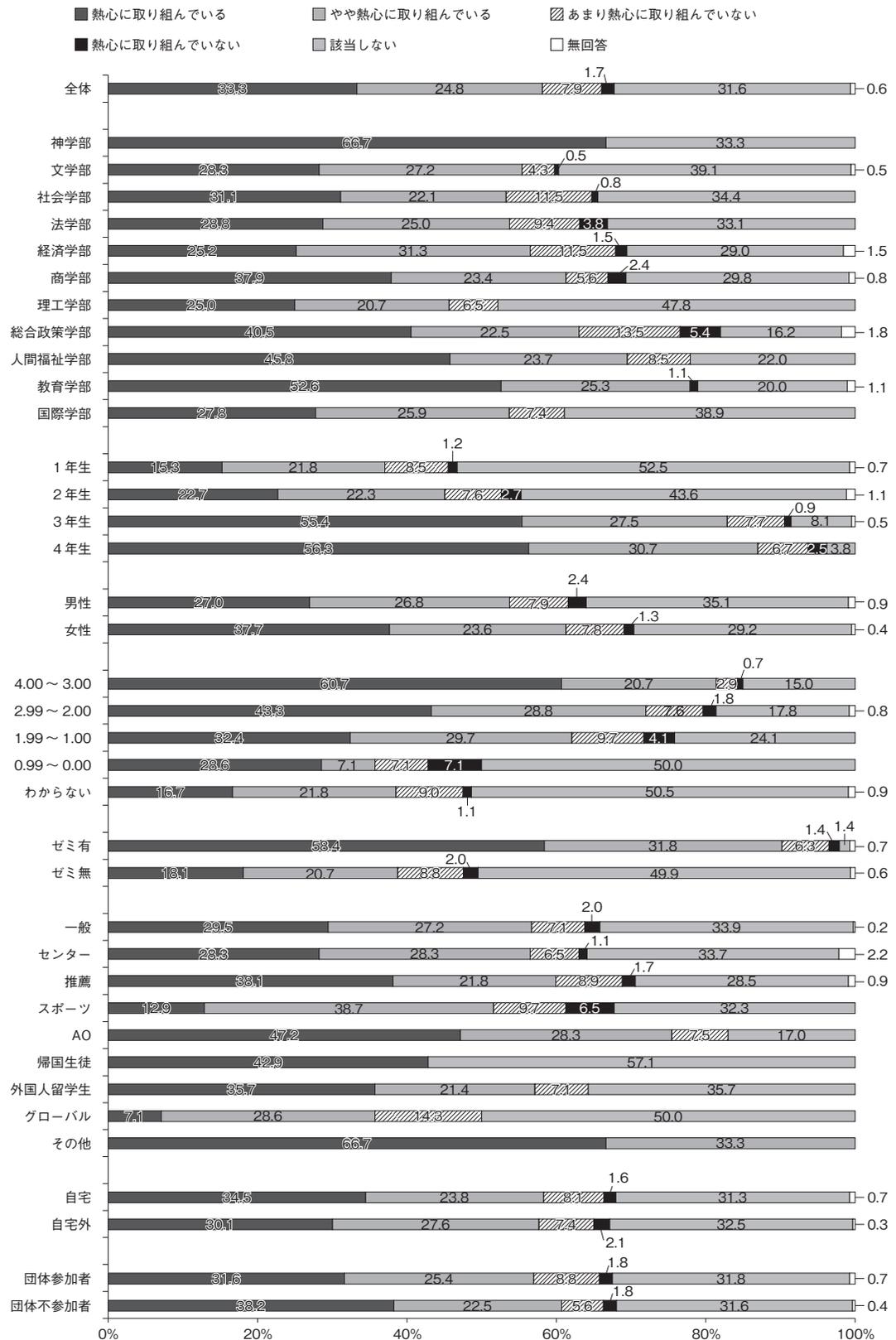
図Ⅱ-6-3 授業区分ごとの熱心度 C 言語（外国語）科目



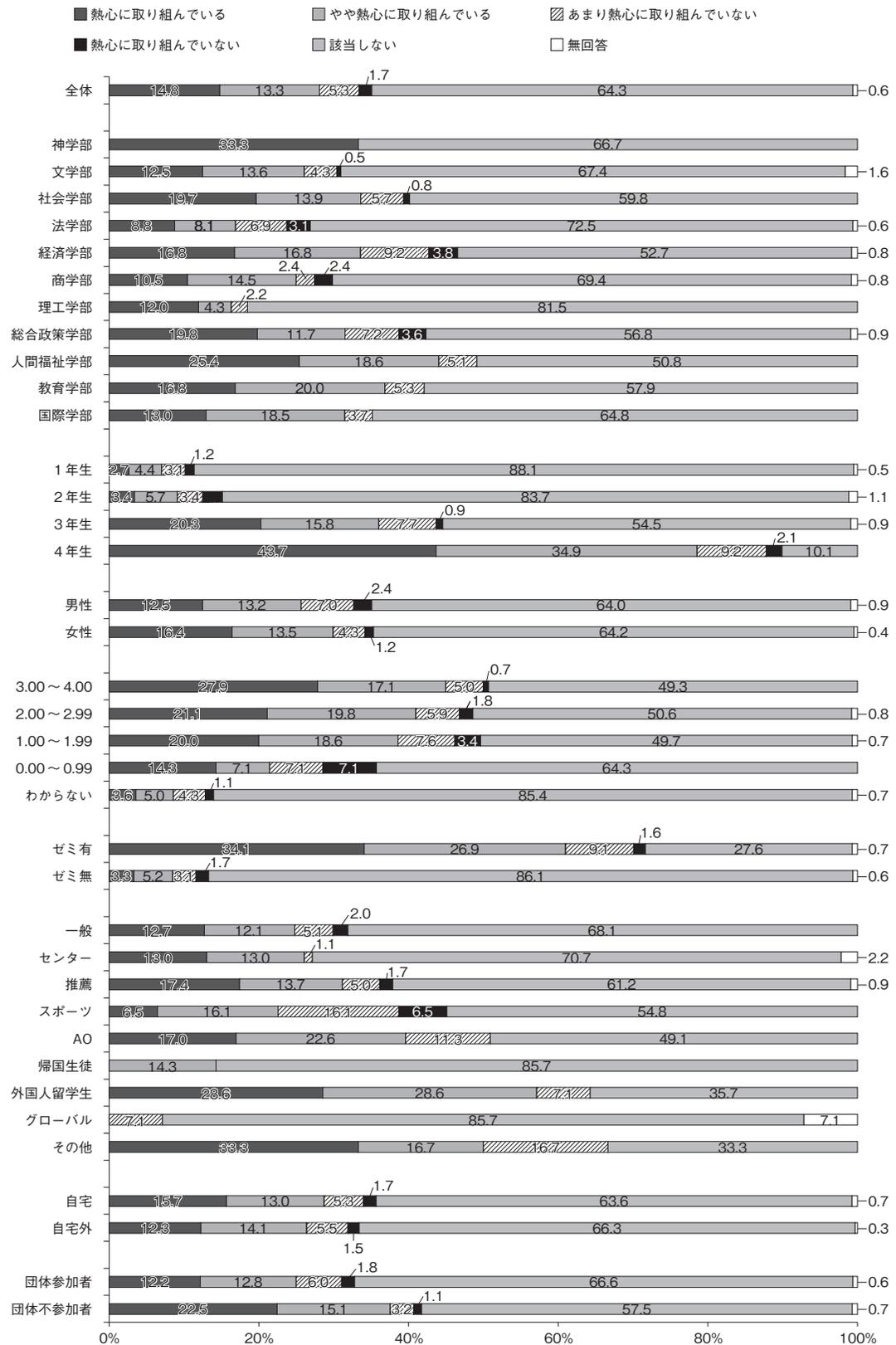
図Ⅱ-6-4 授業区分ごとの熱心度 D 専門科目



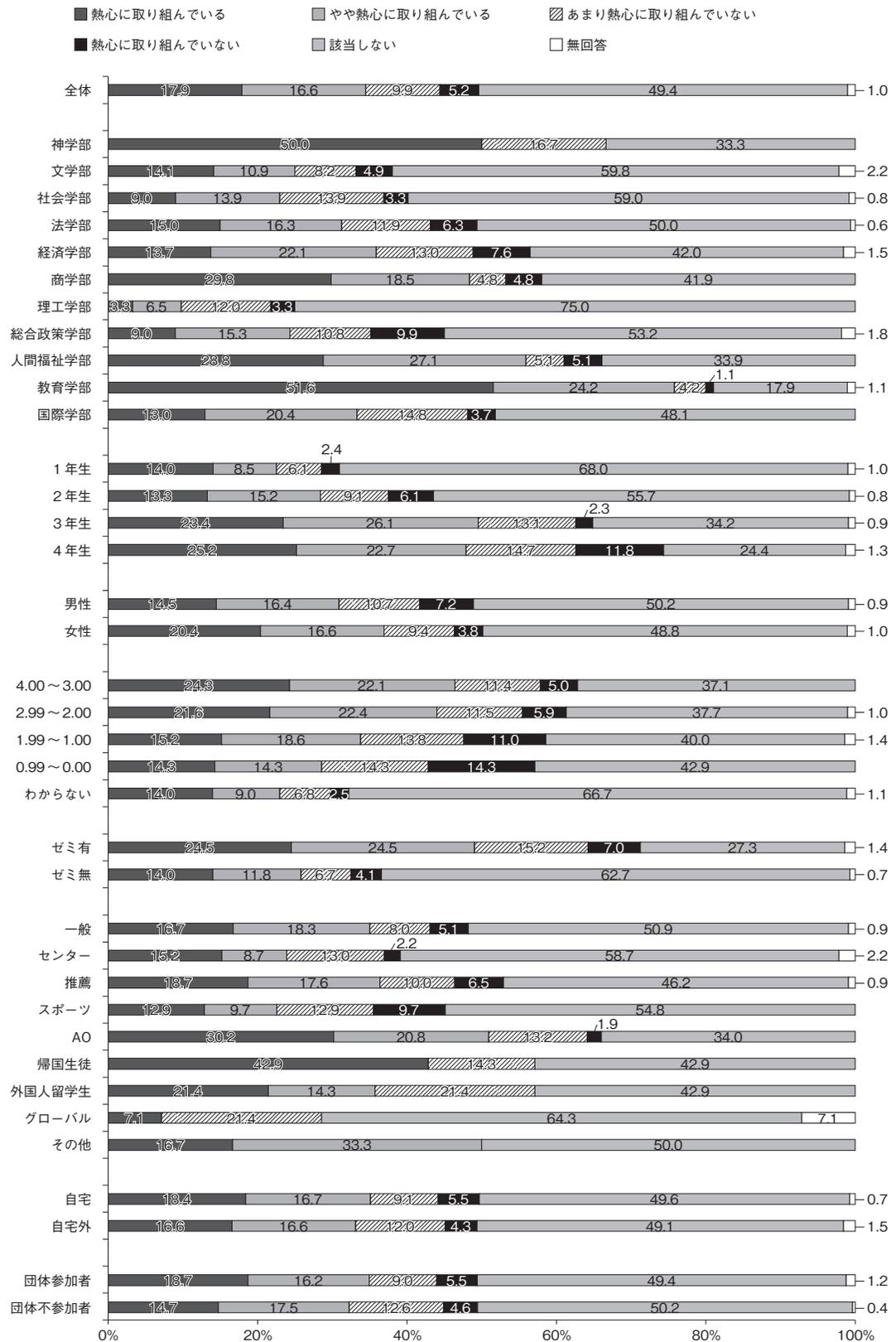
図Ⅱ-6-5 授業区分ごとの熱心度 E セミナールや実習



図Ⅱ-6-6 授業区分ごとの熱心度 F 卒業論文・卒業研究



図Ⅱ-6-7 授業区分ごとの熱心度 G 資格関連科目



## 7. 将来の夢や目標

### Summary

具体性のある・なしはあるが、1,143名のうち636名の回答があった。ただし、「今は特にない」という回答も18件あった。一般的な企業への就職が回答者のうち25.3%と最も高く、次いで、23.3%の学生が教職を含む何らかの資格の取得を目指している。また、「海外でグローバルに活躍したい。」というような回答も10.7%あり、本学におけるスーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）やグローバル人材育成推進事業（GGJ）等の取り組みが影響を及ぼしていると考えられる。

Q 7-1. 将来の夢や目標はありますか。あれば記入してください。

一般的な企業への就職を望む学生が回答者のうち25.3%と最も多く、次いで教員（11.5%）、公務員（9.9%）となっている。留学や国際機関への就職、海外でグローバルに働きたいというような回答も合計で10.7%あると共に、企業への就職の回答の中にも「パイロット」や「キャビンアテンダント」、「企業での海外勤務」といった回答もあり、本学のグローバル化の取り組みが影響を与えていると考えられる。

保育士を目指す学生は3.6%（23名）おり、資格の関係から全て教育学部の学生と仮定すると、教育学部の24.2%の学生が保育士を目指していることとなる。

「幸せになる」や「お金持ちなる」、「社会に貢献する」、「ゼミでの内容を活かした仕事に就く」等具体的には表現されていない回答も18.4%あった。

少数ではあるが、建築士や弁護士、公認会計士、税理士等学部での学びから資格取得を目指しているであろう学生がいる。また、教職を含む資格の取得を目指している学生は23.3%となっている。

## 8. 目標に向けた取り組み

### Summary

「何をすべきかわかっている」学生は、合わせて47.3%いるが、「実際に行動に移している」学生になると29.0%になってしまう。また、「将来の夢や目標が明確になっていない」学生も29.4%もいる。

学部別では、神学部では80%以上の学生が「何をすべきかわかっており、実行している」と回答している。また、人間福祉学部や教育学部でも40%以上の学生が、「何をすべきかわかっており、実行している」とのことであった。これらの学部では、大学での学びが将来の夢や目標に繋がっていると推測される。

Q 7-2. 将来の夢や目標の実現に向けて大学でどのように取り組んでいますか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 何をすべきかがわかっており、実行している
- 2 何をすべきかわかっているが、実行はできていない
- 3 将来の夢や目標はあるが、具体的に何をすべきかわからない
- 4 将来の夢や目標が明確になっていない

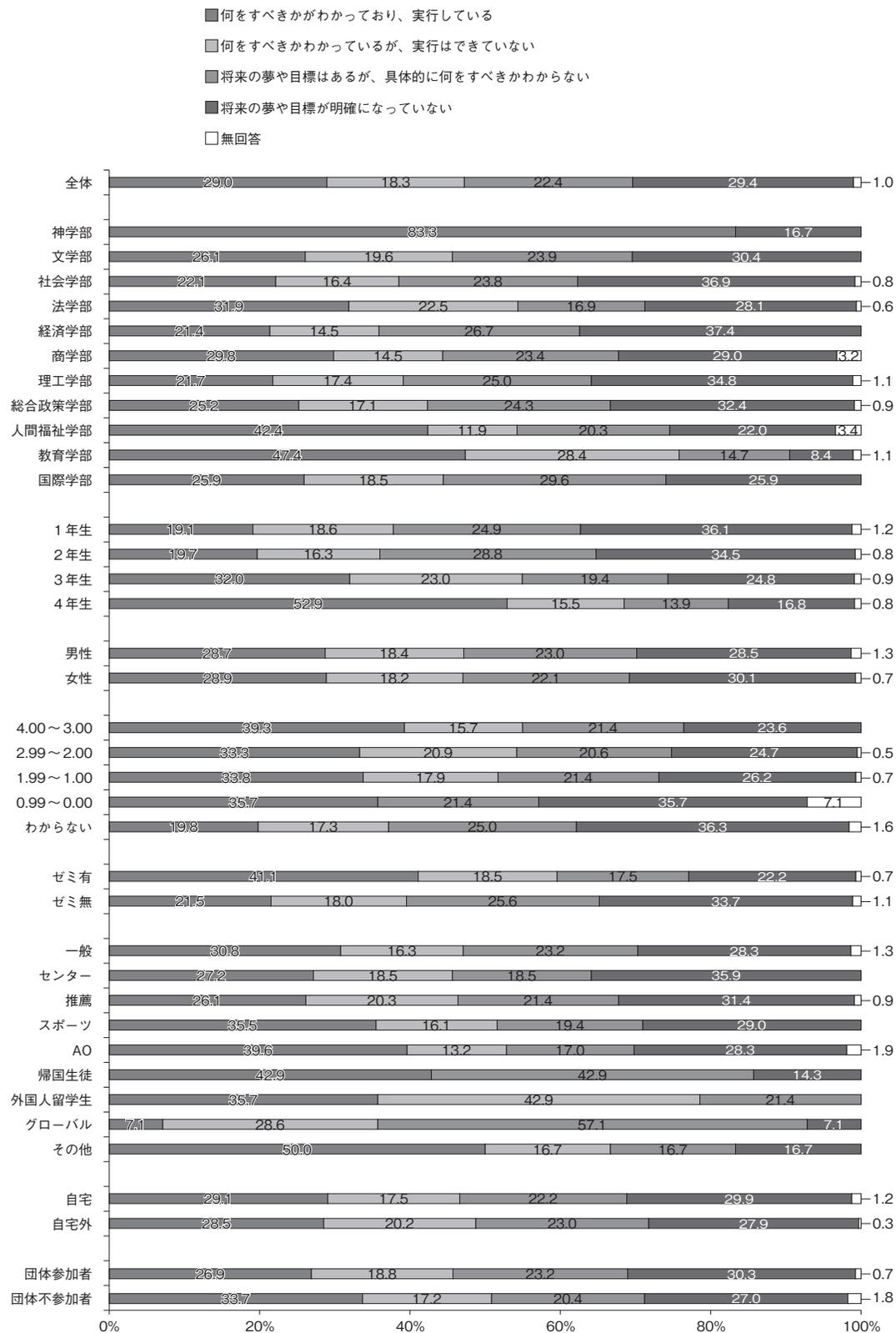
全体では、「何をすべきかわかっており、実行している」が29.0%、「何をすべきかわかっているが、実行はできていない」が18.3%と合わせて47.3%が「何をすべきかわかっている」学生である。一方で約3割の学生（29.4%）は「将来の夢や目標が明確になっていない」。

学部別では、神学部の83.3%の学生が、「何をすべきかわかっており、実行している」。また、人間福祉学部では42.4%、教育学部では47.4%の学生が、「何をすべきかわかっており、実行している」。教育学部では、「将来の夢や目標が明確になっていない」学生が8.4%と他学部に比べて格段に低い。これらの学部では、大学での学びが将来の夢や目標に繋がっていると推測される。

学年別では、4年生では52.9%の学生が、「何をすべきかわかっており、実行している」となっている一方で、1年生・2年生は35%前後の学生が「将来の夢や目標が明確になっていない」と回答しており、学年進行に伴って自分のすべきことを実行している様子が見えてくる。

入試形態別で見ると、AO入学試験と帰国生徒入学試験の学生の40%前後が「何をすべきかわかっており、実行している」と回答している。一方で、グローバル入学試験では、57.1%の学生が「将来の夢や目標が明確になっていない」と回答しており、「海外プログラムへの参加」（Q 5）に取り組む意欲がある一方で、将来の夢や目標に向かっては模索している様子が見えてくる。

図Ⅱ-8 将来の夢や目標、大学における学びとの関係

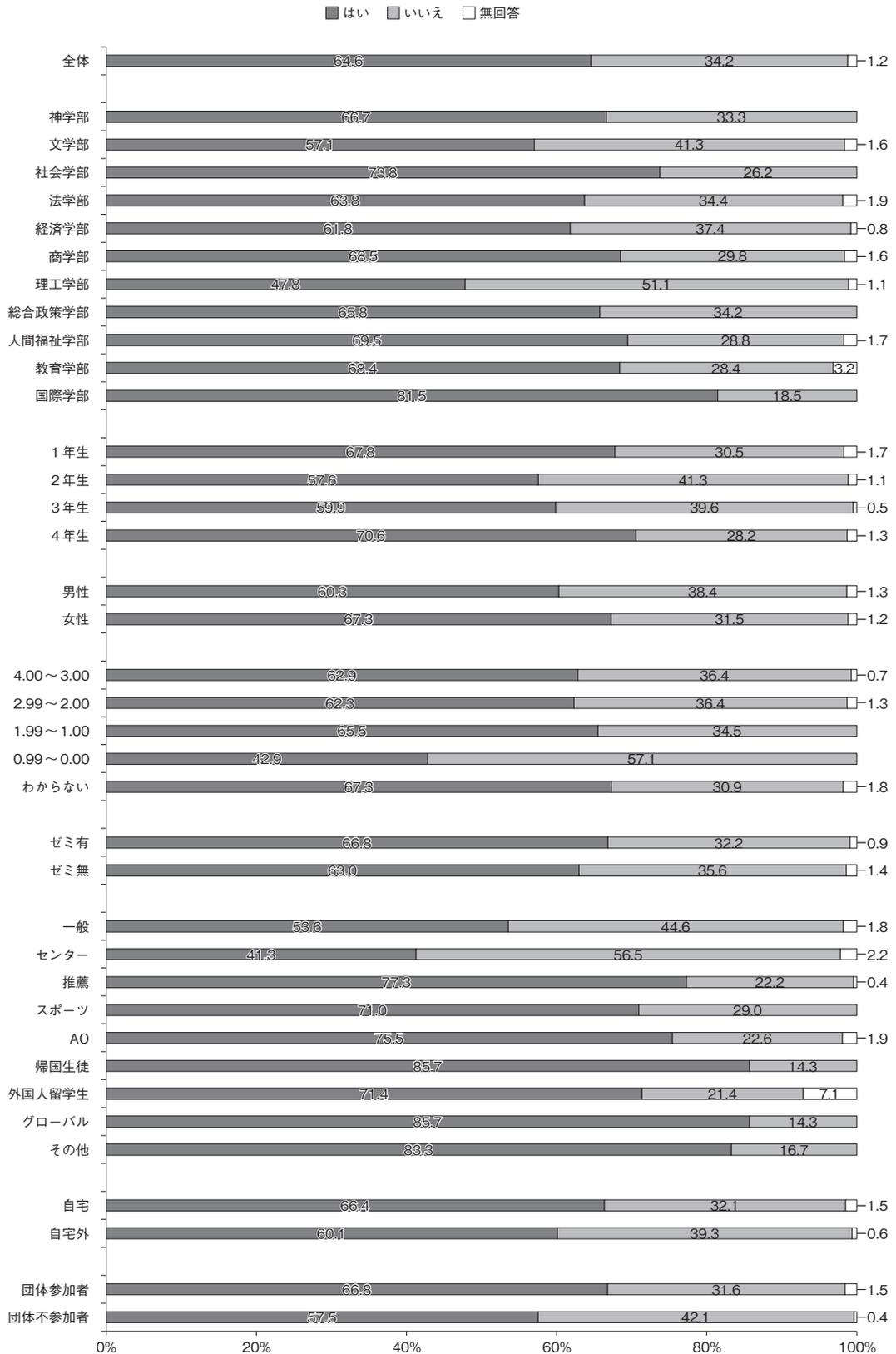




表Ⅱ-9 高校生に戻って進学するとしたら関西学院大学を選択するか（Q8）と学生生活の満足度（Q1）、関西学院大学の志望順位（Q13-2）

Q8-1	Q13-2	Q1					合計
		満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	
はい	第一志望	233	279	47	3	1	563
		41.4%	49.6%	8.3%	0.5%	0.2%	100.0%
	第二志望	59	54	4	1	1	119
		49.6%	45.4%	3.4%	0.8%	0.8%	100.0%
	それ以外	22	30	3	0	0	55
		40.0%	54.5%	5.5%	0.0%	0.0%	100.0%
	無回答	1	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	315	363	54	4	2	738	
		42.7%	49.2%	7.3%	0.5%	0.3%	100.0%
いいえ	第一志望	24	67	39	5	0	135
		17.8%	49.6%	28.9%	3.7%	0.0%	100.0%
	第二志望	18	82	18	2	0	120
		15.0%	68.3%	15.0%	1.7%	0.0%	100.0%
	それ以外	26	68	28	13	1	136
		19.1%	50.0%	20.6%	9.6%	0.7%	100.0%
	合計	68	217	85	20	1	391
		17.4%	55.5%	21.7%	5.1%	0.3%	100.0%
無回答	第一志望	2	1	0	0	0	3
		66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	第二志望	2	1	0	0	0	3
		66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	それ以外	1	2	0	0	0	3
		33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	無回答	2	2	1	0	0	5
		40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	7	6	1	0	0	14	
		50.0%	42.9%	7.1%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	第一志望	259	347	86	8	1	701
		36.9%	49.5%	12.3%	1.1%	0.1%	100.0%
	第二志望	79	137	22	3	1	242
		32.6%	56.6%	9.1%	1.2%	0.4%	100.0%
	それ以外	49	100	31	13	1	194
		25.3%	51.5%	16.0%	6.7%	0.5%	100.0%
	無回答	3	2	1	0	0	6
		50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	390	586	140	24	3	1143	
		34.1%	51.3%	12.2%	2.1%	0.3%	100.0%

図Ⅱ-9 高校に戻って進学する場合、本学に進学を希望する割合



## 10. 関西学院大学の推奨度

### Summary

母校の推奨度に対して、肯定的な回答が7割を超えている。また学生生活への満足度が高いほど、母校の推奨度も高くなることが示された。

Q 8-2. あなたは、兄弟姉妹や親しい友人・後輩に関西学院大学への受験や入学を勧めますか。

- 1 強くそう思う                      2 そう思う  
3 あまりそう思わない              4 まったくそう思わない

この設問は、Q 1の学生生活の満足度と同様に、在学生在が本学の価値をどう判断しているかを把握するための重要な指標の1つと言える。

前回調査と比較すると、「強くそう思う+そう思う」という肯定的な回答をしている割合は、前回は76.9%、今回は74.1%で大きな差は見られなかった。

所属学部別では、肯定的な回答をしている割合がほとんどの学部において7割から8割近くを占めているのに対して、理工学部は54.3%と最も低かった。他学部と比べて低くなった要因は何か、さらなる分析が必要である。

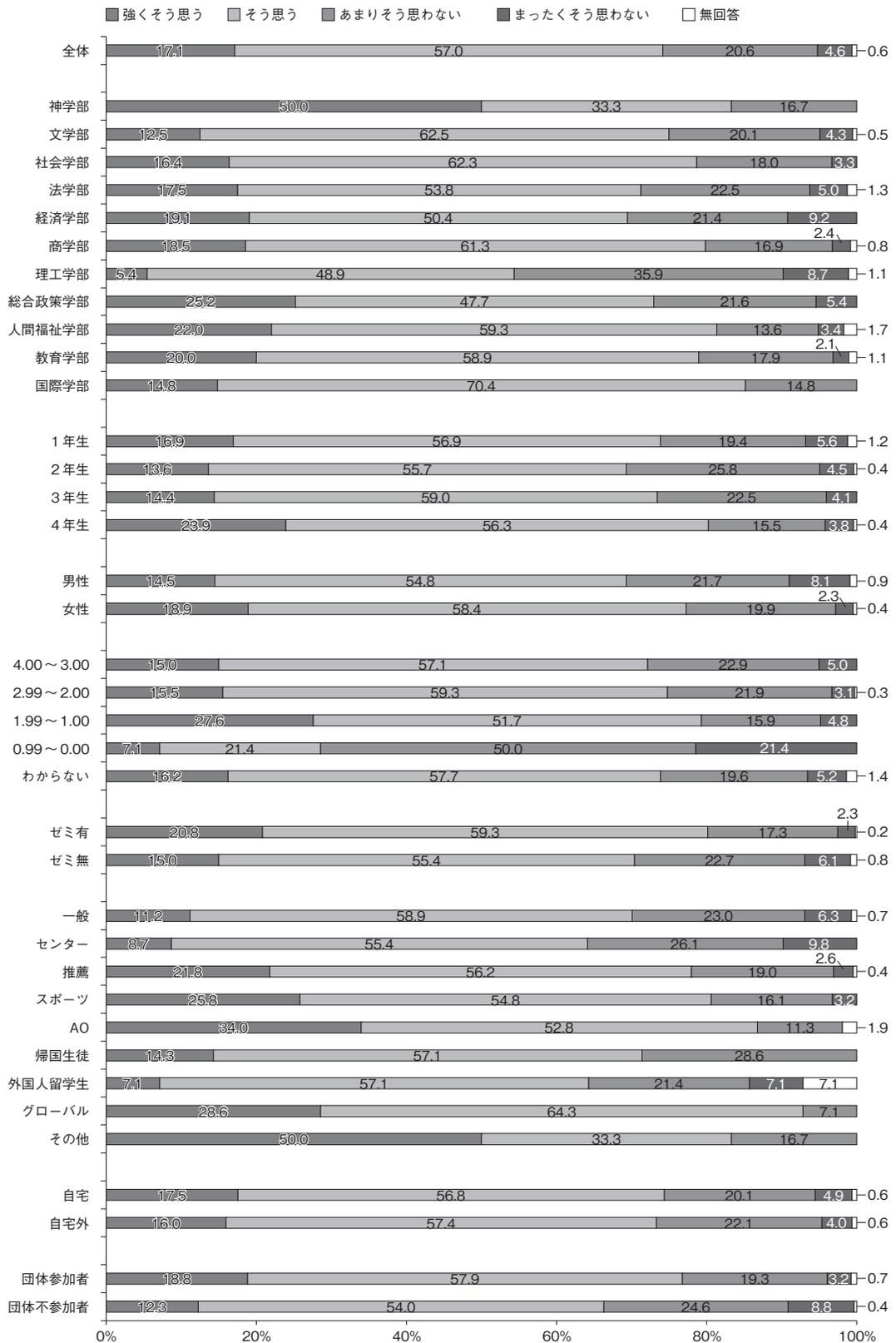
また、以下の表Ⅱ-10は、「Q 1. あなたは現在、今の学生生活にどの程度満足していますか。」の設問との関係性を示したものである。

表Ⅱ-10 関西学院大学の推奨度（Q 8-2）と学生生活の満足度（Q 1）のクロス表

		Q 1					合計	
		満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答		
Q 8-2	強くそう思う	度数	120	69	6	1	0	196
		Q8-2の%	61.2%	35.2%	3.1%	.5%	0.0%	100.0%
		残差	53.1	-31.5	-18.0	-3.1	-.5	
	そう思う	度数	222	367	58	2	2	651
		Q8-2の%	34.1%	56.4%	8.9%	.3%	.3%	100.0%
		残差	-.1	33.2	-21.7	-11.7	.3	
	あまりそう思わない	度数	40	130	57	8	1	236
		Q8-2の%	16.9%	55.1%	24.2%	3.4%	.4%	100.0%
		残差	-40.5	9.0	28.1	3.0	.4	
	まったくそう思わない	度数	5	17	18	13	0	53
		Q8-2の%	9.4%	32.1%	34.0%	24.5%	0.0%	100.0%
		残差	-13.1	-10.2	11.5	11.9	-.1	
無回答	度数	3	3	1	0	0	7	
	Q8-2の%	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%	
	残差	.6	-.6	.1	-.1	.0		
合計	度数	390	586	140	24	3	1143	
	Q8-2の%	34.1%	51.3%	12.2%	2.1%	.3%	100.0%	

上記の結果より、Q 1の設問において学生生活に「満足している」または「やや満足している」と回答している場合は、Q 8-2についても「強くそう思う」あるいは「そう思う」と回答する割合が総じて高いことが示された。このことから、学生生活の満足度と母校の推奨度には強い関係性があると推測される。学生自らの学生生活の満足度が上がることが、他者に自分の大学を勧めるという行動に結びつく可能性もあり、この設問における肯定的な回答が増加することが、学生確保や大学全体の価値向上にもつながっているということが言えるだろう。今後もこの設問の調査が継続的に行われることが期待される。

図Ⅱ-10 関西学院大学の推奨度



## 11. スクールモットーの理解度

### Summary

学生の4人に3人は、スクールモットー“Mastery for Service”の意味をある程度説明できると考えている。特に神学部、国際学部では半分以上の学生が「説明できる」と回答し、理解が進んでいた。

Q9. あなたは、スクールモットー“Mastery for Service”の意味を説明できますか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

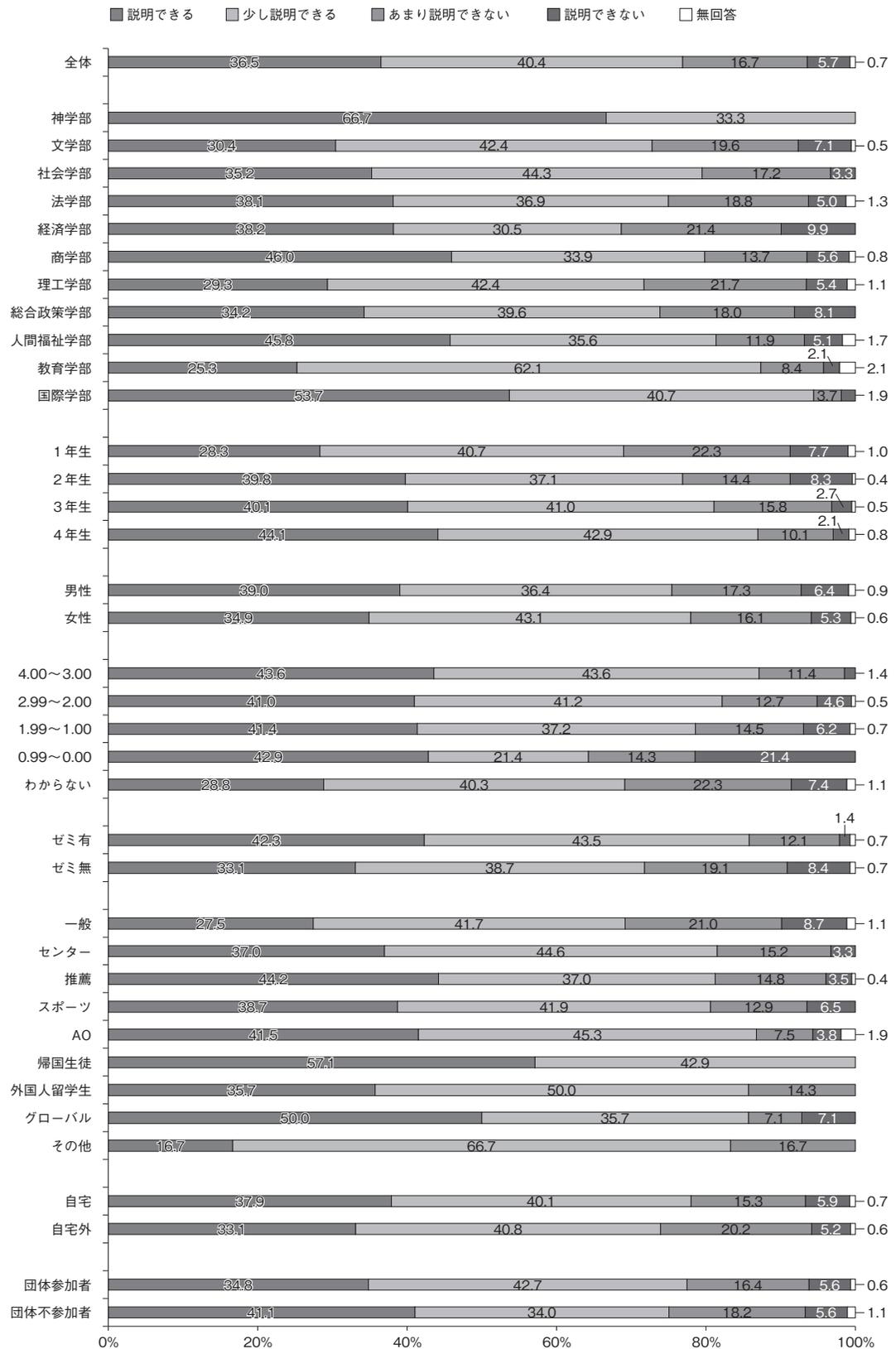
- |             |           |
|-------------|-----------|
| 1 説明できる     | 2 少し説明できる |
| 3 あまり説明できない | 4 説明できない  |

“Mastery for Service”の理解度を尋ねる設問で、初めて調査項目に入った前々回は「理解していますか」と尋ねたのに対し、前回からはより前向きに「意味を説明できるか」という設問になった。全体で見ると、「説明できる」と「少し説明できる」を合わせると76.9%で、前回と全く同じ数値となった。「説明できる」は36.5%で前回より2.5ポイント上がり、「少し説明できる」は40.4%で2.5ポイントの減少であった。自信を持って説明できる学生がやや増え、全体でもほぼ4人に3人は、スクールモットーをある程度は伝えられると考えているようだ。

学部別でみると、「説明できる」「少し説明できる」の合計では、神学部が回答母数が少ない（計6人）ものの100%（前回88.9%）で、国際学部94.4%（同83.6%）、教育学部87.4%（同78.9%）、人間福祉学部81.4%（同84.5%）と続いた。「説明できる」だけに限ると、神学部66.7%（同55.6%）、国際学部53.7%（同52.7%）が群を抜き、商学部46.0%（同34.5%）、人間福祉学部45.8%（同36.6%）の順だった。前回に引き続き、神学部、国際学部の理解度が高いことが目立つ結果となった。教育学部は「説明できる」が25.3%（同27.1%）と低いものの、「少し説明できる」が62.1%（同51.8%）と高いという特徴があり、前回よりも際立っていた。「説明できない」「無回答」の合計では、経済学部9.9%（同6.8%）、総合政策学部8.1%（同7.9%）、文学部7.6%（同7.0%）の順だった。

学年別では、「説明できる」は1年生から順に28.3%（同27.6%）、39.8%（同31.1%）、40.1%（36.5%）、44.1%（同40.3%）と、学年が上がるほど高くなる当たり前の結果だったが、いずれも前回より高くなっており、理解度が進んでいることがわかる。一方で「説明できない」「無回答」の合計は1年生と2年生が同じ8.7%（前は1年生12.8%、2年生8.7%）だった。入試区分別でみると、「説明できる」は帰国生徒入学試験57.1%、グローバル入学試験50.0%と続くが、推薦入学試験も44.2%と高かった。

図Ⅱ-11 スクールモットーの理解度



## 12. 関西学院の使命

### Summary

関西学院が「世界市民の育成」を使命としていることは、9割近くの学生が知っていた。中でも神学部、国際学部の学生が特に高かった。

Q10. あなたは関西学院が「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成を使命としていることを知っていますか。

- 1 知っている                      2 知らない

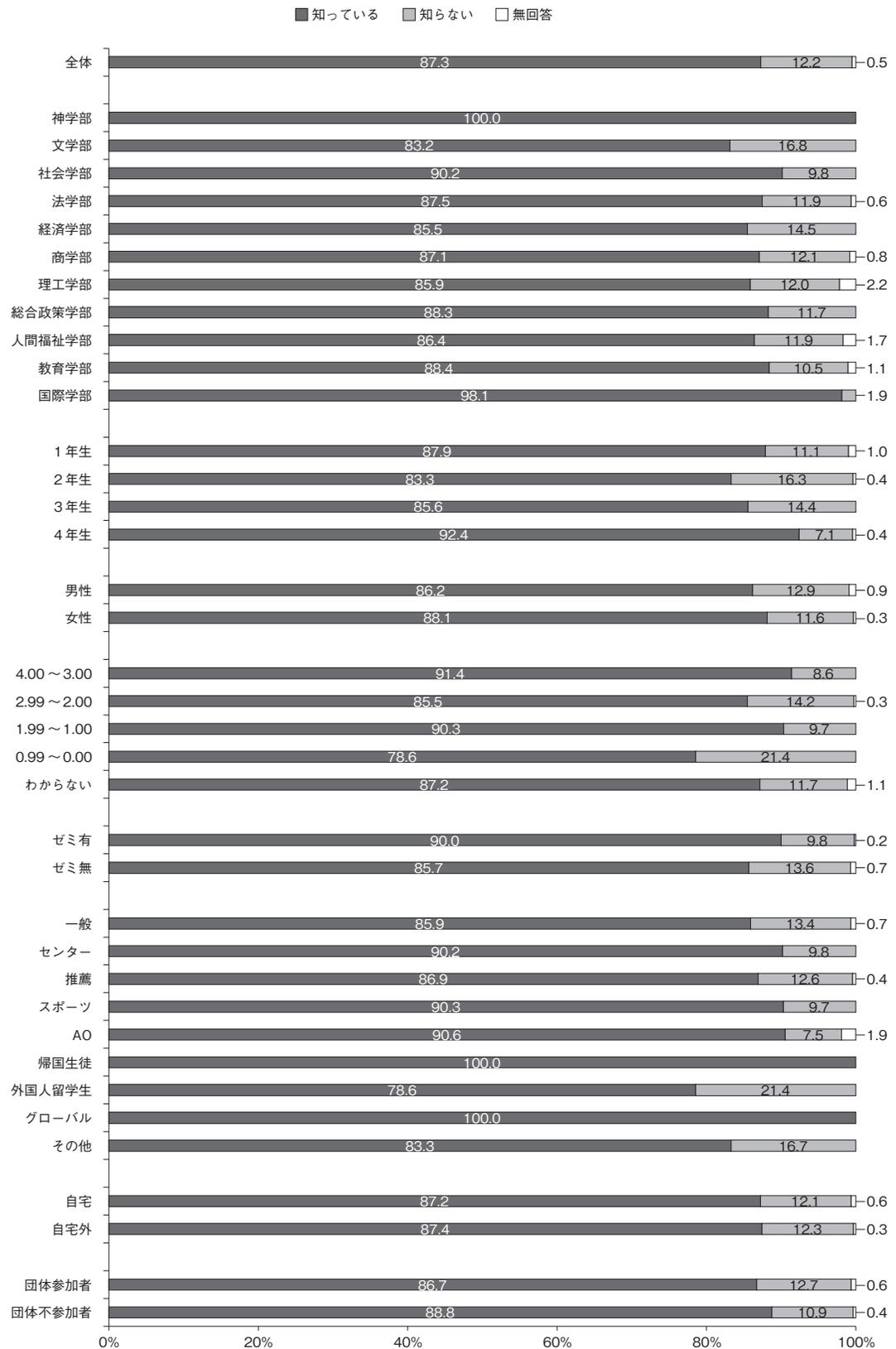
この設問も、前々回から続く3回目の調査項目である。全体では、87.3%の学生が「知っている」と答え、前々回の78.6%、前回の85.5%よりさらに上昇し、「世界市民の育成」という使命がかなり浸透してきたことがうかがえる。

学部別では、今回はすべての学部で80%を超えた。中でも神学部が100%（前回88.9%）、国際学部が98.1%（同90.9%）と非常に高く、ほとんどの学生が認知していた。続いて社会学部90.2%（同87.8%）、教育学部88.4%（同85.9%）、総合政策学部88.3%（同83.3%）、法学部87.5%（同83.3%）の順で、いずれも昨年の数値を上回った。しかし、前回は91.5%と最も高かった経済学部は85.5%と6ポイント下がった。一方で、前回72.5%と最も低かった理工学部は85.9%と全体平均の近くまで上昇した。「知らない」「無回答」の合計は、文学部16.8%、経済学部14.5%、理工学部14.2%の順だった。

学年別で見ると、「知っている」は1年生が87.9%で、4年生の92.4%に次いで高く、2年生83.3%、3年生85.6%を上回った。大学案内や入試説明会でのPRが功を奏した結果なのだろうか。

入試区分別で見ると、「知っている」と答えたのは、グローバル入学試験（計14人）と帰国生徒入学試験（計7人）が100%で、以下、AO入学試験90.6%、スポーツ選抜入学試験90.3%、センター利用入学試験90.2%と続いた。一般入学試験は85.9%、推薦入学試験は86.9%だった。

図Ⅱ-12 関西学院の使命の認知度



## 13. キリスト教の影響

### Summary

自分自身の考え方や生き方に対してキリスト教の影響を受けていると思う学生は、全体として3割程度である。所属学部間比較ではその回答にばらつきがみられる。

Q11. あなたは、関西学院でキリスト教に触れることで、自分自身の考え方や生き方に影響を受けていると思いますか。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 強くそう思う    | 2 そう思う       |
| 3 あまりそう思わない | 4 まったくそう思わない |

この設問は、評価情報分析室が自己点検・評価における評価指標となり得るデータとして、2004年度からCCA調査に連動して毎回調査してきたが、今回はCCA調査の設問の1つに加えられた。キリスト教主義に基づいた人格の陶冶を目的としている本学において、学生へのキリスト教の影響度を把握することは重要である。

表Ⅱ-13は、「強くそう思う＋そう思う」と回答した割合の学部別の経年変化を示している。

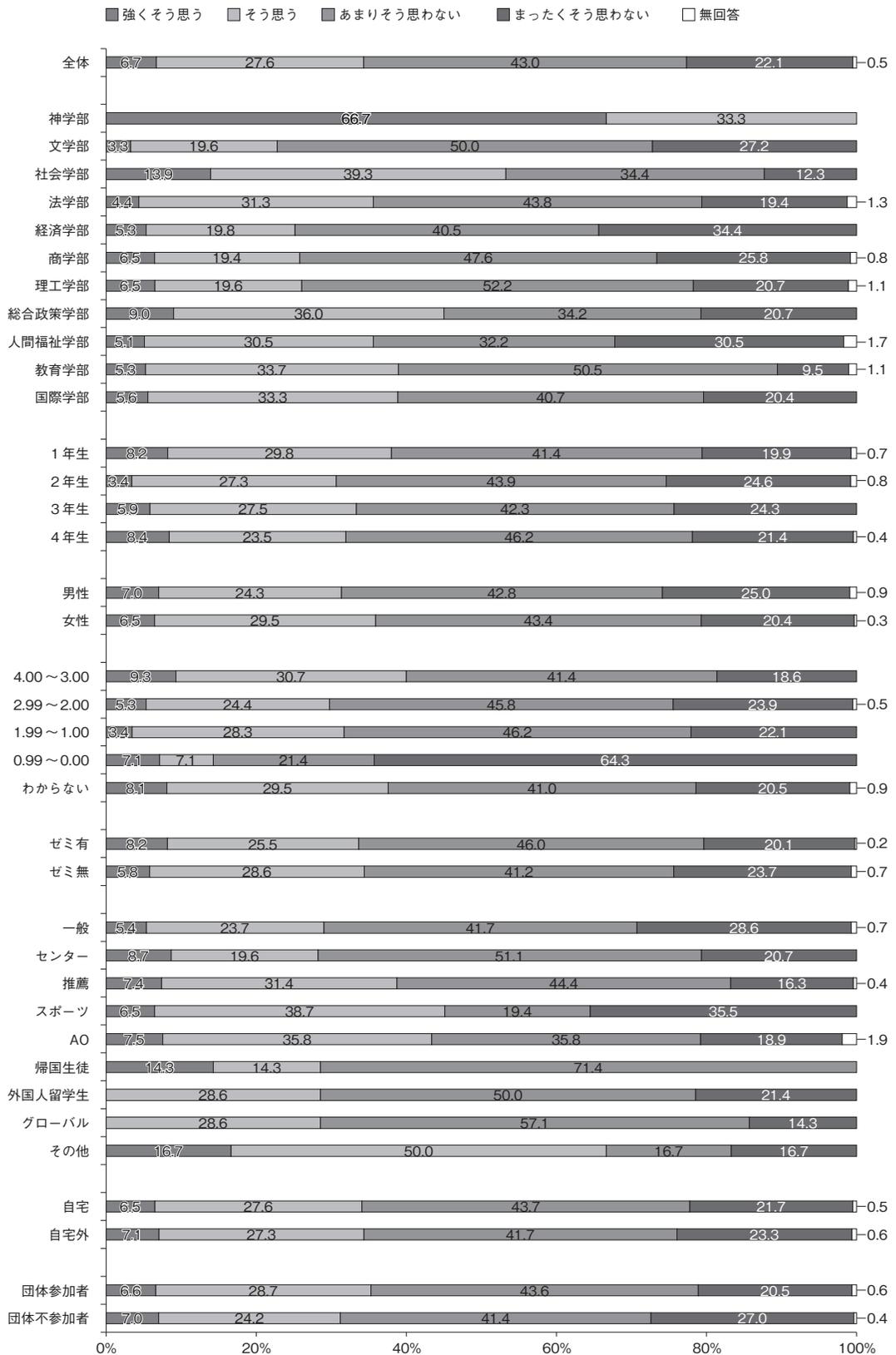
表Ⅱ-13 「強くそう思う＋そう思う」と回答した割合の学部別の経年変化

	2004年度	2006年度	2008年度	2010年度	2012年度	2014年度	2016年度
神学部	62.5	66.7	50.0	83.3	75.0	77.7	100.0
文学部	27.7	25.9	26.8	26.4	23.4	28.1	22.9
社会学部	36.5	42.4	43.2	46.5	47.5	41.4	53.2
法学部	22.4	28.1	32.0	21.3	34.2	24.6	35.7
経済学部	26.7	19.7	20.9	25.7	28.6	26.5	25.1
商学部	24.8	25.6	28.7	24.4	34.6	32.8	25.9
理工学部	28.1	26.2	34.8	36.7	38.6	27.6	26.1
総合政策学部	23.9	32.8	31.4	35.8	32.4	37.7	45.0
人間福祉学部			42.3	35.2	34.3	23.9	35.6
教育学部				25.6	36.6	33.0	39.0
国際学部				76.5	25.6	41.8	38.6
全体	27.6	29.4	31.5	31.7	33.6	31.7	34.3

調査に回答した学生の3割程度が、キリスト教からの影響を受けていると回答している。2004年度からの経年でみると、今回が最もその割合が高かった(34.3%)。

所属学部別でその割合を比較する。神学部の場合は、「強くそう思う＋そう思う」と回答した割合が他学部に比べて高くなることは、学部の性格上予想されるが、今回の調査では100%となった。また神学部以外の学部間比較をすると、今回の調査では社会学部が最も高く、半数以上の53.2%がキリスト教からの影響を受けていると回答しており、次いで総合政策学部45.0%、教育学部39.0%と続いた。特に社会学部については、2004年度からの計7回の調査において、神学部を除くと、学部間では最も高いまたは2番目に高くなっている。また、神学部を除く学部の中では、この割合が最も高い学部と最も低い学部でこれまでも20%前後の差があったが、今回に関しては30.3%の差となった(社会学部：53.2%、文学部22.9%)。今後は、学部間でこの割合に差が拡大していることについて、どのような要因が影響をしているのかなど、さらに調査分析を進めていくことが必要だろう。

図Ⅱ-13 キリスト教の影響



## 14. チャペルへの出席頻度

### Summary

これまで7回の調査の中で、今回の調査が最もチャペルへの出席頻度が高く、チャペルの有意義度を高く感じる割合が大きかった。またチャペルへの出席機会が多いほど、チャペルを有意義に感じる傾向も強くなることが示された。

Q12-1. あなたはチャペルにどれくらいの頻度で出席していますか。

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1 頻繁に出席している | 2 時々出席している    |
| 3 たまに出席している | 4 ほとんど出席していない |

Q12-2. チャペルに出席したことは、あなたにとって有意義でしたか。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 強くそう思う    | 2 そう思う       |
| 3 あまりそう思わない | 4 まったくそう思わない |

この設問もQ11と同様に、評価情報分析室が自己点検・評価における評価指標となり得るデータとして、2004年度からCCA調査に連動して毎回調査してきたが、今回はCCA調査の設問の1つに加えられた。

表Ⅱ-14-1はQ12-1のチャペルへの出席頻度に関して「頻繁に出席している+時々出席している」の割合について、表Ⅱ-14-2はQ12-2のチャペルの有意義度に関して「強くそう思う+そう思う」という肯定的な回答の割合について、それぞれ所属学部別の経年変化を示したものである。

表Ⅱ-14-1 「頻繁に出席している+時々出席している」と回答した割合の経年変化（Q12-1）

	2004年度	2006年度	2008年度	2010年度	2012年度	2014年度	2016年度
神学部	37.5	33.3	33.3	16.7	50.0	66.7	83.3
文学部	5.6	10.2	9.1	10.9	9.5	12.9	24.4
社会学部	18.2	10.6	11.1	19.0	17.1	21.1	19.7
法学部	7.3	10.6	11.8	7.8	10.1	7.1	15.0
経済学部	11.7	8.3	6.5	5.5	10.0	12.8	7.7
商学部	10.1	17.1	8.7	13.8	16.2	18.5	18.5
理工学部	35.2	38.5	34.8	21.1	26.7	45.1	46.7
総合政策学部	17.1	23.4	19.8	16.8	20.7	33.4	35.1
人間福祉学部			46.2	24.1	23.8	16.9	15.3
教育学部				23.1	22.5	35.3	36.9
国際学部				47.1	39.5	30.9	31.5
全体	13.2	14.9	14.0	14.7	16.7	21.7	24.1

表Ⅱ-14-2 「強くそう思う+そう思う」と回答した割合の経年変化（Q12-2）

	2004年度	2006年度	2008年度	2010年度	2012年度	2014年度	2016年度
神学部	50.0	58.3	83.3	50.0	25.0	77.7	83.3
文学部	41.7	37.5	44.5	38.3	38.3	38.3	43.5
社会学部	51.2	46.4	45.1	51.4	58.9	56.9	55.0
法学部	37.5	45.6	47.9	43.3	47.3	39.7	49.9
経済学部	54.2	43.2	32.4	33.9	36.4	42.8	36.7
商学部	41.9	50.4	47.8	41.5	51.5	48.7	46.7
理工学部	46.5	47.7	43.8	32.2	36.0	35.1	43.5
総合政策学部	46.3	47.7	52.9	50.5	56.8	57.0	68.5
人間福祉学部			65.4	59.3	56.7	40.9	47.5
教育学部				46.2	52.1	58.8	48.4
国際学部				82.4	41.9	58.2	53.8
全体	45.1	44.8	45.7	43.7	47.2	47.0	49.0

Q12-1については、回答者全体に占める出席頻度の高い学生の割合が、これまでの調査の中で今回が最も高くなった（24.1%）。同様にQ12-2についても、チャペルへの出席を有意義だと思う割合が今回の調査が最も高かった（49.0%）。ただし、この両設問ともに学部間でその割合に大きなばらつきが見られる。

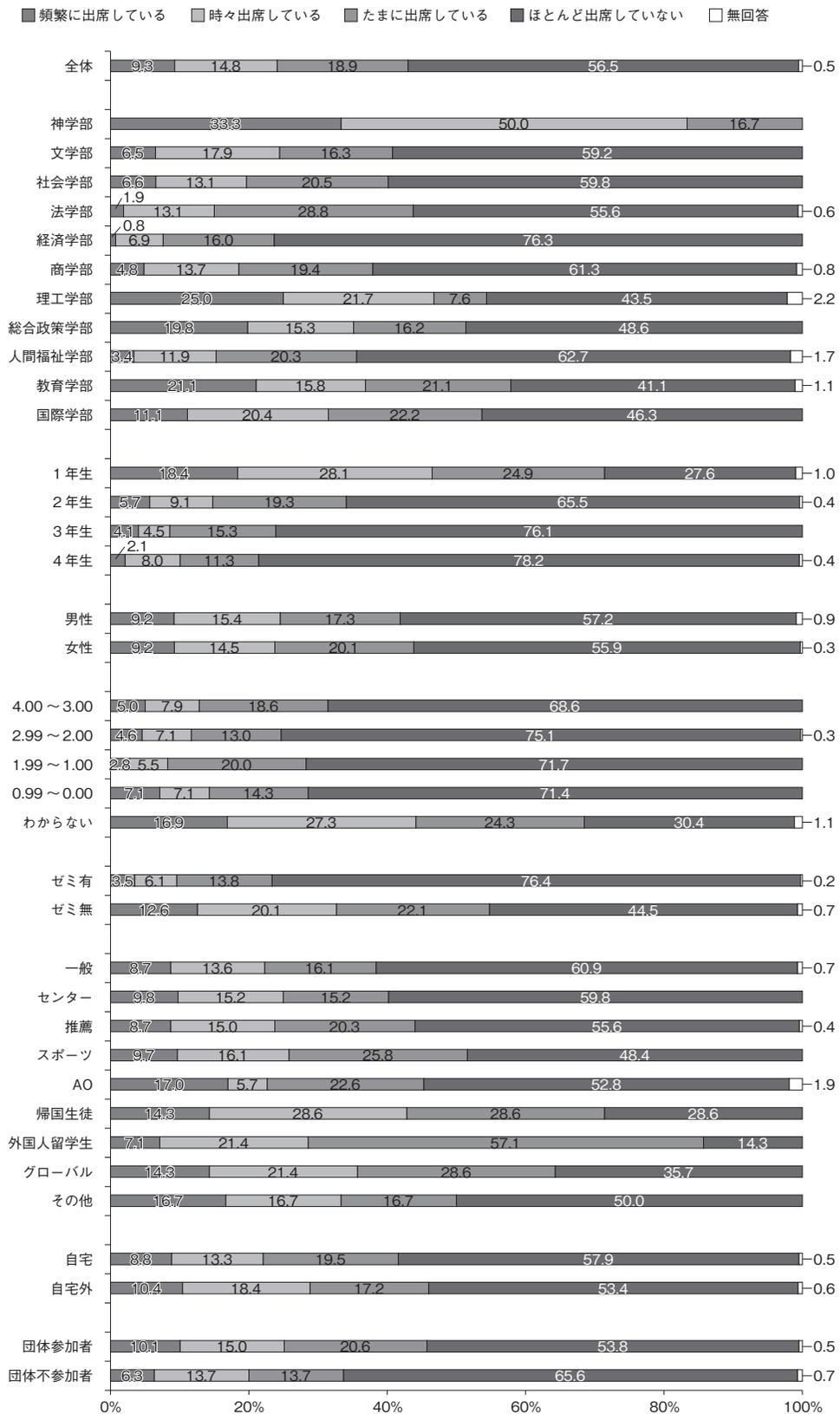
以下の表Ⅱ-14-3は、Q12-1への回答とQ12-2回答との関係性を示したものである。

表Ⅱ-14-3 Q12-1とQ12-2のクロス表

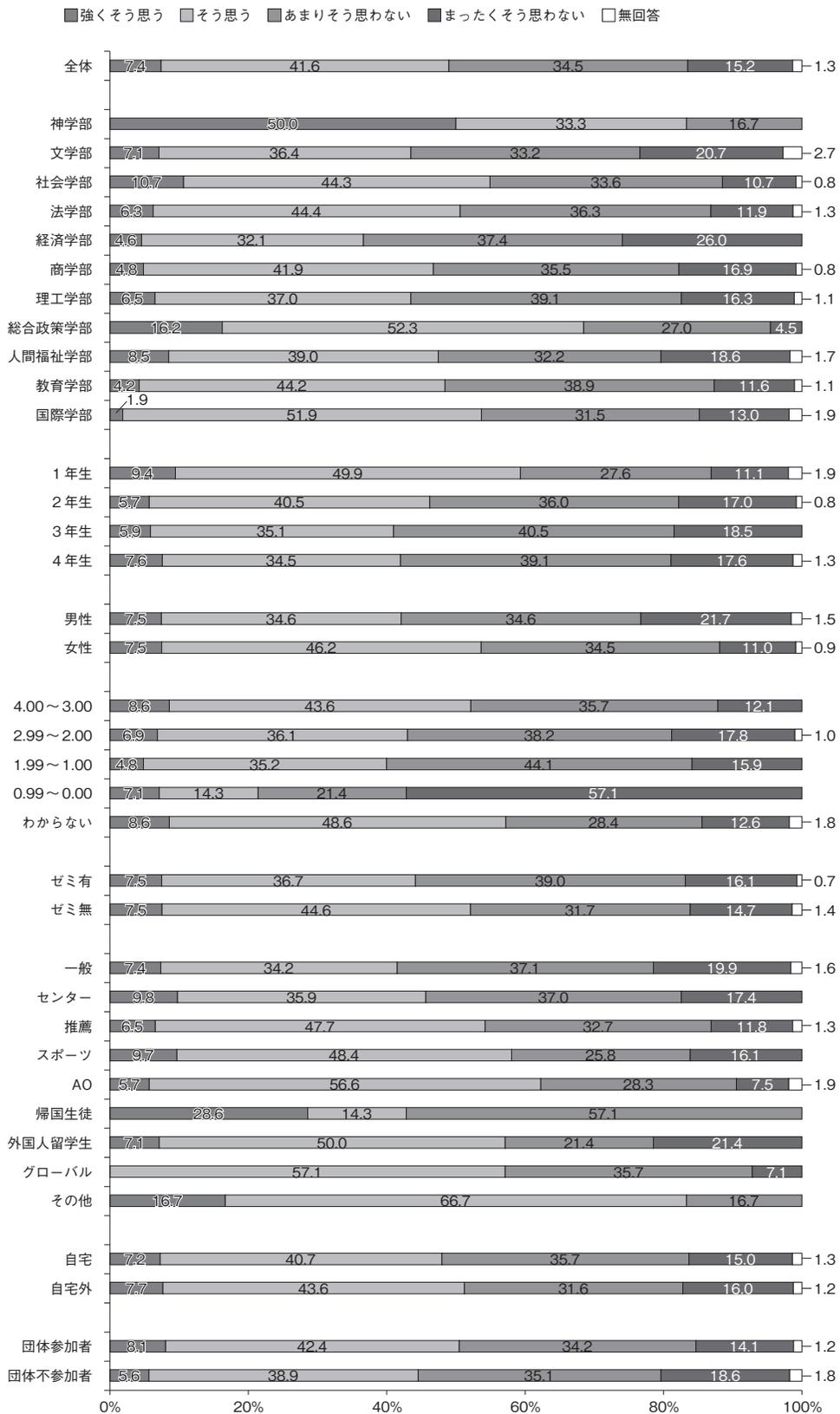
		Q12-2					合計
		強くそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答	
Q12-1	頻繁に出席している	度数 23	58	19	6	0	106
	Q12-1の%	21.7%	54.7%	17.9%	5.7%	0.0%	100.0%
	調整済み残差	5.9	2.9	-3.8	-2.9	-1.2	
	時々出席している	度数 29	92	44	4	0	169
	Q12-1の%	17.2%	54.4%	26.0%	2.4%	0.0%	100.0%
	調整済み残差	5.2	3.7	-2.5	-5.0	-1.6	
たまに出席している	度数	19	130	53	14	0	216
	Q12-1の%	8.8%	60.2%	24.5%	6.5%	0.0%	100.0%
	調整済み残差	.8	6.2	-3.4	-4.0	-1.9	
ほとんど出席していない	度数	14	195	277	150	10	646
	Q12-1の%	2.2%	30.2%	42.9%	23.2%	1.5%	100.0%
	調整済み残差	-7.7	-8.9	6.8	8.6	.8	
無回答	度数	0	0	1	0	5	6
	Q12-1の%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	83.3%	100.0%
	調整済み残差	-7	-2.1	-9	-1.0	17.7	
合計	度数	85	475	394	174	15	1143
	Q12-1の%	7.4%	41.6%	34.5%	15.2%	1.3%	100.0%

上記より、チャペルに出席することを有意義だと感じると、チャペルへの出席頻度も高くなることogaうかがえる。今後は、チャペルの何を有意義と感じているのかなどをさらに調べることによって、チャペルへの出席頻度を高めることにつなげていけるのではないかと考えられる。

図Ⅱ-14-1 チャペルへの出席頻度



図Ⅱ-14-2 チャペルの有意義度



## 15. 関西学院大学に入学を決めた最も重視した理由

### Summary

「ブランド」は重視する理由としては低くなる傾向にある。特に学年別では初めて「ブランド」ではなく、「就職に有利」が1位となった。

Q13-1. あなたが関西学院大学に入学を決める際、最も重視した理由は何ですか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- |        |          |          |         |
|--------|----------|----------|---------|
| 1 偏差値  | 2 受験科目   | 3 教育内容   | 4 教員    |
| 5 資格取得 | 6 就職に有利  | 7 ブランド   | 8 キャンパス |
| 9 校風   | 10 通学が容易 | 11 周囲の薦め | 12 その他  |

全体回答では、1位「ブランド」(17.1%)、2位「教育内容」(15.4%)、3位「就職に有利」(13.2%)、4位「校風」(8.9%)、5位「偏差値」(8.8%)であった。前回調査では、1位「ブランド」(16.5%)、2位「教育内容」(15.9%)、3位「校風」(10.6%)、4位「偏差値」(9.3%)、5位「就職に有利」(9.1%)であった。

今回の特徴は、①「就職に有利」が大きく上昇し、5位から3位になったこと、②「偏差値」は割合として大きく変動はないが、順位としては4位から5位に落ちていること、などである。

次にそれぞれの属性で1位の項目を前回調査との比較を中心に見てみたい。

学部別で1位の項目で見ると、社会学部・法学部・経済学部・商学部・人間福祉学部の5学部が「ブランド」、神学部・文学部・理工学部・総合政策学部・国際学部の5学部が「教育内容」、教育学部は「資格取得」となっていた。

次に学年別では2年生～4年生がいずれも1位の項目が「ブランド」であるのに対し、1年生は「就職に有利」が1位となっており、2位「教育内容」、3位「ブランド」と続く。前回調査ではすべての学年が「ブランド」となっていたことを考えると、今年度入学生とこれまでの入学生との意識の違いが見られる。また、2年生～4年生で1位の「ブランド」は、学年が上がるごとにその割合が高くなっており、逆に「教育内容」の割合は低くなっている。これは前回調査も同様の傾向である。

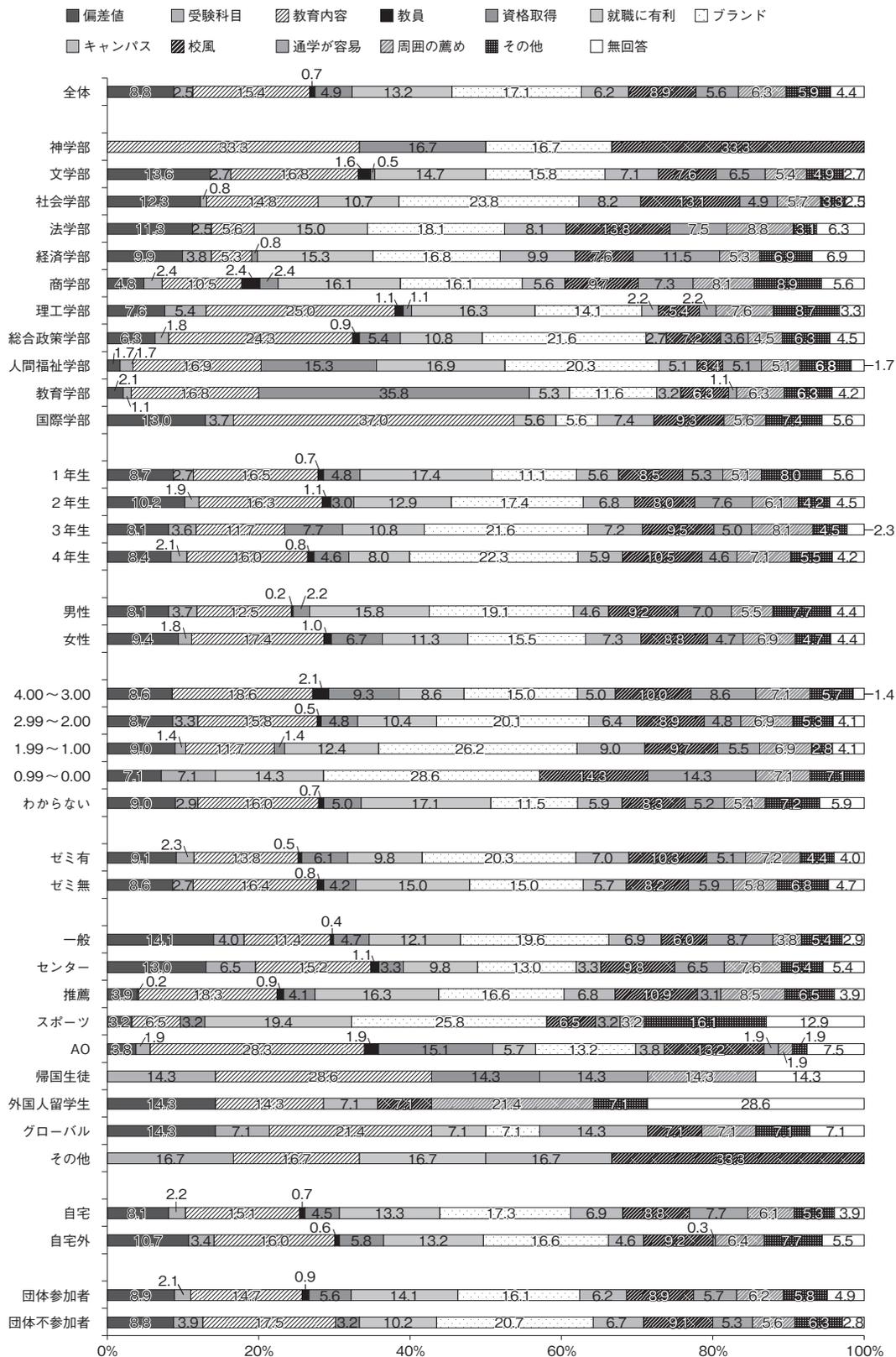
性別では、男性の1位が「ブランド」、女性の1位が「教育内容」というのは前回調査と変化はない。男性は2位には前回調査同様「就職に有利」が続き、女性に比べ、卒業し、社会に出た後に対する意識が多少高いことがうかがえる。

成績別(GPA)では、前回調査と変化はなく、GPAが高いほど「教育内容」を重視し、GPAが低くなればなるほど「ブランド」を重視していることがわかる。

最後に入試区分別にみると、前回調査との違いが出ているのはセンター利用入学試験で、前回調査では1位が「ブランド」であったのに対し、今回調査では「教育内容」となっている。一般的に国立大学志望者の併願として利用される場合が多いセンター利用入学試験では「ブランド」を選択する傾向にあったが、併願であっても大学を選択する場合には「教育内容」を重要視する意識に変化していることがうかがえる。

その他の入試では、AO入学試験や推薦入学試験は試験の性質上「教育内容」が1位にきており、これは前回調査と同様である。

図Ⅱ-15 本学に入学を決めた最も重視した理由



## 16. 関西学院大学の志望順位

### Summary

文系学部の第一志望の割合が増加傾向にあり、また、その割合も非常に高い。本学を第一志望とする割合が増えていることは決して悪い傾向ではないだろう。しかし、学力上位層の多くが国公立大学を志望する傾向にあることを踏まえると、第一志望の割合の増加はそれら国公立大学を志望する学力上位層を取りこぼしてはいないだろうか。

Q13-2. あなたの関西学院大学の志望順位は何番目でしたか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 第一志望                      2 第二志望                      3 それ以外

全体回答では、第一志望が61.3%と前回調査の58.3%よりも3.0ポイント上昇し、第一志望度が高くなっている。前々回の調査では59.7%から58.3%とやや減少していたので“戻った”とも見られるが、前回調査の減少分以上に上昇に転じている。

他大学と比較をしてはいないが、第一志望が60%を超える大学は、特に私立大学ではさほど多くないのではないだろうか。

次にそれぞれの属性で志望の割合を見てみたい。

まず、学部別でみると神学部・人間福祉学部・理工学部を除いた8学部で第一志望の割合が前回調査比で増加している。特に社会学部は61.0%から72.1%と11.1ポイントの上昇、また、減少した人間福祉学部は73.2%から72.9%と微減しているが、そもそもその割合は非常に高い。また、理工学部は51.3%から46.7%と5ポイントの減少となっている。もともと国公立大学を第一志望とする受験生の多い学部であるが、一層国公立大学志向が強まっていると推測される。

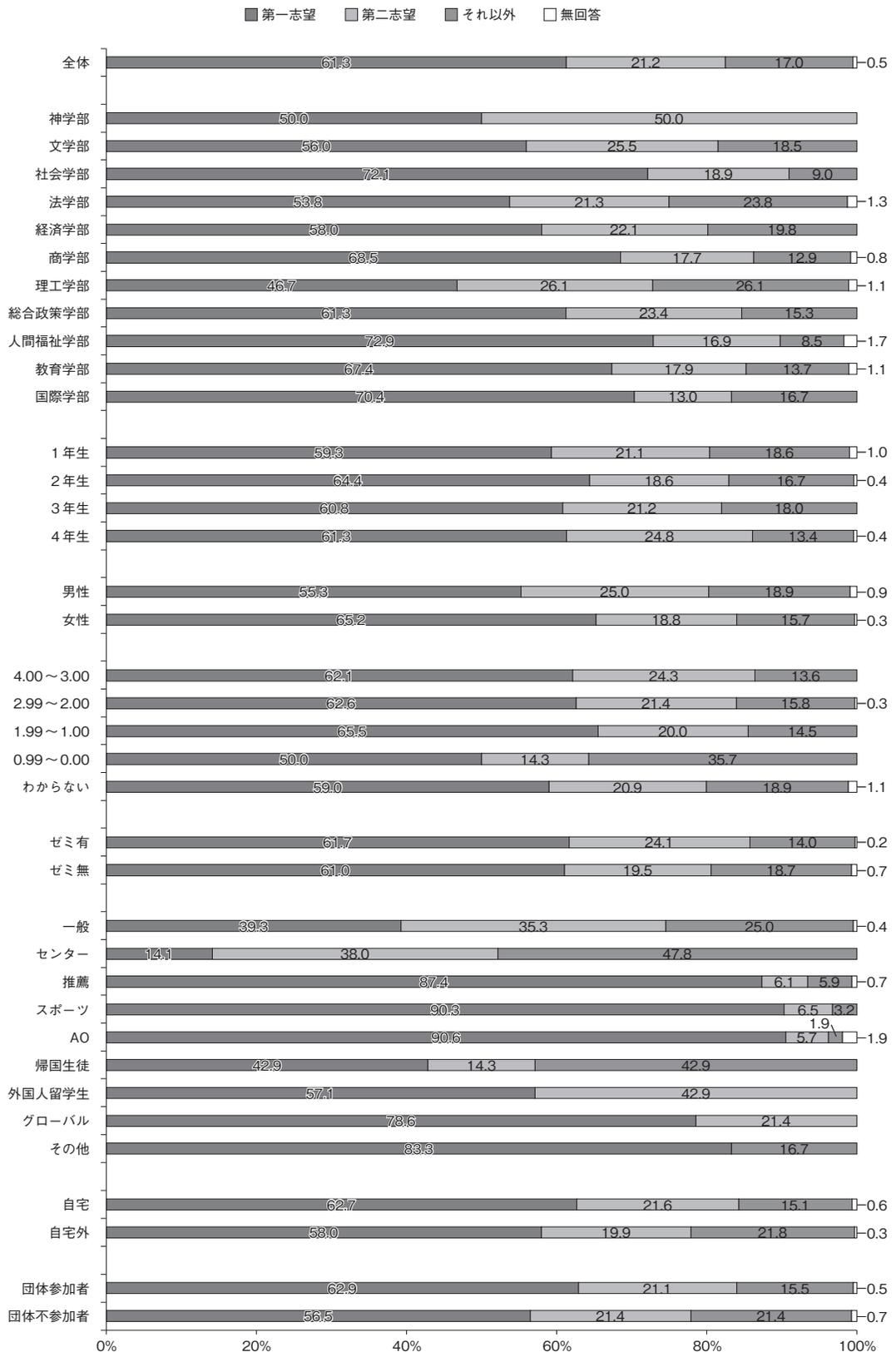
次に学年での第一志望は、1年生が微減であった他は全学年とも割合は増加している。特に3年生は52.6%から60.8%と8ポイントと高い上昇割合を示している。

性別では、第一志望は、男性55.3%、女性65.2%と女性の方が高いが、これは毎回の調査と同様の傾向である。女性の割合は前回調査比5ポイントの上昇となっており、一層第一志望度が強くなっていることがうかがえる。

成績別（GPA）では、前回調査と比較するとすべての成績帯で第一志望度は上昇している。志望度が高い生徒の入学の割合があがっていることで、授業・学問への取り組み姿勢も高いものと推測される。

最後に入試区分別では一般入学試験、センター利用入学試験とともに第一志望度は前回調査比で上昇している。特にセンター利用入学試験は8.1%から14.1%と6ポイントも上昇しており、国公立大学と併願する層の受験状況などの変化（例えば、受験する国公立大学のレベルが低下し、併願先である本学のレベルの方が高くなっているなど）もあるかもしれない。この点は今後も調査が必要と思われる。

図Ⅱ-16 本学の志望順位



## 17. 第一志望の大学とその理由

### Summary

本学を第一志望としていない回答者の約75%が国公立大学を第一志望としており、神戸大学 (20.2%)、大阪市立大学 (15.8%)、大阪大学 (8.1%)、岡山大学 (3.8%) と、この4大学で半数近くを占める結果となった。私立大学では、同志社大学 (5.5%)、慶應義塾大学 (4.4%)、早稲田大学 (3.8%) であった。上位3傑の大学は前回調査と変わりがないが、同志社大学の占有割合が下がり、慶應義塾・早稲田大学の割合が上がっており、関東圏志向がうかがえる。また、他大学を第一志望としていた受験生はその大学をこれまでは「偏差値」で選択する傾向にあった（つまり、第一志望大学の方が本学よりも偏差値が高いということ）。しかし、今回調査では「教育内容」が大きく上昇し、「偏差値」が大きく低下している。

Q13-3. Q13-2で、2または3を選んだ方にお聞きします。

あなたの第一志望であった大学名をお聞かせください。

大学名 ( ) 大学

また、その大学を第一志望としていた理由として、最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- |        |          |          |         |
|--------|----------|----------|---------|
| 1 偏差値  | 2 受験科目   | 3 教育内容   | 4 教員    |
| 5 資格取得 | 6 就職に有利  | 7 ブランド   | 8 キャンパス |
| 9 校風   | 10 通学が容易 | 11 周囲の薦め | 12 その他  |

全体回答で、他大学選択理由は、1位「教育内容」、2位「偏差値」、3位「ブランド」となっており、前回調査と順位に変化はない。ただし、「教育内容」の割合は26.8%から29.4%の上昇に対し、「偏差値」は24.6%から20.0%と5ポイント近くも低下している。高等学校での進路指導の変化により、大学を「偏差値」での選択から「教育内容」に変わってきたことがうかがえる。

次にそれぞれの属性で1位の項目を前回調査との比較を中心に見てみたい。

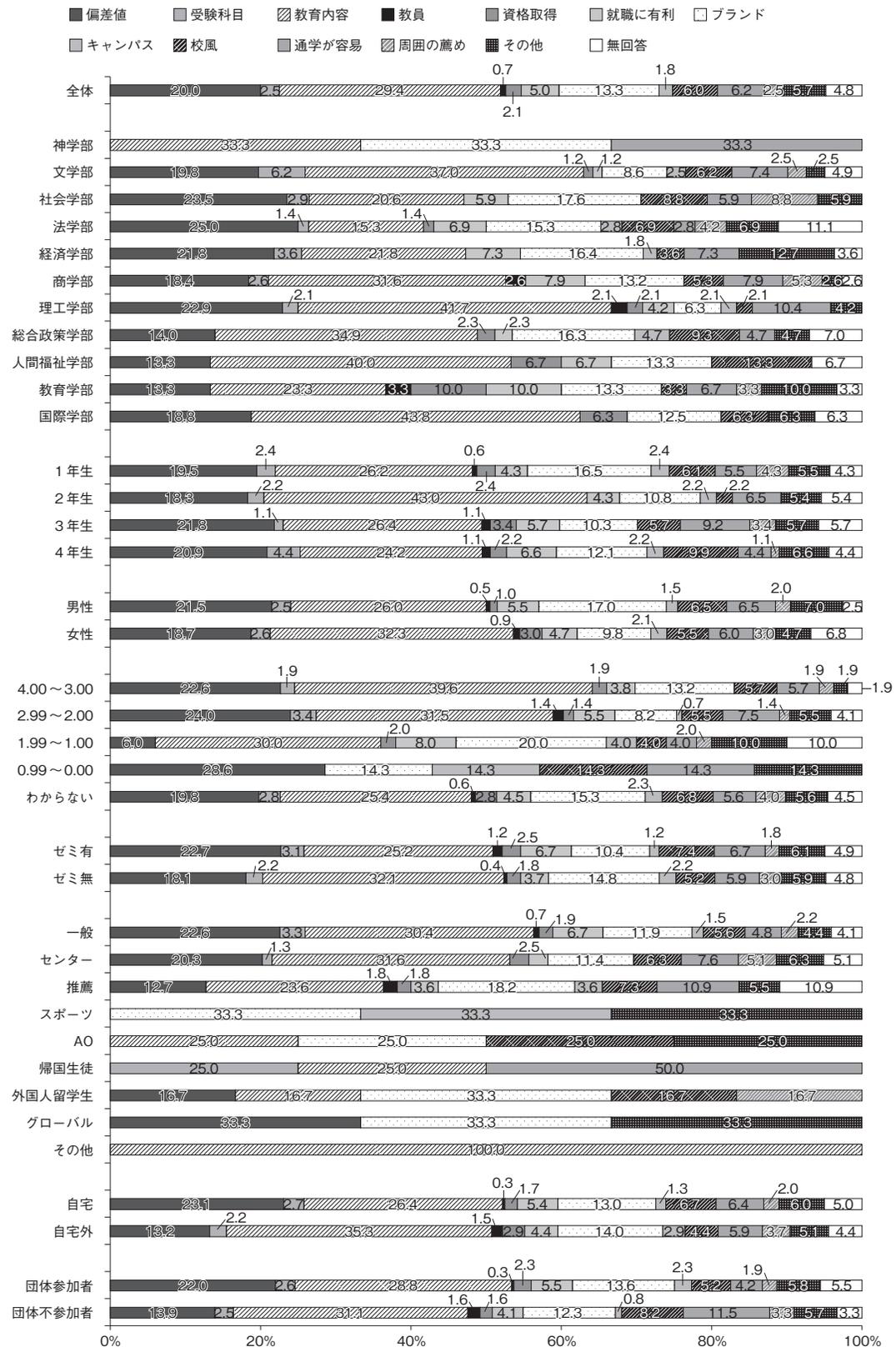
まず、学部別の1位が「教育内容」となっているのは神学部・文学部・経済学部・商学部・理工学部・総合政策学部・人間福祉学部・教育学部・国際学部の9学部、「偏差値」とした学部は社会学部・法学部の2学部となっている。前回調査では、「教育内容」としたのは神学部・文学部・社会学部・理工学部・総合政策学部・国際学部の6学部で、「偏差値」は法学部・経済学部・商学部・教育学部の4学部、人間福祉学部は「ブランド」となっていた。法学部の志望受験生は一貫して「偏差値」が選択の重要な要因となっている。それ以外は「教育内容」に変化している。

次に性別では、男性・女性とも1位「教育内容」で、2位が「偏差値」、3位が「ブランド」となっていた。前回調査では女性の順位は同じであったが、男性は1位「偏差値」、2位「教育内容」の順となっており、進路指導の変化が現れていることがうかがえる。

成績別 (GPA) では、GPA0.99~0.00の下位成績帯のみ1位が「偏差値」となっている他は、どの成績帯とも「教育内容」が1位となっている。前回調査はすべての成績帯で1位「偏差値」となっていたことを考えると大きく変化していることがうかがえる。

最後に入試区分別では、一般入学試験、センター利用入学試験ともに「教育内容」が1位となった。前回調査はともに1位は「偏差値」であった。入試区分でもこれまで見てきた属性での比較と同様「教育内容」のウェイトの高さが顕著となっている。

図Ⅱ-17 第一志望の大学の志望理由



## 18. 関西学院大学を知った理由

### Summary

全体では、「高等学校や予備校の先生から」(35.8%)が最も多い回答であった。この割合は前回調査よりも上昇している。  
また、入試種別では入試の特徴が出る結果となっており、それぞれの入試におけるステークホルダーがどこ(誰)であるのかが明確になっている。

Q13-4. あなたはどのような形で関西学院大学のことを知りましたか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- |            |                 |           |
|------------|-----------------|-----------|
| 1 両親や親類から  | 2 高等学校や予備校の先生から | 3 友人や先輩から |
| 4 受験雑誌などから | 5 難易ランキング表から    | 6 その他     |

全体回答では、「高等学校や予備校の先生から」(35.8%)と回答したものが1位で、「両親や親類から」(32.3%)が2位であった(前回調査ではその順位が逆であった)。その割合は「両親や親類から」(32.1%)、「高等学校や予備校の先生から」(33.1%)であり、「高等学校や予備校の先生から」の割合が上昇している。「受験雑誌などから」など他の選択項目の割合は多少減少していることと合わせて考えると、進路指導にあたっては、高等学校・予備校教員の影響力が大きくなっている傾向がうかがえる。

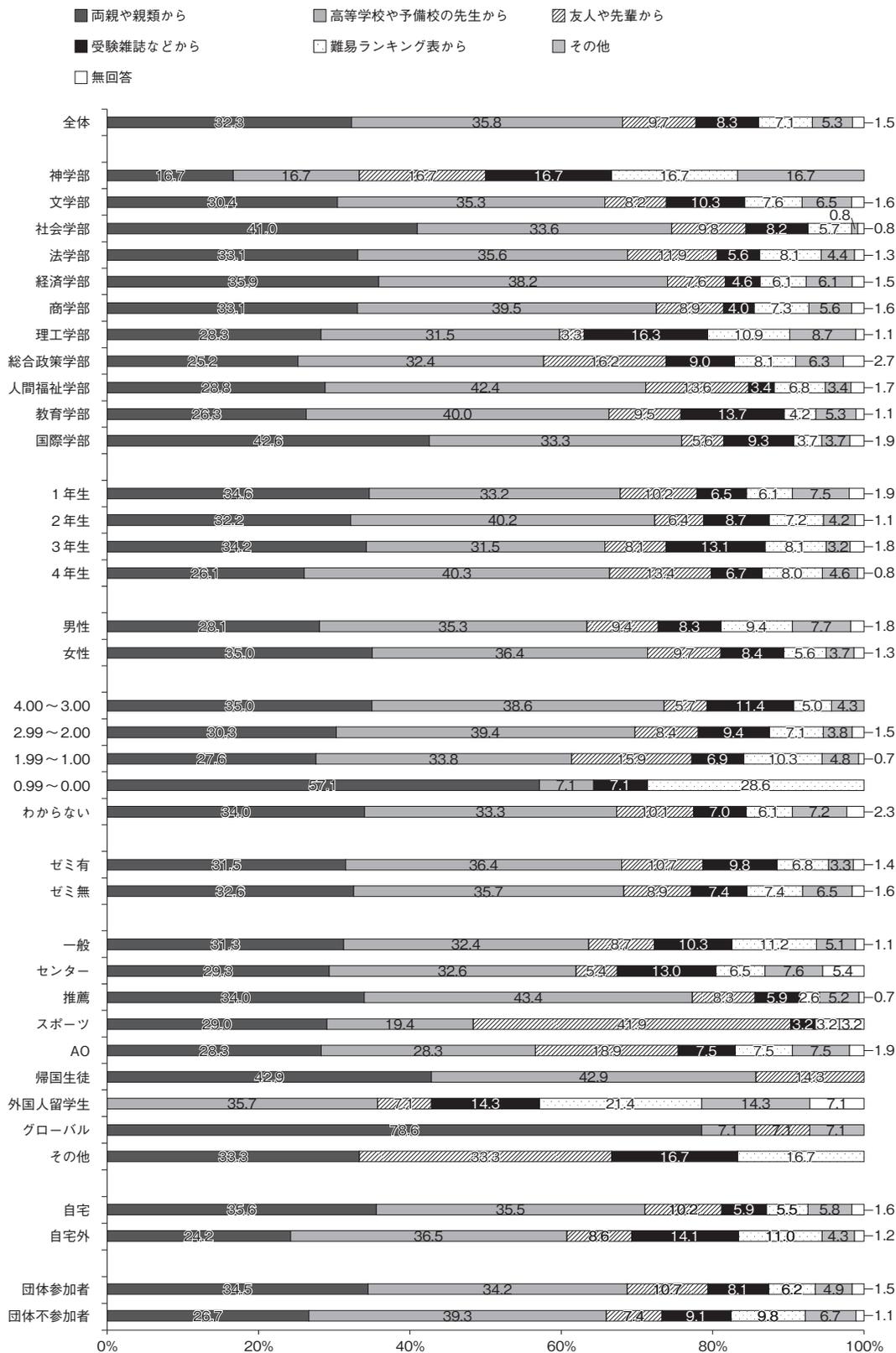
学部や学年、性別、GPAなどの属性においてもこの2つの選択項目がほぼ1位か2位となっており、割合差はない。

入試区分では、一般入学試験、センター利用入学試験、推薦入学試験などでは「高等学校や予備校の先生から」が1位となっており、高等学校や予備校の先生が進路指導に重要な存在であることがわかる。そして、一般入学試験や推薦入学試験などは前回調査よりもその割合が大きくなっており、ステークホルダーとしての存在が一層大きく、強いものになっていることがうかがえる。なお、スポーツ選抜入学試験では「友人や先輩から」が前回調査同様、最も多くなっている。

また、「その他」として、「地元であるから」、「関関同立として」、「有名だから」、「インターネットから」、「模擬授業を受けて」などがあつた。

「どのような形で本学を知ったのか」という今設問はこれまでの数回の調査の結果、ある程度何が受験生に影響を与えるのかを確認することができた。今後の調査では、「どのような形で」ではなく、例えば、「高等学校や予備校の先生から」でも、「説明会参加を勧められた」や、「進路相談で勧められた」、「模擬授業受講を勧められた」、「〇〇大学を受験するなら併願として指導された」等「どのような機会」や「どのように」などに言及し、知る機会や状況がわかるような設問をし、一層受験生の進路決定・認知動向を理解したいと考える。

図Ⅱ-18 本学を知った理由



## 19. 大学進学先を検討した時期

### Summary

7割弱の回答者が、高校3年の4月までに検討を始めている。学部や性別、GPA、入試種別による検討開始時期の違いは前回調査ほど顕著に表れておらず、どの分類においても同じタイミングで進路先の検討を始める傾向になりつつある。

Q14. 大学進学先を具体的に検討し始めた時期はいつですか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 高校入学時      | 2 高校1年9月ごろまで | 3 高校1年終わりまで  |
| 4 高校2年9月ごろまで | 5 高校2年終わりまで  | 6 高校3年4月     |
| 7 高校3年9月ごろまで | 8 高校3年12月頃まで | 9 高校3年2月ごろまで |
| 10 その他       |              |              |

全体回答では、最も多い回答は「高校3年9月ごろまで」の19.2%であるが、段階ごとに累計で見ると、「高校入学時」(13.5%)、「高校1年終わりまで」(21.8%)、「高校2年終わりまで」(48.7%)、「高校3年4月」(65.1%)となっている。「高校3年4月」までが前回調査の68.5%に比べるとやや割合が低くなっている。しかし依然として、高校3年生の春までには70%弱の高校生は進学先を検討し始めているという傾向にあり、そのことは当然、それまでには本学の学生募集において入試広報(アプローチ)をし始めておく必要があるということを表わしている。

なお、「その他」の回答では、「小学校」が8名、「浪人時」が6名、「中学校」が14名であった。

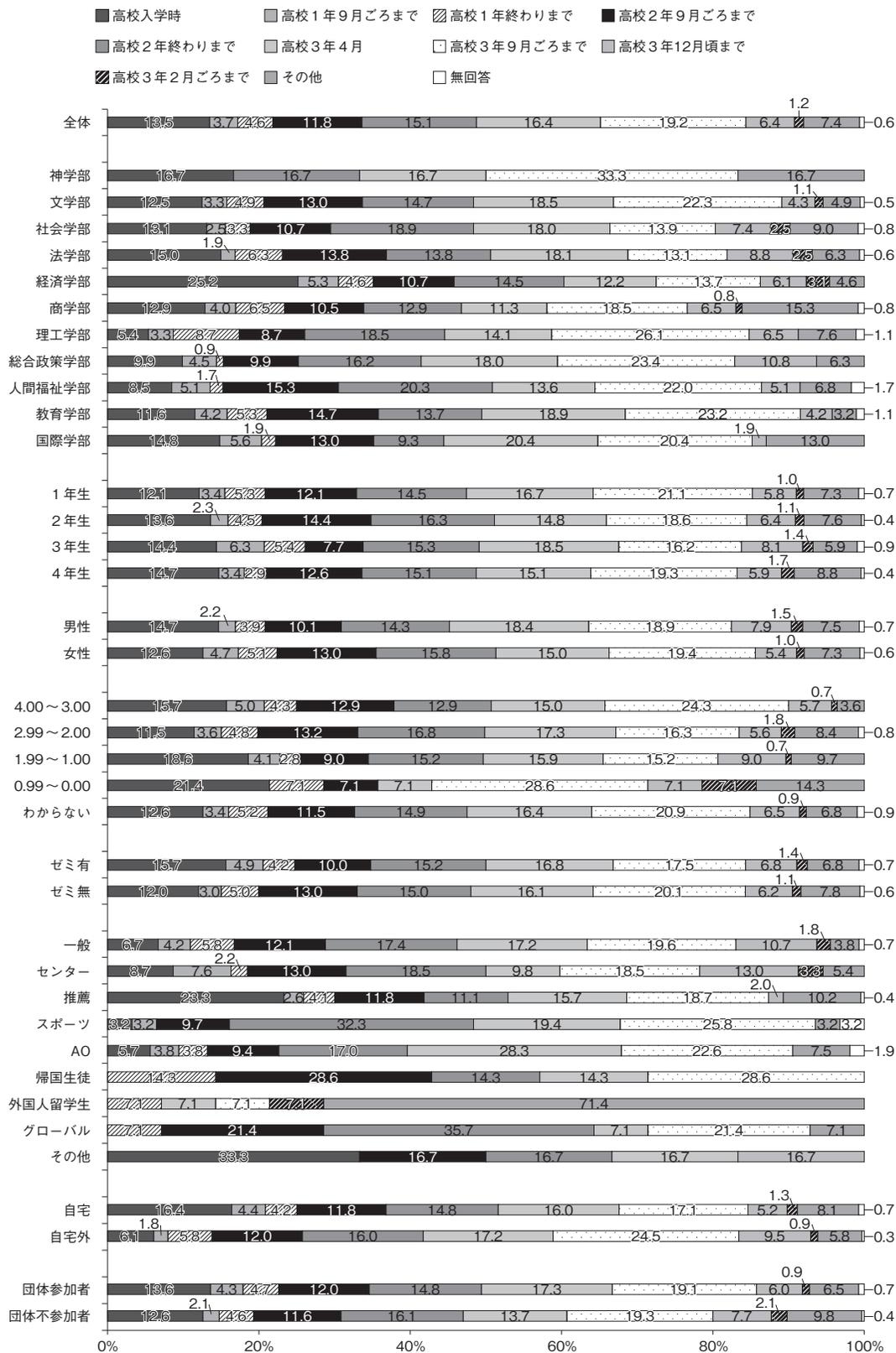
次に学部別に見てみたい。「高校3年4月までに進学先を検討し始めた」割合で60%を下回っているのは理工学部・商学部・総合政策学部で、それぞれ58.7%、58.1%、59.4%である。特に理工学部は前回調査比較で10.1ポイントもダウンしている。国公立大学志向がより強まっていることにより進学先の決定が後ろ倒しになっていると推測される。

次に性別による差異があるのかを見てみたい。「高校3年4月までに進学先を検討し始めた」割合は男性が63.6%に対し、女性は66.2%となっており、女性の方が男性に比べ、進学先を早く検討する行動をしていることがうかがえる。ただし、前回調査では男性66.6%に対し、女性は70.0%であったことを見ると、男女差がなくなってきている。

GPAでは、「高校1年終わりまで」は、GPA4.00~3.00では25.0%、GPA2.99~2.00は19.9%、GPA1.99~1.00は25.5%、GPA0.99~0.00は28.5%となっている。前回調査ではGPA上位層の方がGPA下位層に比べ、進学先を早く検討する行動をしている傾向が見受けられたが、この分類でも大きな差がなくなっている。

入試種別では前回調査ではAO入学試験が特に進路先決定行動は早く「高校3年4月」で73.8%と非常に高かった。しかし、今回の調査ではAO入学試験の同タイミングの割合は68.0%とダウンしており、一般入学試験の63.4%や、センター利用入学試験59.8%と比べて特段早く決定している傾向はなくなっている。つまり、AO入学試験はその受験時期(9月という早期)の関係から高校3年生の4月までには決定している傾向が弱くなり、4月~出願の8月ごろまでに一気に決定している傾向が見られる。

図Ⅱ-19 大学進学先を検討した時期



## 20. 社会人とのコミュニケーションとその影響

### Summary

社会人とのコミュニケーションが最も頻繁に行われているのは「アルバイト先の同僚や上司」であった。社会人との会話によって影響を受けたのは、「学業に取り組む意欲が向上した」(23.1%)が最も高い数値を示しており、ついで「社会人になること(就職すること)への意欲が向上した」(18.9%)となっている。将来のキャリア像を描き、現在の問題意識を高める点では、学生時代の社会人とのコミュニケーションは大事な要素となっている。

Q15-1. 現在のあなたの社会人とのコミュニケーションについてお尋ねします。

A～Dのそれぞれの方と話をする機会がありますか。0(ほとんど話をする機会がない)から4(ほぼ毎日話をする)までの数字を1つだけ選んで○をつけてください。

- A 教員(ゼミナールの先生や授業担当者など)
- B クラブやサークルの部長・顧問、コーチ、監督
- C アルバイト先の同僚や上司
- D 学外での学習やサークルの先生・指導者や同僚

Q15-2. 会話によって、あなた自身にどのような影響がありましたか。

最もあてはまるものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 学業に取り組む意欲が向上した
- 2 課外活動、ボランティア活動に取り組む意欲が向上した
- 3 アルバイトに取り組む意欲が向上した
- 4 留学への意欲が向上した
- 5 資格取得への意欲が向上した
- 6 進学への意欲が向上した
- 7 社会人になること(就職すること)への意欲が向上した
- 8 特に影響はない

A「教員」では、67.8%が「月1回程度以上話をする」となっている。学部別に見ると、神学部100%、国際学部81.5%、人間福祉学部81.4%において80%以上の学生が「月1回程度以上話をする」となっている。学年別では、「月1回程度以上話をする」は学年が上がるにつれて割合が高くなる(1年生53.5%、2年生58.0%、3年生83.3%、4年生89.1%)。「週に1日程度以上話をする」の傾向も同様である(1年生41.7%、2年生49.6%、3年生77.4%、4年生83.2%)。これはゼミに所属することによるところが大きいと考えられるが、「ほぼ毎日話をする」と「週に2～3日程度話をする」を合算した割合では、1年生16.0%、2年生26.9%、3年生31.5%、4年生22.3%となっており、低学年次生においても積極的に教員にコミュニケーションをとる学生が一定割合存在する。

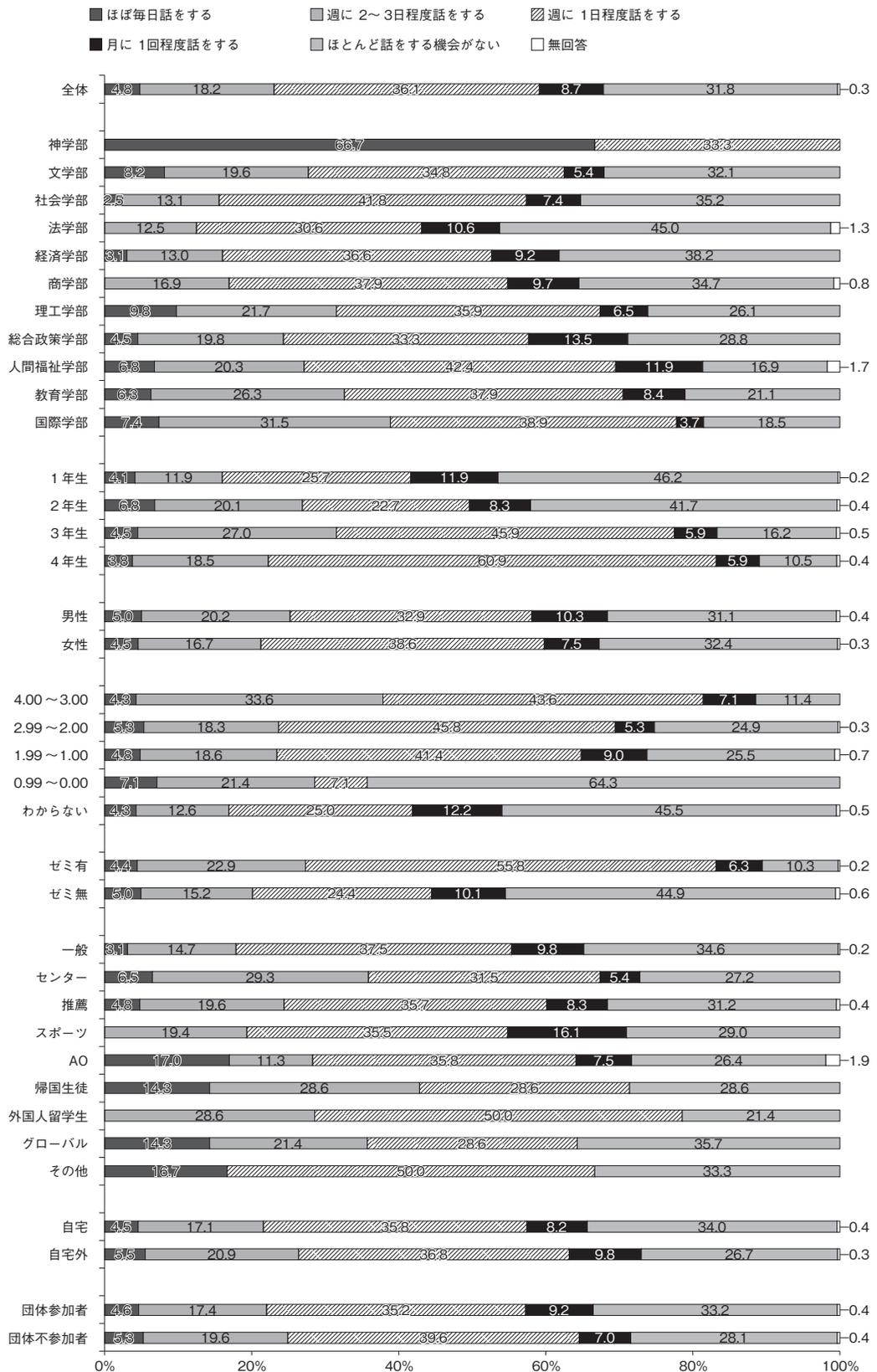
B「クラブやサークルの部長・顧問、監督、コーチ」では46.9%が「月に1回程度以上話をする」となっている。学年別では、1年生54.5%、2年生51.1%、3年生40.1%、4年生35.3%と低学年次生のコミュニケーションの頻度が高い。男女別では男性の50.7%に対して女性の44.4%が「月1回程度以上話をする」となっている。また、入試形態別ではスポーツ選抜入学試験では「ほぼ毎日話をする」35.5%、「週に2～3日程度話をする」25.8%、「週に1日程度話をする」22.6%となっており、他の入試形態に比べて、コミュニケーションの頻度は極めて高い。

C「アルバイト先の同僚や上司」では、「月に1回程度以上話をする」69.9%に対して、「ほとんど話をする機会がない」が29.0%である。学年別では、「ほとんど話をする機会がない」では1年生が44.3%と最も高い。当調査が春学期であることから、アルバイトを始めていない学生が多いものと思われる。2年生以上では8割近い学生が「月に1回程度以上話をする」となっている。男女別では、「週2～3日程度以上話をする」を見ると男性の51.8%に対して女性が60.7%と女性が上回っている。

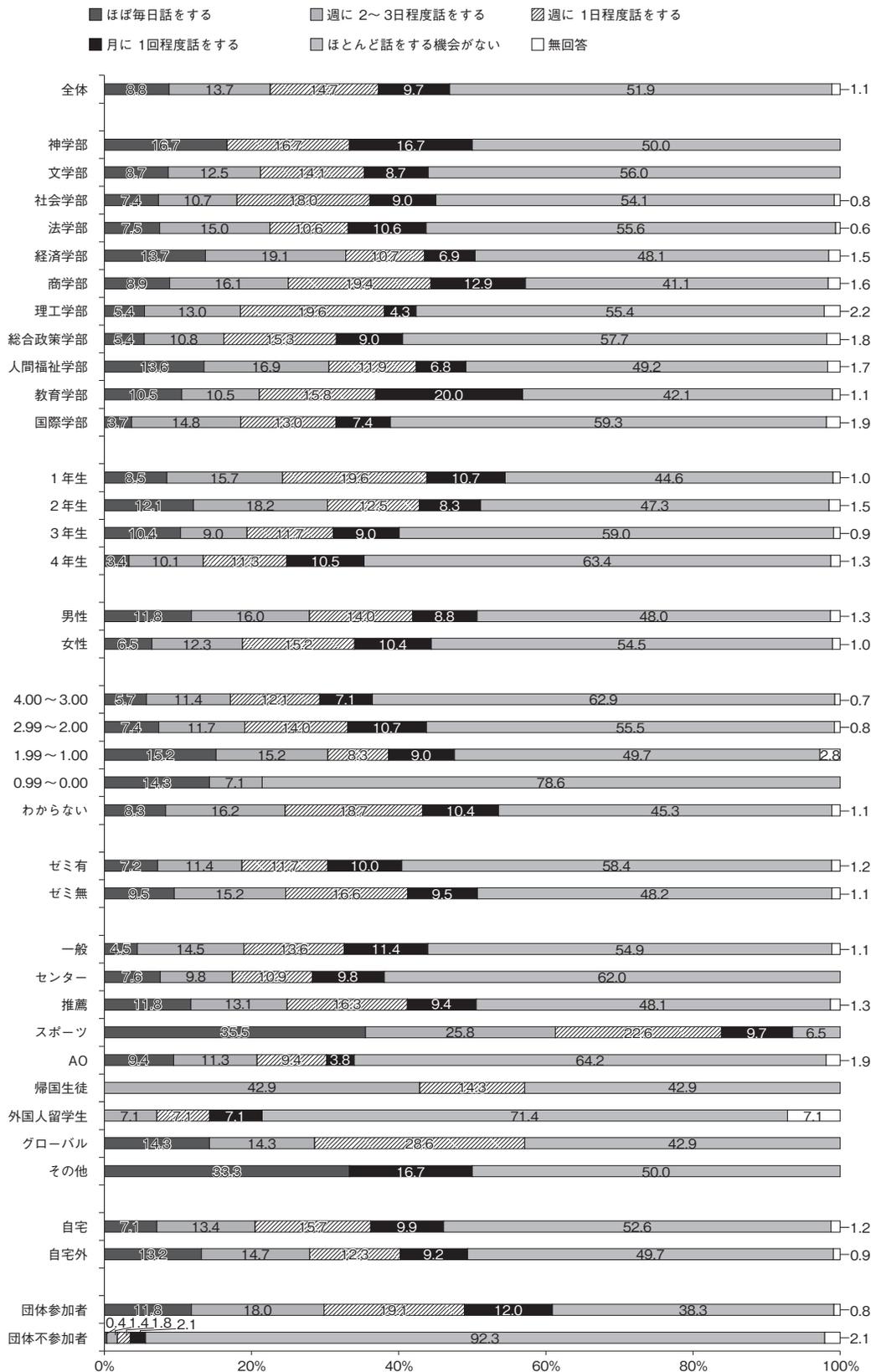
D「学外での学習やサークルの先生・指導者や同僚」では、「月1回程度以上話をする」が39.2%となっている。学部別では、教育学部52.8%、人間福祉学部50.8%、経済学部43.5%、国際学部42.6%が40%を超えている。

Q15-2では会話によりどのような影響をもたらしたかを聞いている。影響を受けた中では「学業に取り組む意欲が向上した」が23.1%ともっとも高く、「社会人になること（就職すること）への意欲が向上した」が18.9%と続く。「社会人になること（就職すること）への意欲が向上した」ももちろんだが、近年、学業への取り組みに対して企業の採用選考でも重視する傾向にあるので、「学業に取り組む意欲が向上した」への好影響は採用選考においても望ましいと言える。「社会人になることへの意欲が向上した」を学部別でみると、教育学部26.3%、総合政策学部25.2%が高い。また、学年別では1年生9.2%、2年生16.7%、3年生23.0%、4年生33.6%と学年が高くなるにつれ割合が大きくなる。

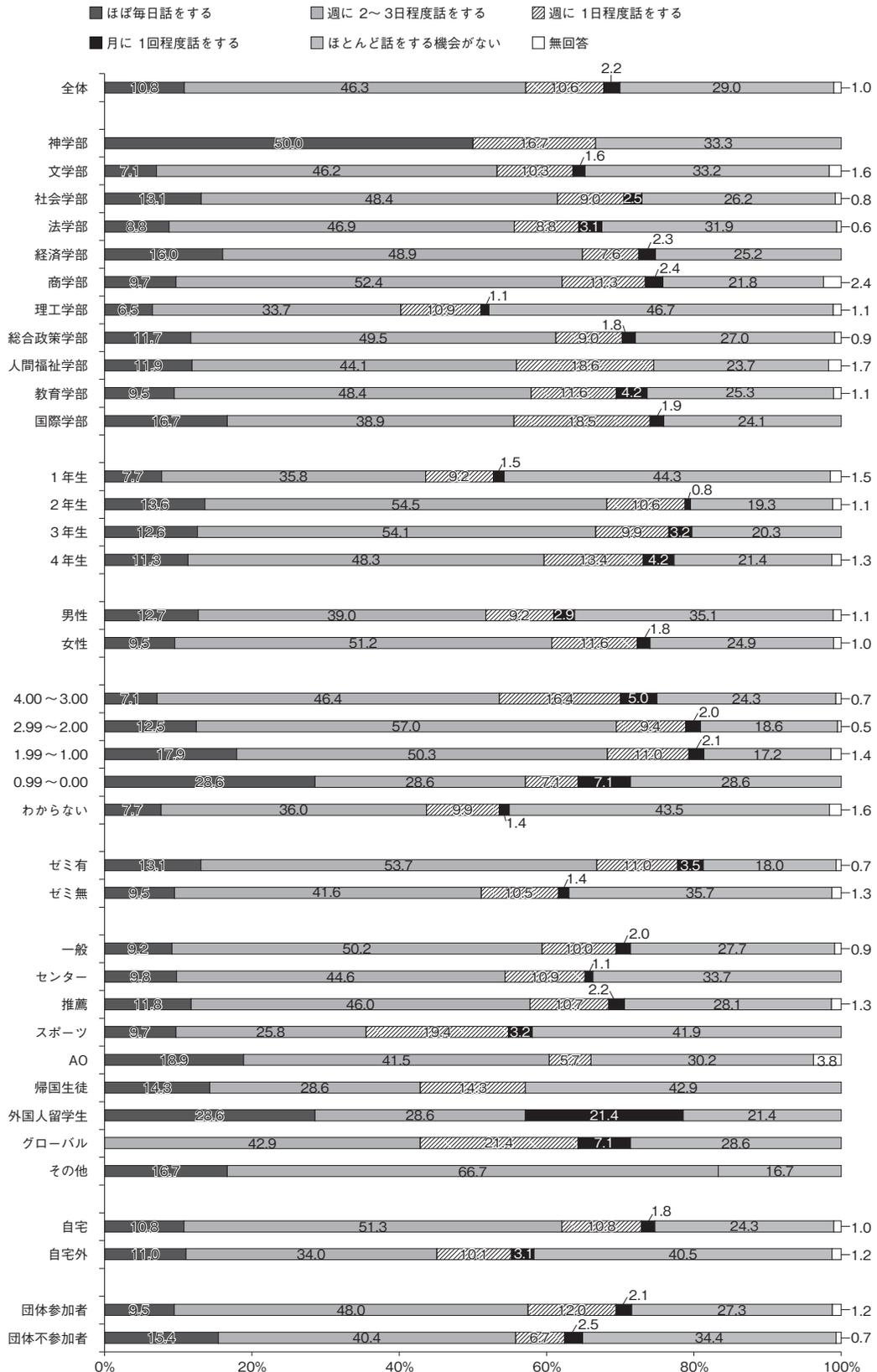
図Ⅱ-20-1 社会人とのコミュニケーション A 教員（ゼミナールの先生や授業担当者など）



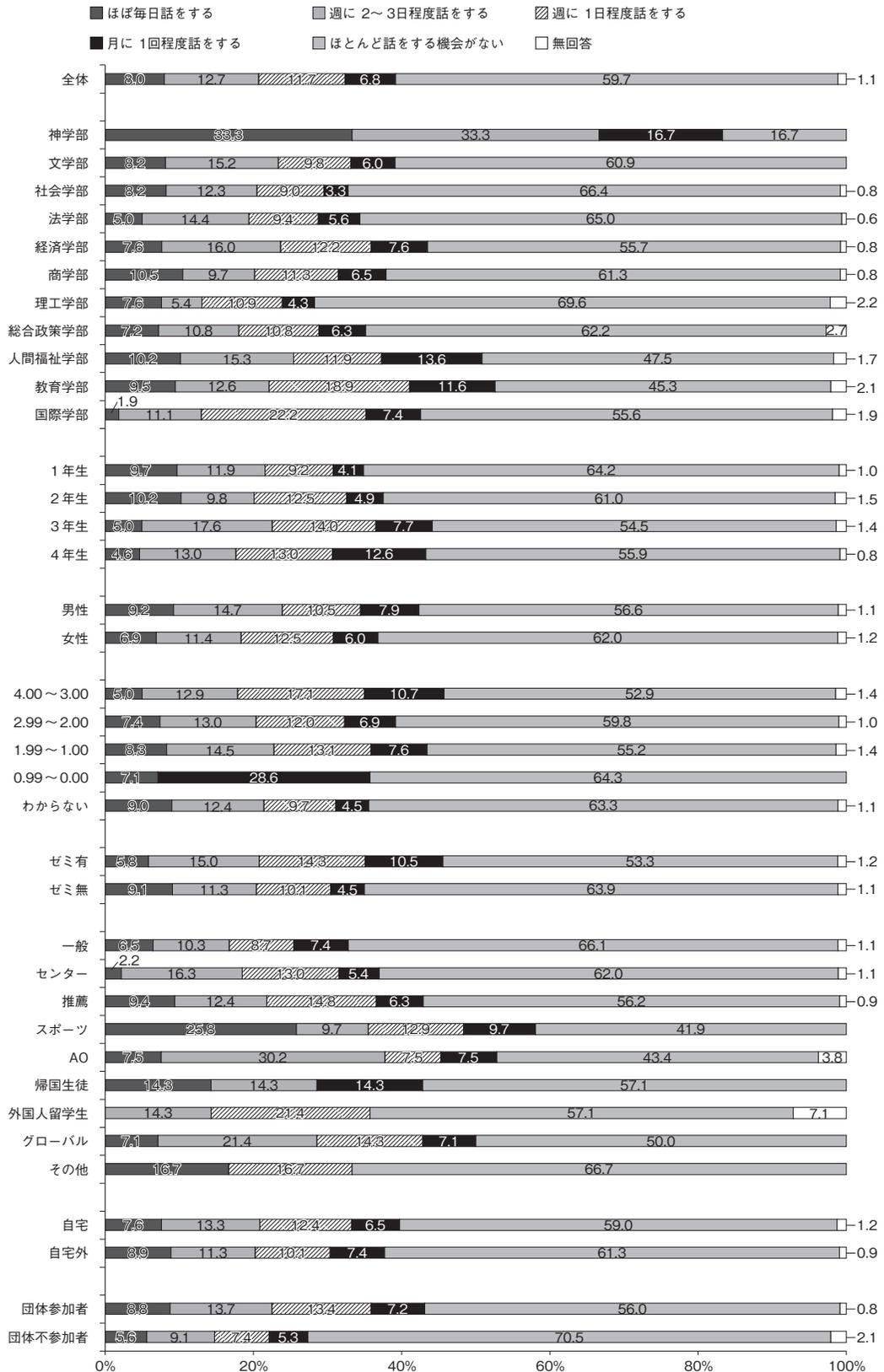
図Ⅱ-20-2 社会人とのコミュニケーション B クラブやサークルの部長・顧問、コーチ、監督



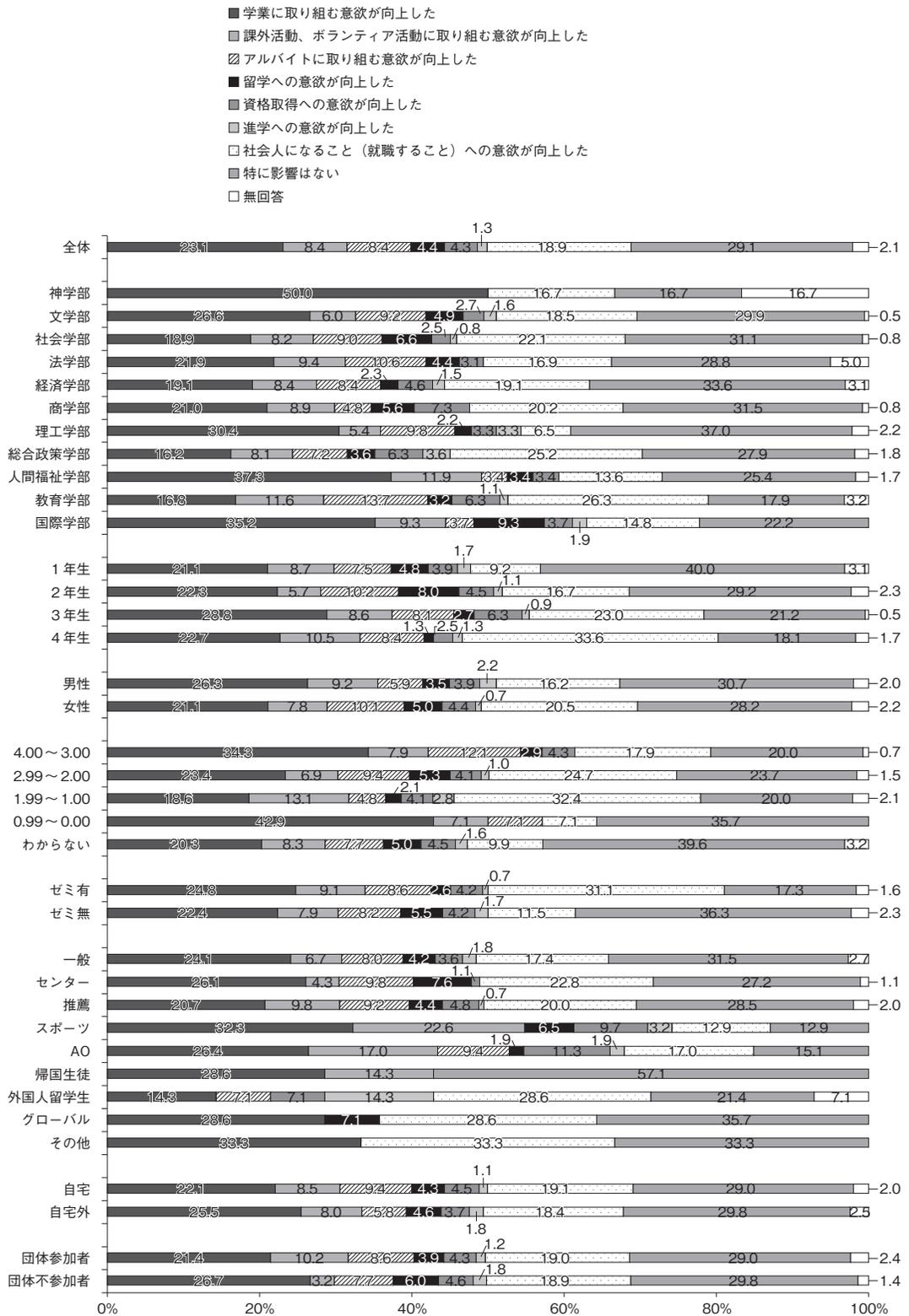
図Ⅱ-20-3 社会人とのコミュニケーション C アルバイト先の同僚や上司



図Ⅱ-20-4 社会人とのコミュニケーション D 学外での学習やサークルの先生・指導者や同僚



図Ⅱ-20-5 社会人とのコミュニケーションによる影響



## 21. 重視する暮らし方

### Summary

最も多い回答は「人間関係」であり、一番重視すると回答したカテゴリ（26.1%）でも、傾斜後の全体集計（24.6%）でも同様であり、次いで、「経済的豊かさ」「心身の健康」の順番であった。

Q16. 以下の1から9であげる暮らし方のうち、あなたが重視する順に3つを回答欄に書いてください。

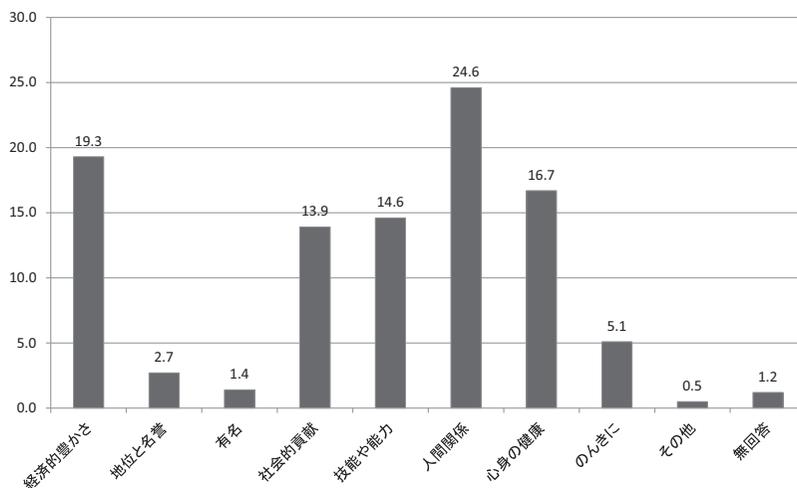
- 1 経済的により豊かなくらしをめざす
- 2 地位と名誉を手に入れたい
- 3 有名になりたい
- 4 社会の役に立つような事をする
- 5 自分の技能や能力を伸ばしていく
- 6 家族や友人といった人間関係を大切にしていく
- 7 心と体の健康を大切にする
- 8 あくせくせずに、のんきにクヨクヨしないでくらす
- 9 その他

第1位に挙げられた割合で最も高かったのは「家族や友人といった人間関係を大切にしていく」（以下「人間関係」）の26.1%（前回29.4%）である。前回報告書でも指摘があった通り、第14回調査以降、減少傾向にある。一方で、2番目に高かったのが「経済的により豊かなくらしをめざす」（以下「経済的豊かさ」）の21.5%（同20.3%）と第17回調査から上昇傾向にあり、「人間関係」との差が小さくなってきている。3番目は「社会の役に立つような事をする」（以下「社会的貢献」）の15.7%（同12.2%）であり、前回から順位は上昇した。

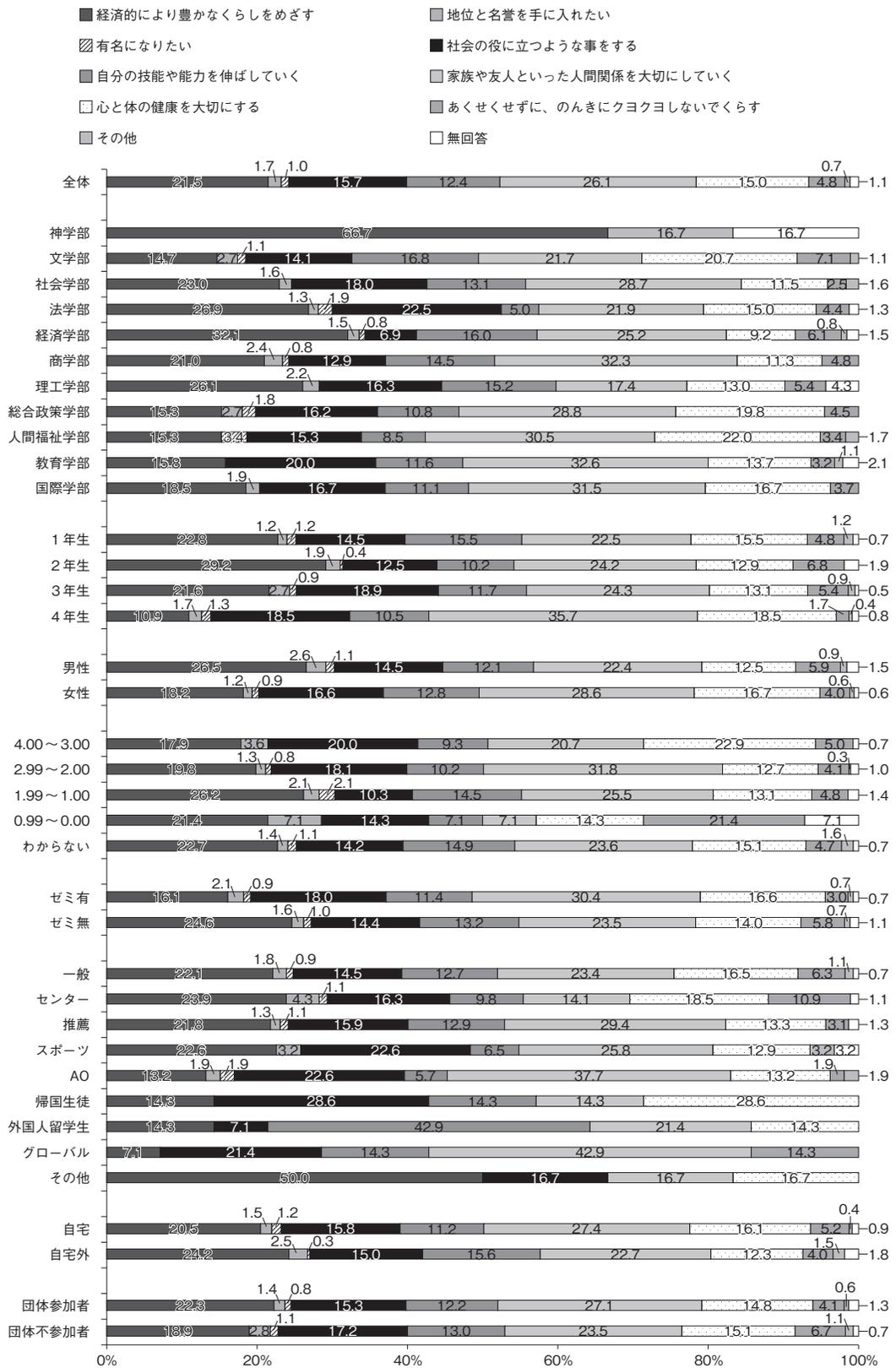
次に、今回の設問は重視する順に3つ回答欄に記載することから、最も重視する順にそれぞれ3倍、2倍、1倍と傾斜をかけ分析を行った（図Ⅱ-21-1）。その結果、上位の順位は、「人間関係」で24.6%、「経済的豊かさ」が19.3%、「心身の健康」で16.7%と傾斜配分前に第3位であった「社会的貢献」が第5位になっている。

図Ⅱ-21-1 重視する暮らし方（傾斜後）

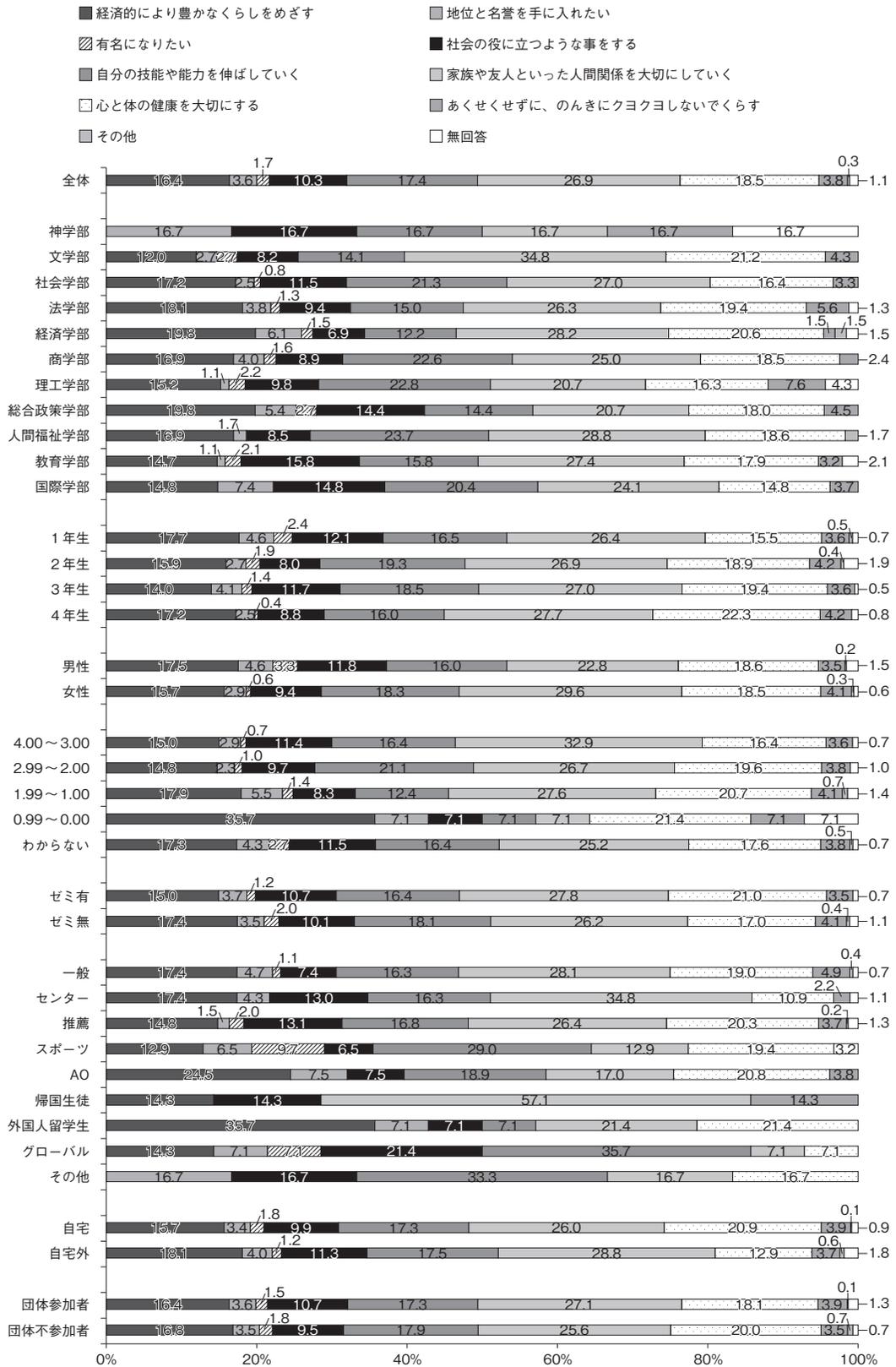
※もっとも重視する順にそれぞれ3倍、2倍、1倍と傾斜



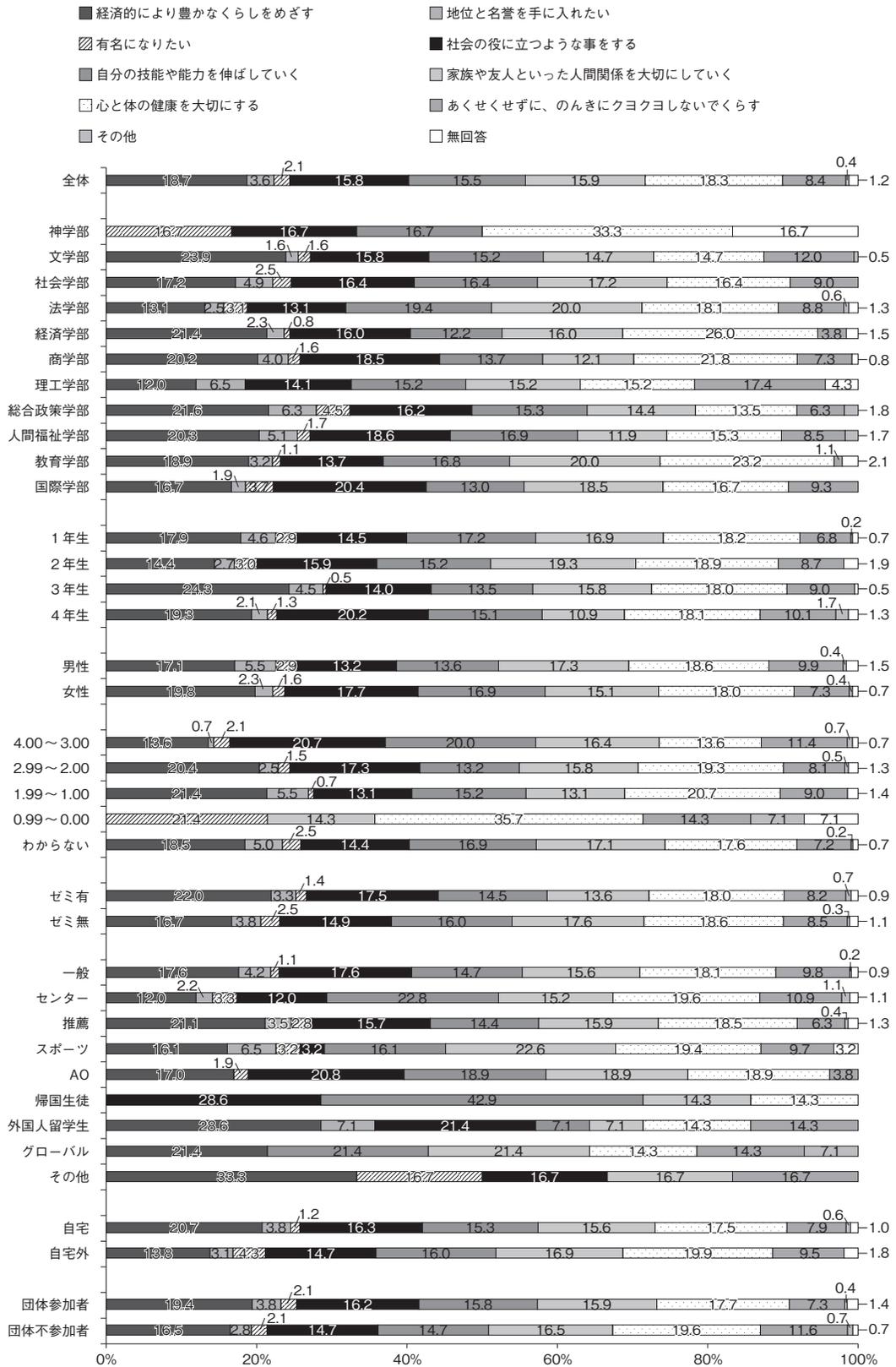
図Ⅱ-21-2 重視する暮らし方（第1位）



図Ⅱ-21-3 重視する暮らし方（第2位）



図Ⅱ-21-4 重視する暮らし方（第3位）



## 22. 学習の方法（情報・資料収集）

### Summary

すべての学部において、インターネットの無料サイト（ウィキペディアや質問サイトなど）を最も参考にして情報収集している学生が一定数おり、特に初年次の割合が最も高いことが明らかとなった。

Q17. あなたは授業でレポートの課題ができた場合、どのような手段を参考にして、情報や資料を集めますか。作成するにあたり、もっとも参考にしたものに、1つだけ○をつけてください。

- 1 インターネットの無料サイト（ウィキペディアや質問サイトなど）を参考にする
- 2 インターネット上にある関連論文・図書・新聞記事を参考にする
- 3 図書館が提供する Web データベースで関連図書・論文・新聞記事を参考にする
- 4 図書館に行って、関連論文・図書を参考にする
- 5 先生に話を聞きに行って、参考にする
- 6 友人や先輩に話を聞きに行って、参考にする

大学生にとって、学習活動に取り組むための情報収集は必須能力である。ここでは、(1) 学部と(2) 学年の観点から学生がどのようにして学習活動のための情報を収集しているのかを分析する。

近年のインターネット環境の発展により、レポート課題等に取り組む際に無料サイト（ウィキペディアや質問サイト）を最も参考にして学習活動に必要な情報収集を行う学生が一定数いることが明らかになった。本来ならば無料サイト（ウィキペディアや質問サイト）にある情報はレポート課題等に用いることができるものではないが、(1) 全ての学部において一定数の学生が無料サイトの情報を参考にしてきた。具体的には、理工学部が32.6%と最も多く、次いで人間福祉学部が30.5%であった。最も数値が低かったのは国際学部の5.6%で、それ以外の学部は約10%~20%であった。「インターネット上にある関連論文・図書・新聞記事を参考にする」割合がそれより高い学部が多いが、インターネット上にある情報の利用に関する教育の充実が必要になると考えられる。

インターネット上にある関連論文・図書・新聞記事の参考と図書館が提供する Web データベースでどちらをより利用するのかを比較した場合、目立った違いは見られなかった。Google Scholar や CiNii などの学術論文検索サイトが充実していることもあり、図書館の Web データベースを使わなくても検索できる情報はあることがわかる。

レポート課題等に取り組む際、最も「図書館に行って、関連論文・図書を参考にする」割合は、最も「インターネットの無料サイトを参考にする」割合と比べて大きな差は無い。つまり、図書館で文献を使って情報収集するよりもインターネットの無料サイトを使って情報収集をし、レポート課題を完成させる学生がいるということになる。図書館で行う本を使った情報収集とインターネットを使った情報収集では、情報の量や質に大きな違いがある。インターネットで時間をかけずに入手する情報と、じっくり課題の質を高めるために用いる情報を区別し、インターネットと図書館を活用することのできる力を育成する必要があると言える。

(2) 学年別で比較すると、インターネットの無料サイト（ウィキペディアや質問サイト）を最も参考にする学生の割合は1年生が最も高く、上位年次になればなるほど少なくなっていく。具体的には、1年生が25.4%、2年生が22.7%、3年生が17.1%、4年生が16.4%となっている。一方で、図書館で関連論文や図書を参照する割合は、学年が上がるにつれて高くなる。1年生で22.8%だった図書館利用の割合は2年生で26.1%、3年生で29.3%、4年生で32.8%となる。このことから、入学初